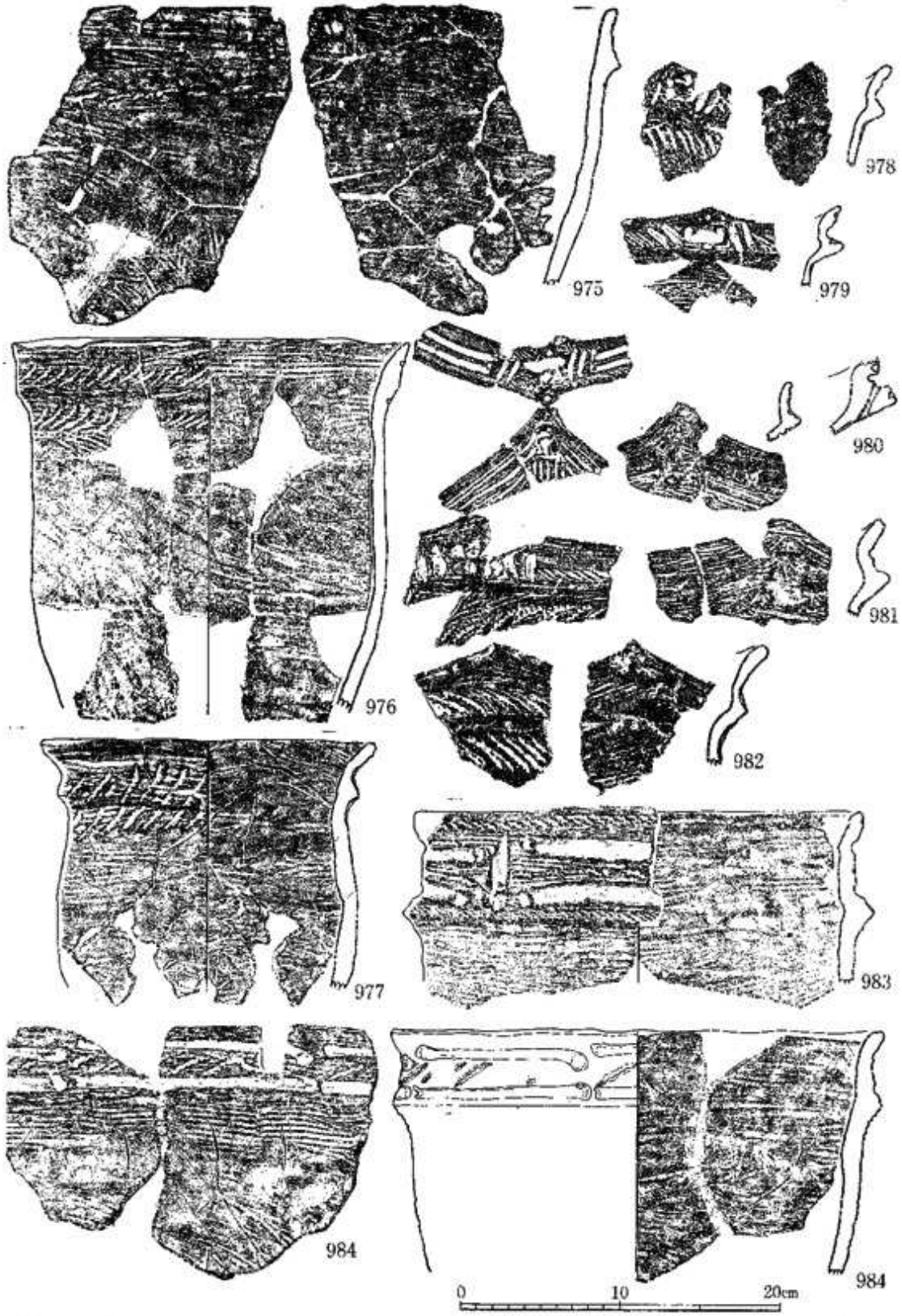
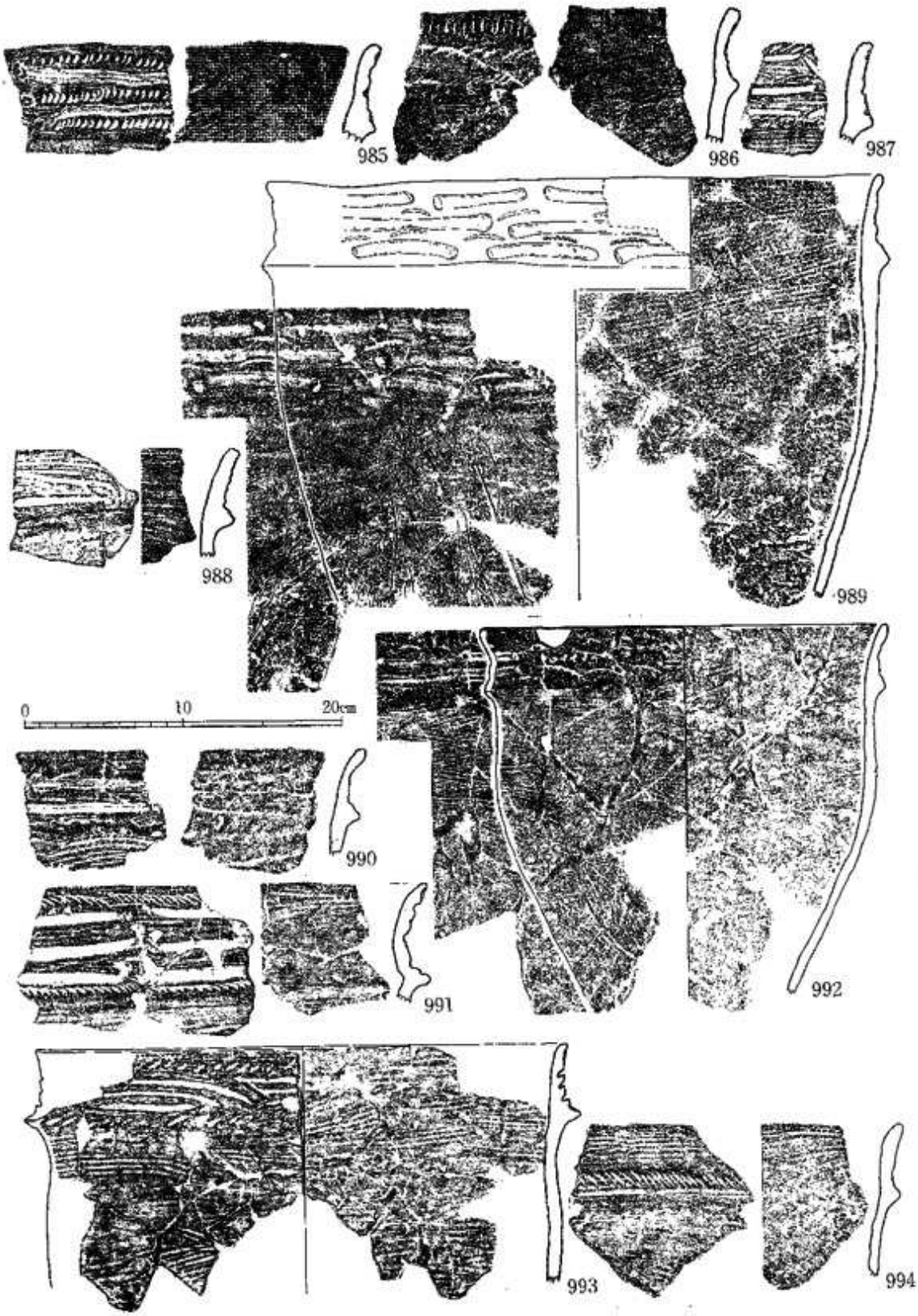


第105図　縄文土器実測図（45）　983～984 A地区　978 B地区　975～977・979～982 E地区



第106図　縄文土器実測図（46）　985～988 A地区　989～990・992 B地区　991・993～994 E地区

995～996・1002　A地区　　997・999～1000　B地区
998・1001・1003　E地区

第107図　縄文土器実測図（47）

Ⅷ類　器面調整や施文法などⅦ類ｄとの強い関連をうかがわせるが、Ⅶ類の特徴である口縁部文様帯の肥厚や逆「く」字形の屈曲などは全く見られないもので、外面のくびれ付近から口縁部が外傾または外反し、文様はこの付近に施されている。器形は、深鉢形のほかに壺形、鉢形などが見られる（1025～1077）。文様は、Ⅶ類ｃ・ｄで見られたパターン化された文様や貝殻腹縁の単純な連続刺突文などが施されるが、後者が圧倒的に多い。また、口縁部に粘土塊を張り付けたものや貝殻腹縁刺突文と沈線文を組み合わせたものなどもある。口縁部形態や施文状況によって大まかに次の２類に分けた。

ａ．1025～1026・1032・1034～1037。口縁部は、くびれ部分から上が比較的長く、そこにⅦ類ｄと殆ど同じ文様を施す。肥厚部分や屈曲が無いにもかかわらず、貝殻腹縁連続刺突文は上下２段に分けてあり、その間に１条のナデを巡らせたり（1036）、上の連続刺突文を強く施文してその下縁部分を低い段状にしたりして（1032）間隔を強調しているものもある。また、1025や1037のようにⅦ類ｄには見られない変則的な施文のものもある。

ｂ．1027～1031・1033・1038～1077。ａに比べると、文様は、くびれ付近に貝殻腹縁の単純な連続刺突文を１条巡らすものが殆どで、上下２段の文様帯を意識したものは見られない。また、くびれ部分から上の口縁部はａよりも比較的短いものが多く、くびれが殆どないものや強く外反するものなども見られる。貝殻腹縁の連続刺突文には、丁寧で規則的なものと粗雑で間隔の不規則なものとの二者がある。そのほか、口縁部にコブ状の突起や貼付文を付けるもの、貝殻腹縁刺突文と沈線文とを組み合わせた文様が胴部にまで及ぶものなども見られる。この類には、いわゆる「草野式」土器が見られる。

Ⅸ類　少量出土の土器のうち、磨消縄文（または擬似縄文）土器、磨研土器及びこれらとほぼ同時期の特徴を持つと考えられる土器などを便宜上一括した（1078～1117）。

このうち、1080～1083・1085～1102は、いわゆる「小池原上層式」～「鐘崎式」土器である。次の３類に分類できる。

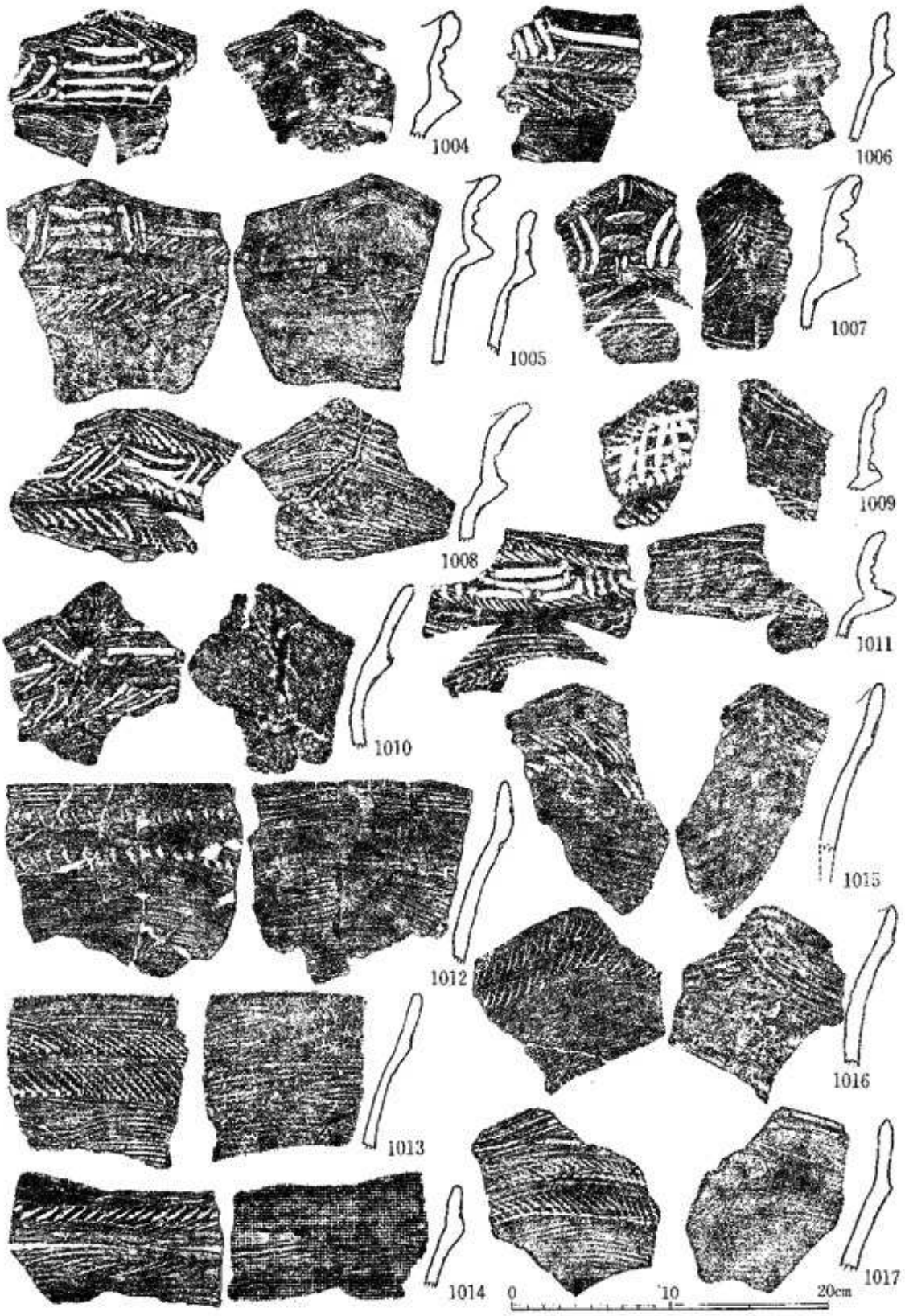
ａ．1080～1083・1085～1091・1099。幅広の縄文帯と太い沈線文、口縁部を巡る１条の沈線文や橋状把手などの諸特徴を持つもの。

ｂ．1092～1094・1098。沈線文間の幅が狭く、縄文帯も幅が狭いもの。

ｃ．1095～1097・1100～1102。沈線文のみを用いて縄文は殆ど見られないか、あるいは、雑な縄文が少し見られるもの。

このほか、1103～1109は、いわゆる「北久根山式」土器と同時期的な特徴を有する精製鉢形土器・深鉢形土器と思われる。また、1112～1113・1116～1117などは、器面調整が丁寧なナデまたはヘラミガキで、1117は、口縁端部と肩部に巻貝の連続押圧文と連続刻みが見られるものである。

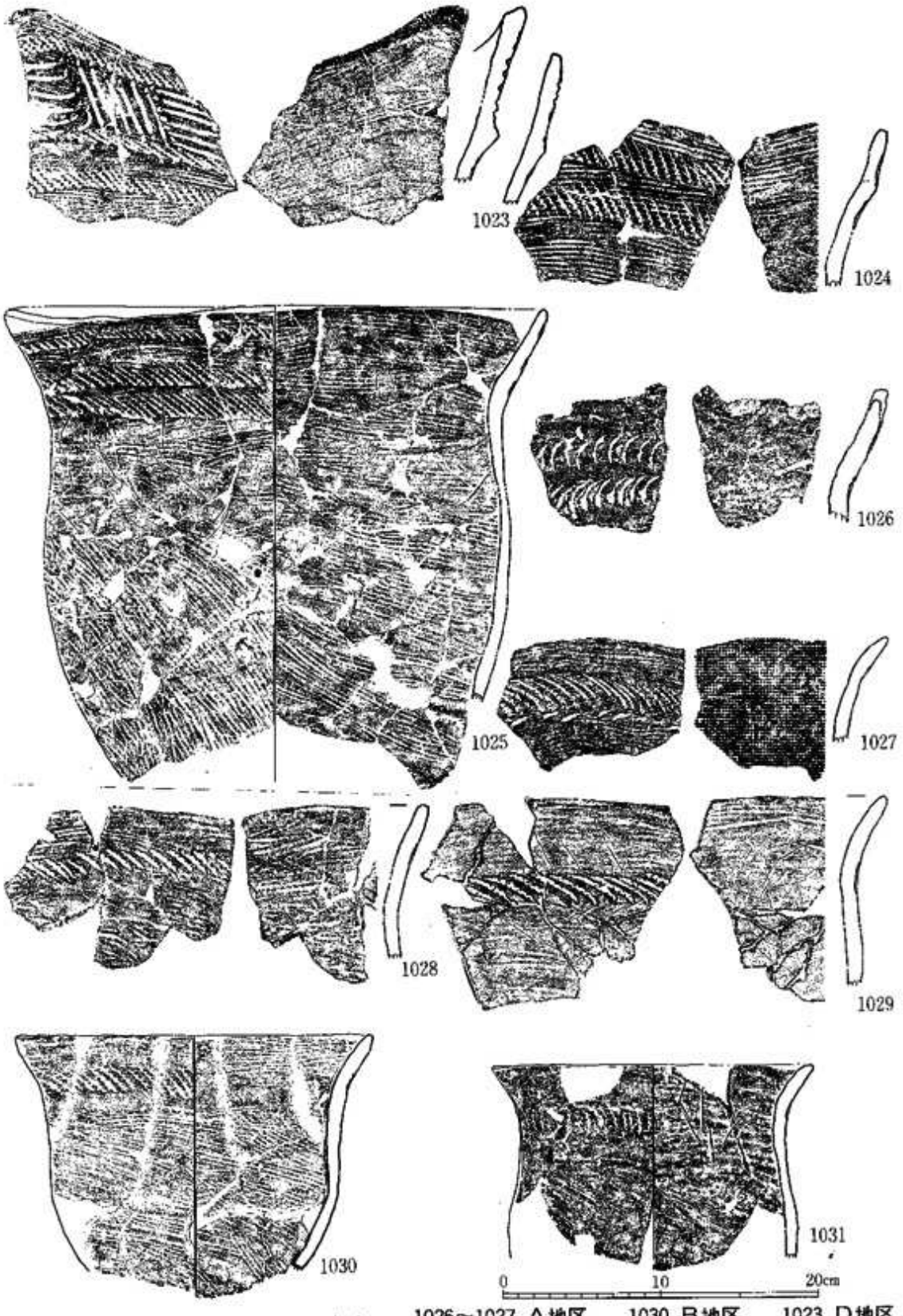
Ⅹ類　少量出土土器のうち、Ⅸ類以外の土器を便宜的に一括した（743・1118～1131・1133



第108図　縄文土器実測図 (48)

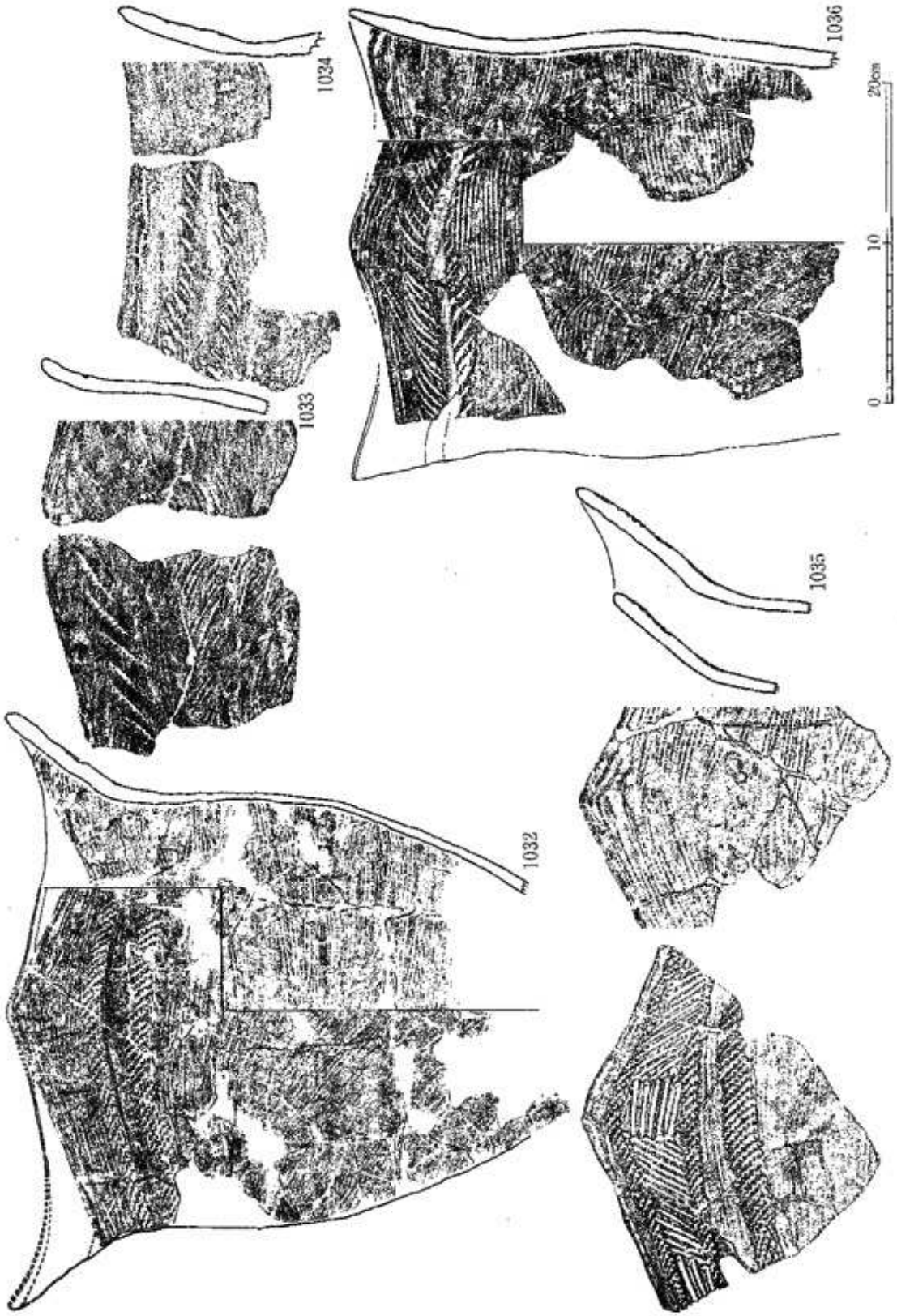
1005～1007・1012・1014・1016～1017 A地区
1008～1010・1013 B地区　1004・1011・1015 E地区

第109図　縄文土器実測図（49）　　1018～1021 B地区　1022 E地区

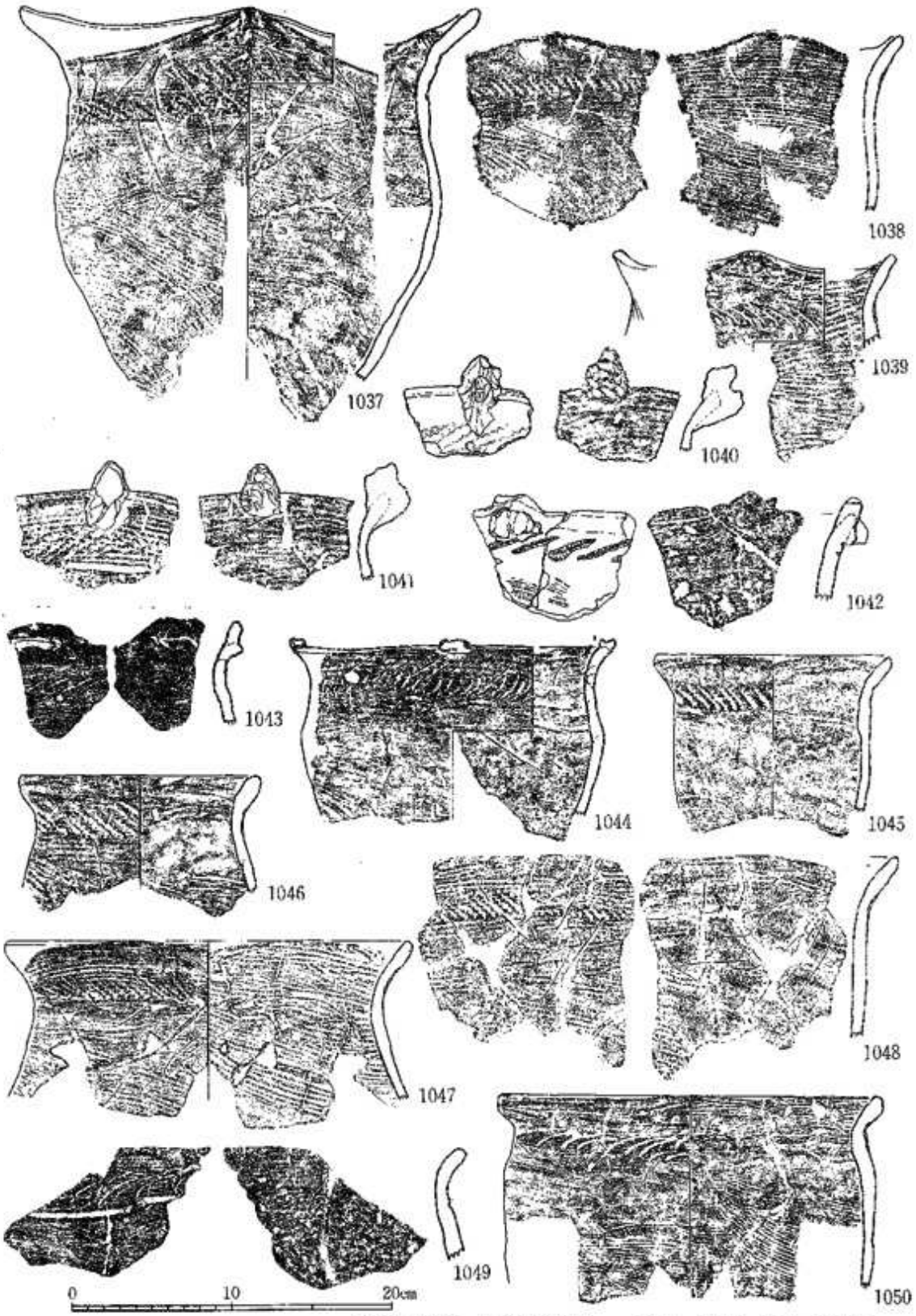


第110図　縄文土器実測図（50）

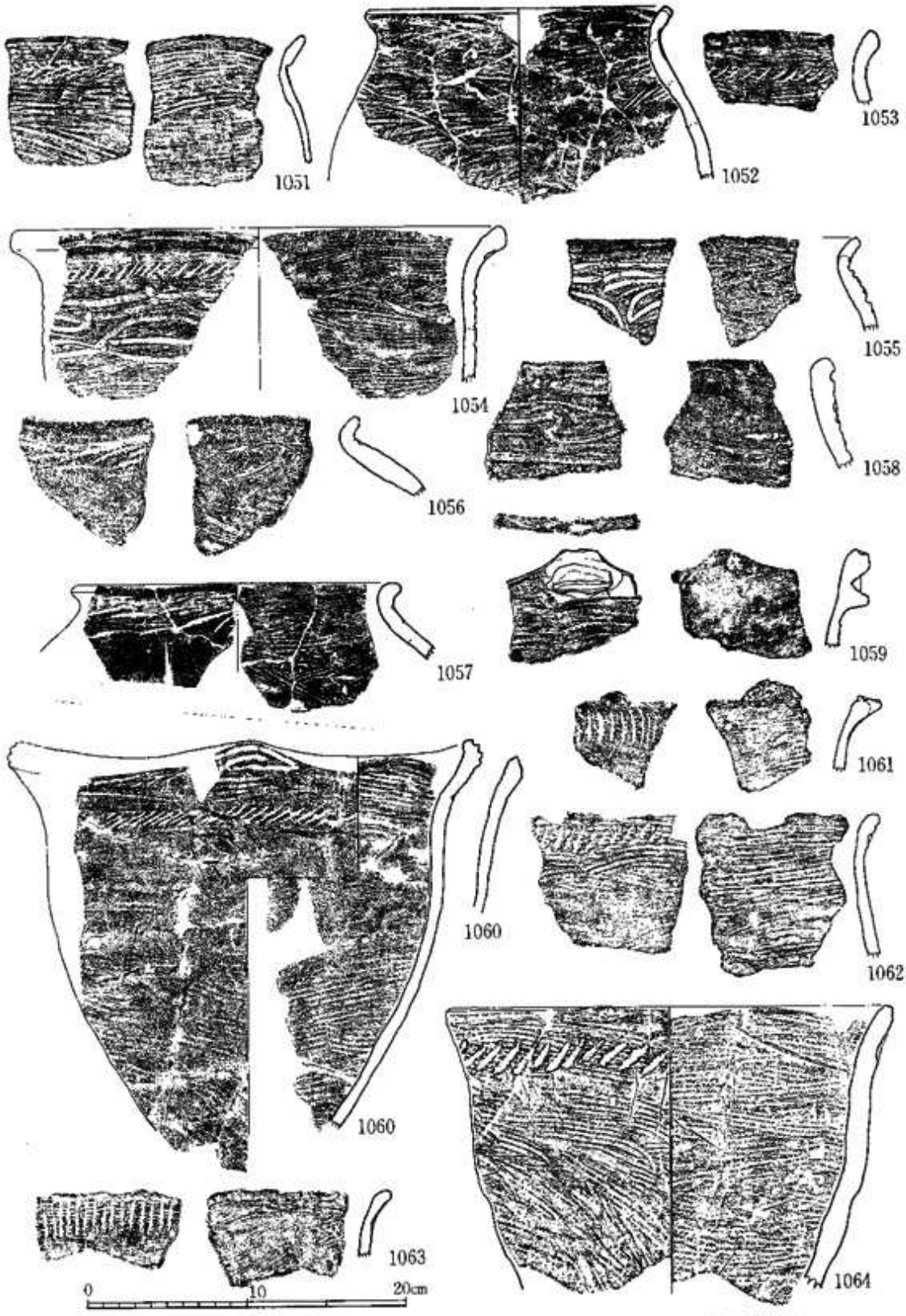
1026～1027 A地区　1030 B地区　1023 D地区
1024～1025・1028～1029・1031 E地区



第111図　縄文土器実測図（51）　　1033 A地区　1034 B地区　1032・1035～1036 E地区

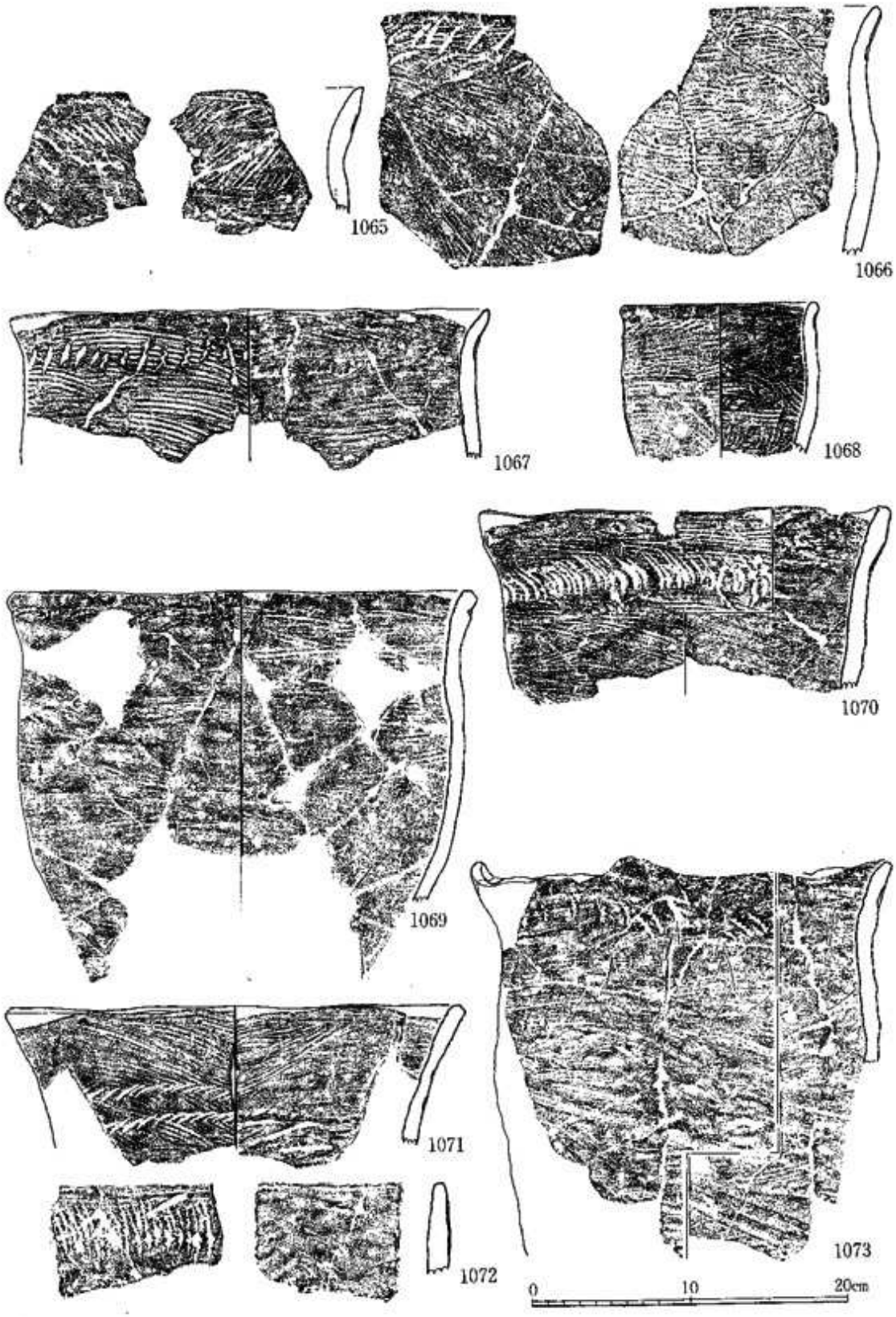


第112図　縄文土器実測図（52）　1040・1043・1046 A地区　1041・1045・1049 B地区　1044 D地区　1037～1039・1042・1047～1048・1050 E地区



第113図　縄文土器実測図（53）

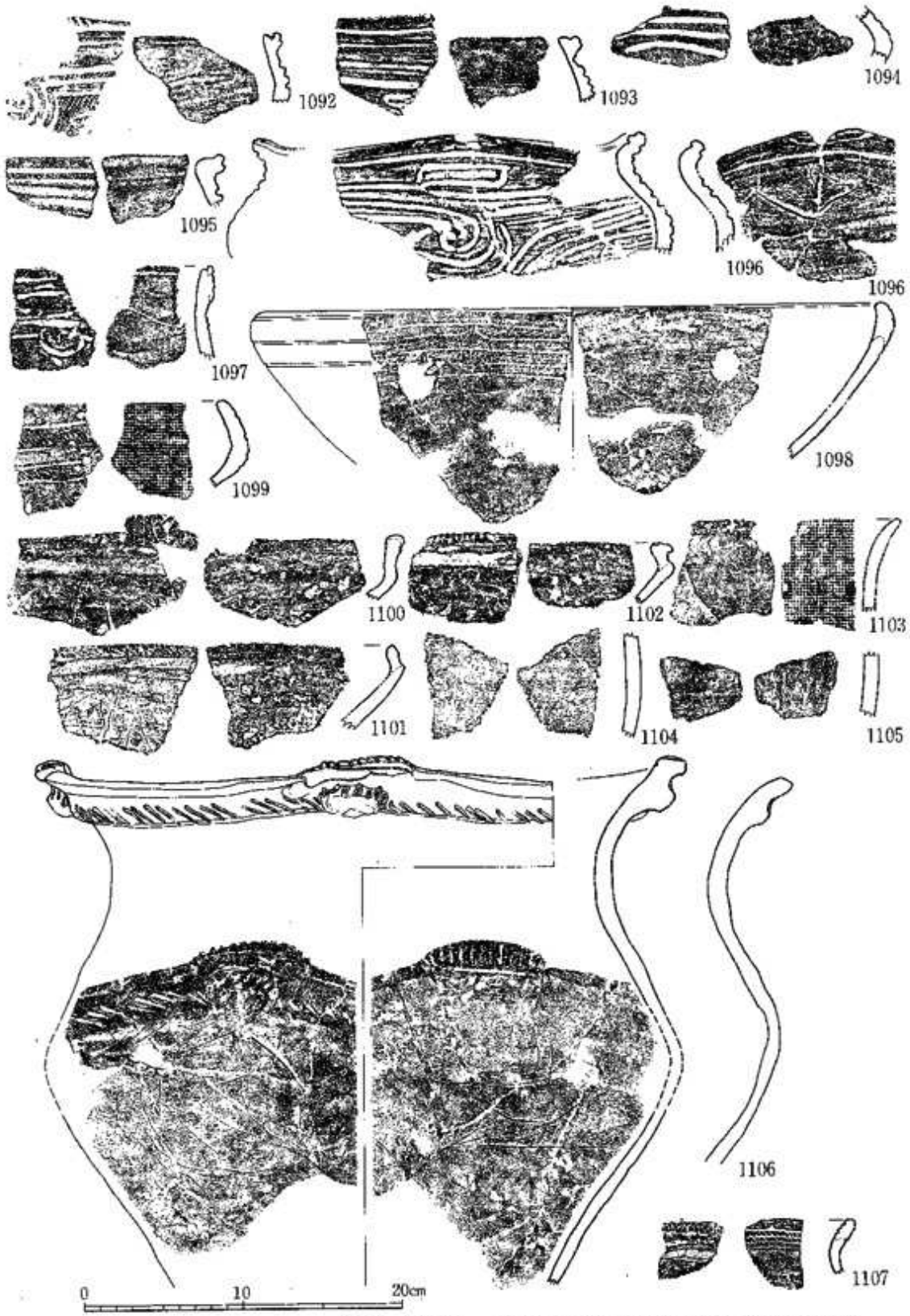
1051・1053・1058～1059・1061～1063　A地区
1056・1060　B地区　　1052・1054～1055・1057・1064　E地区



第114図　縄文土器実測図（54）　1072 B地区　1065～1071・1073 E地区

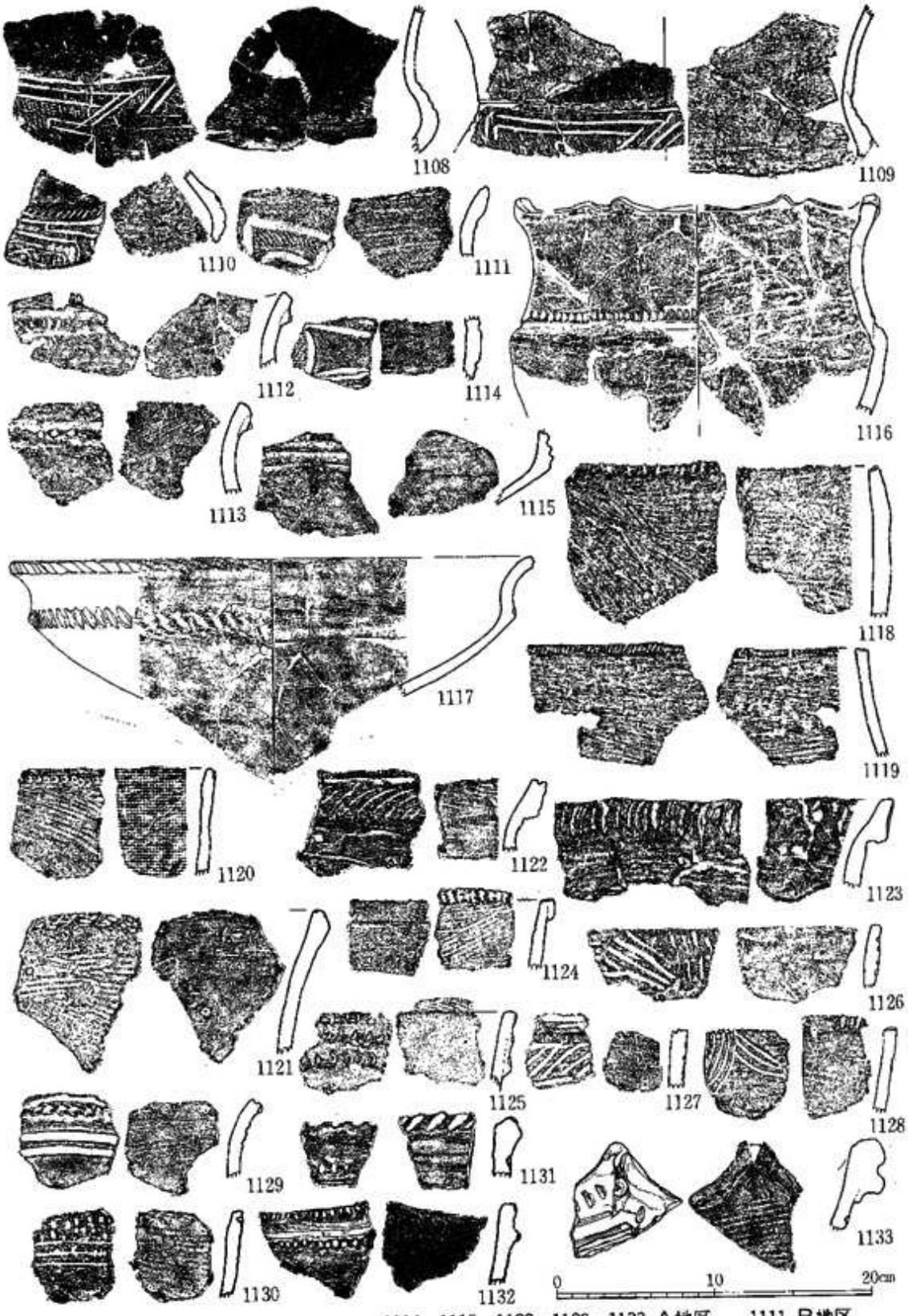
第115図　縄文土器実測図（55）

1074・1077・1079・1085・1087～1088　A地区　　1078・1090　B地区
1075・1081　D地区　　1076・1080・1082～1084・1086・1089・1091　E地区



第116図　縄文土器実測図（56）

1095 A地区　1092～1194・1100・1104～1105 B地区
1096～1097・1099 D地区　1098・1101～1103・1106～1107 E地区



第117図　縄文土器実測図（57）

1114～1115・1122・1126～1133 A地区　1111 B地区
1110・1116・1120～1121・1123 D地区
1108～1109・1112～1113・1117～1119・1124～1125 E地区

～1157・1168）。

このうち、1122～1125は口縁部文様帯の成形法がⅢ類にいくらか類似しており、この類に入る可能性がある。1135は、外面に幅広の口縁部文様帯を持つもので、いわゆる「縁帯文土器」に類似するものであろうか。また、1139は、口縁部文様帯の沈線文内にも連続刺突文を施すものである。1147は、内湾気味の口縁部に太めの縦沈線文を連続して施すもので、東臼杵郡北川町可愛遺跡など県北地方に時々見られるものである。1152は、口縁部内面がノミ状に尖り外面に貝殻腹縁の単純な連続刺突文を施す土器で、宮崎学園都市の平畑遺跡で見られたものと同類のものである。1153～1154の刻目突帯は、「出水式」や「御手洗A式」土器に類例がある。1155は、橋状把手を持つ壺形土器で、1156とともにⅧ類bに含まれるものかもしれない。1157は、滑石粉を多く含んだ唯一の土器で、刻みのある耳状の貼付文の中とその両側に計3か所の透かしを持つ。1168は貝殻腹縁刺突文を弧状に施文するものである。

Ⅸ類　無文土器は特徴に乏しいため、便宜的にこの類に一括した（1158～1165・1169～1172・1178・1182～1187）。

このうち、1164～1165は、Ⅷ類bに色調や調整などが似ている。また、1170～1172など、外面口縁部の下部が若干くびれるもので、1183～1186は、外傾し直口する口縁部に粘土の突帯や貼付文などが見られる土器である。

脚台付浅鉢（1188～1224）

浅鉢形土器に脚台が付くものである。浅鉢部分の内面は、沈線文や貼付突帯文、刺突文などで、また、脚台部分も沈線文や透かし、刺突文や赤色顔料などで装飾されているものが多い。1200のようにⅦ類土器の口縁部形態に類似するものもあるが、殆どはどの時期の土器に伴うのか不明であるため、ここでは一括して扱った。

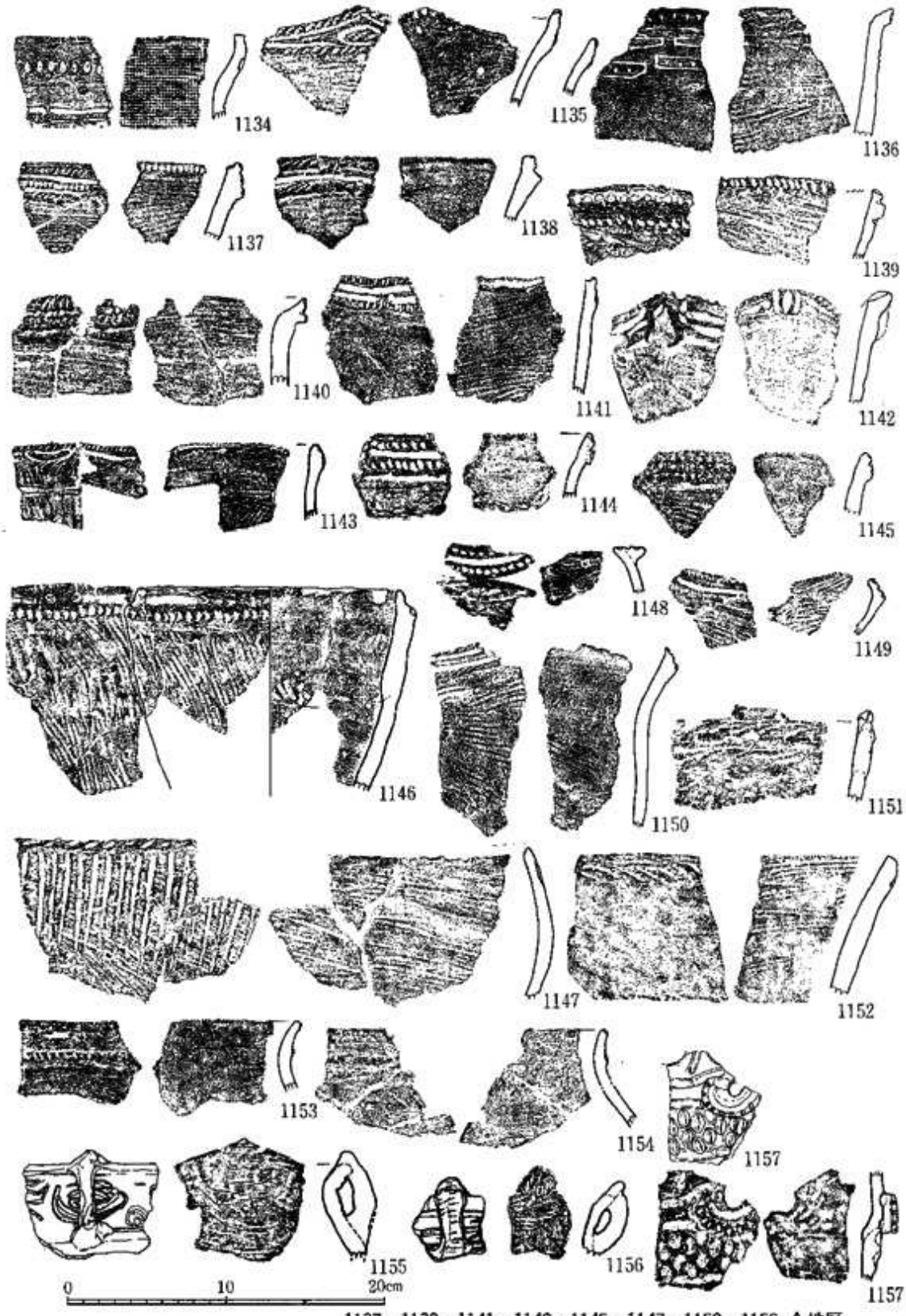
底　部（1225～1255）

底部までわかる完形の土器があまり出土していないので、上記のどの類の土器にどの底部が対応するのか不明である。ここでは、一括して取り上げ、立ち上がりの特徴で次のように分けた。

底面から真っすぐに立ち上がるもの（1225～1241）、底面が外へ張り出してその上部が若干くびれているもの（1242～1254）、小さな底面から大きく開いて立ち上がるもの（1255）などが見られる。1255は、ごく浅い沈線文で装飾された鉢形土器または浅鉢形土器の底部と考えられる。

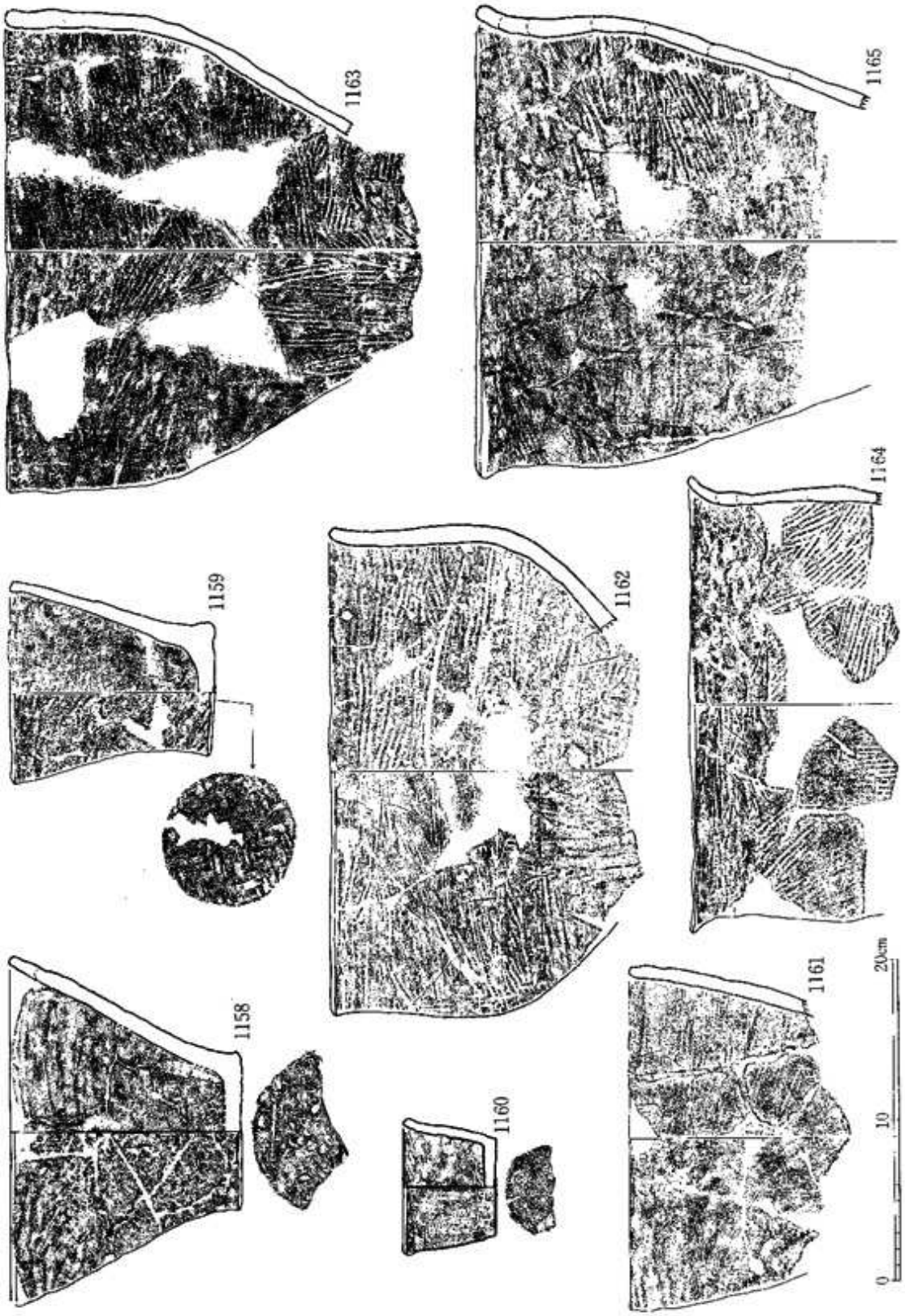
(6)　土器片錘

土器片を加工した切目錘は、6個出土した（第126図1～6）。これらは、長軸の両端に切目を入れたもので、宮崎市平畑遺跡でA類とされたものである。いずれも深鉢形土器の胴部片を用いている。平畑遺跡での各平均値は長軸3.7cm、短軸2.8cm、重さ10.8gであったの

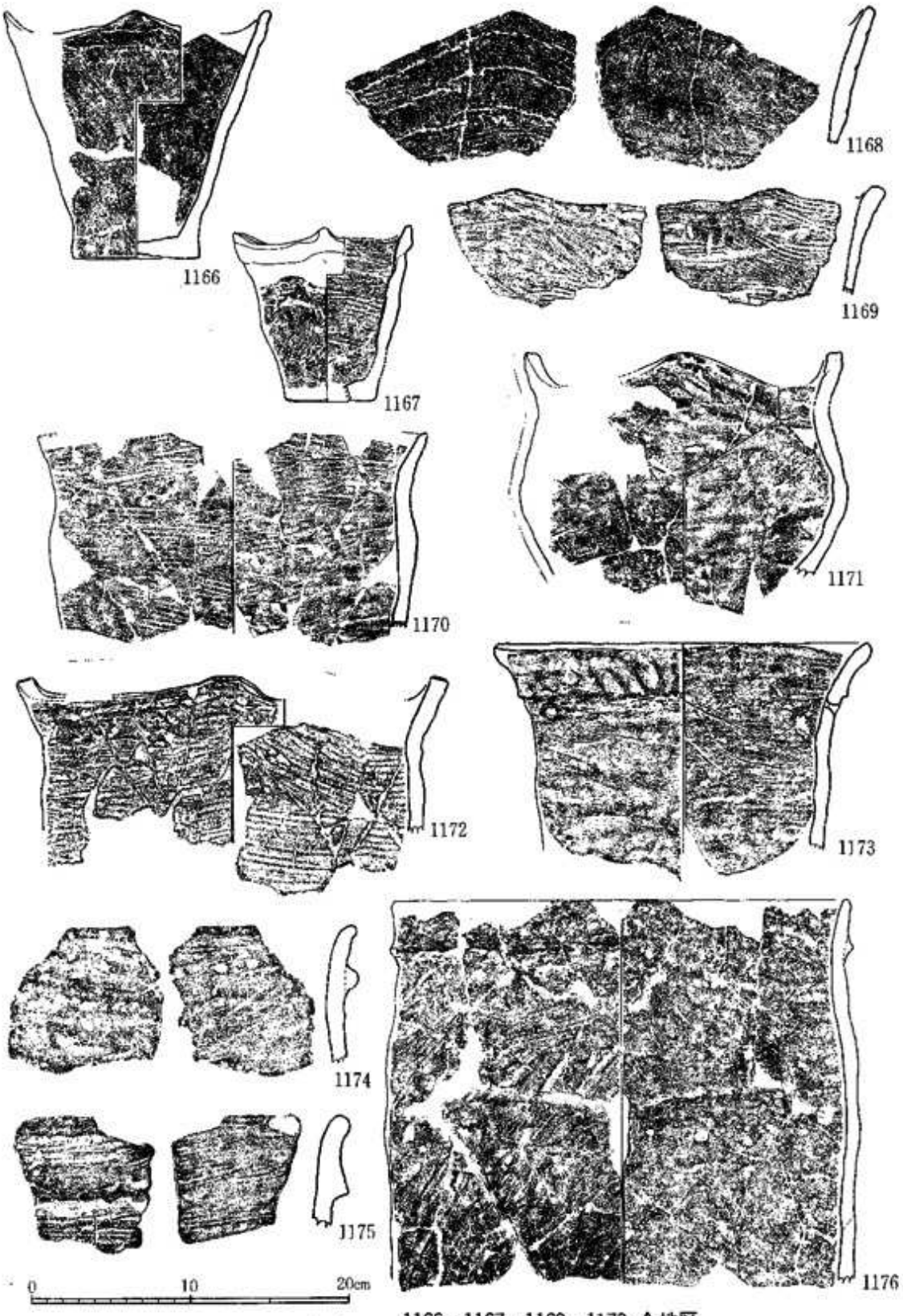


第118図　縄文土器実測図（58）

1137～1138・1141～1142・1145～1147・1152・1156 A地区
1136 B地区　1141・1143～1144・1151 D地区
1134～1135・1139～1140・1148～1150・1153～1155・1157 E地区

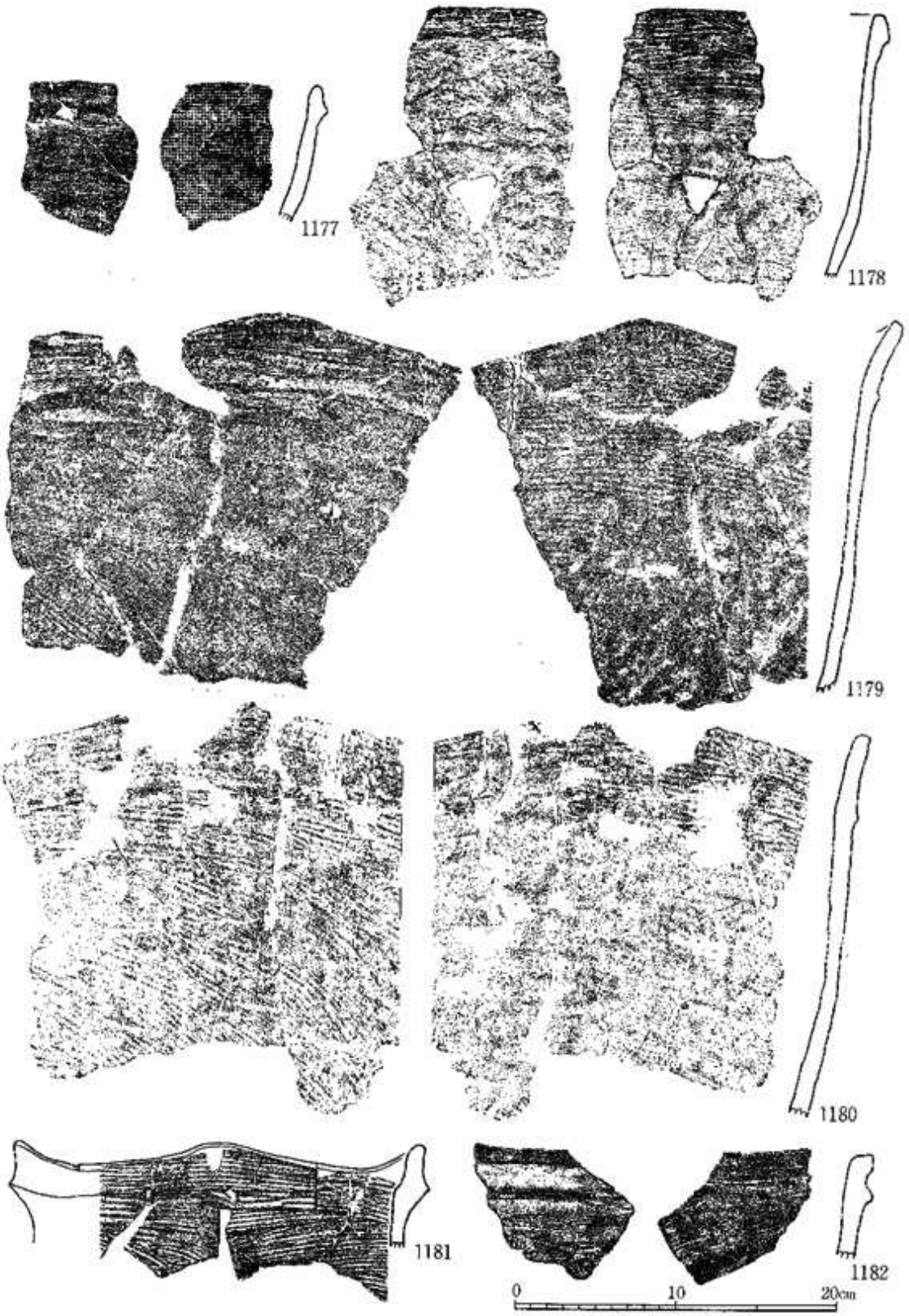


第119図　縄文土器実測図 (59)　1159～1162 A地区　1163 B地区　1158・1164～1165 E地区

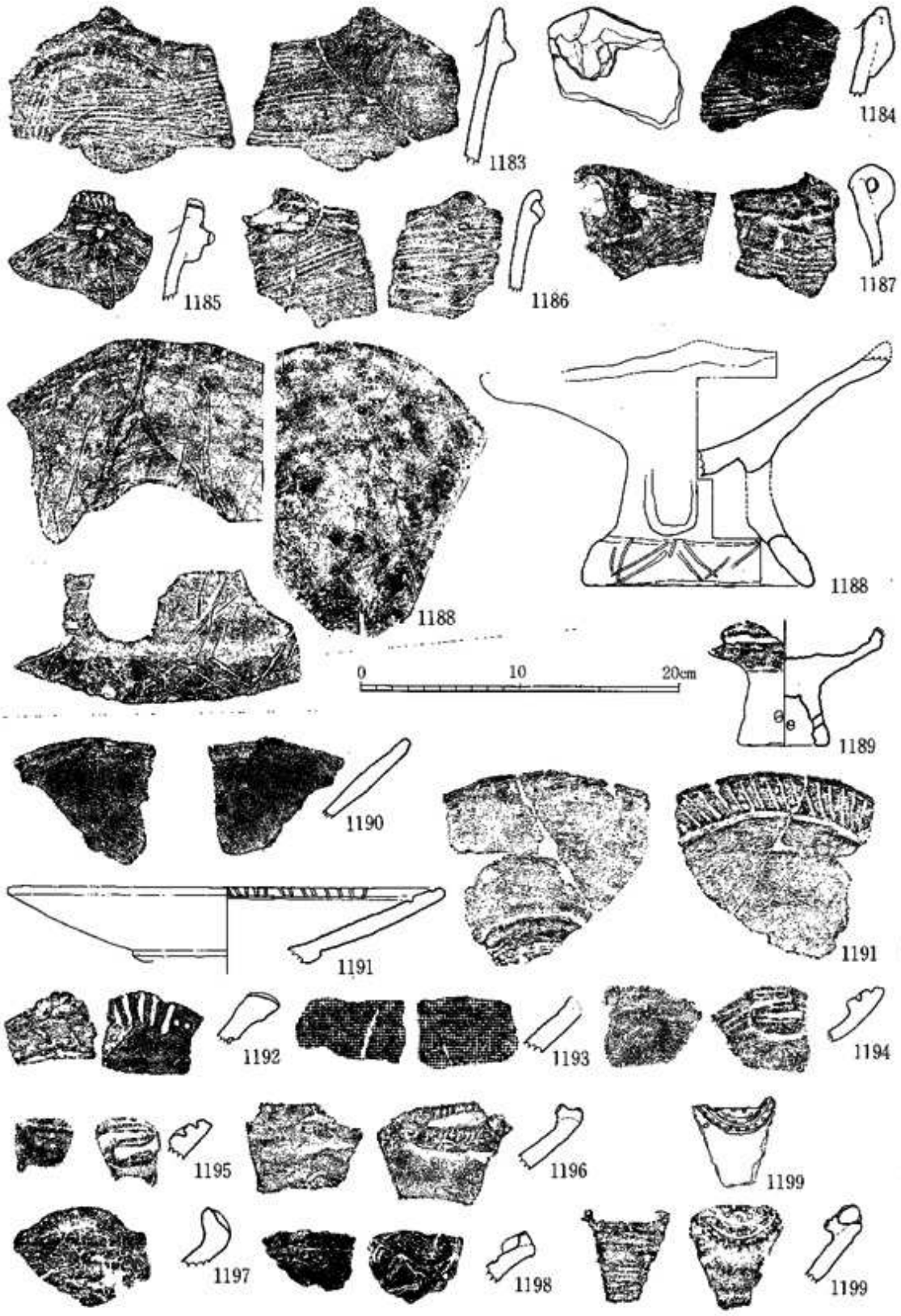


第120図　縄文土器実測図（60）

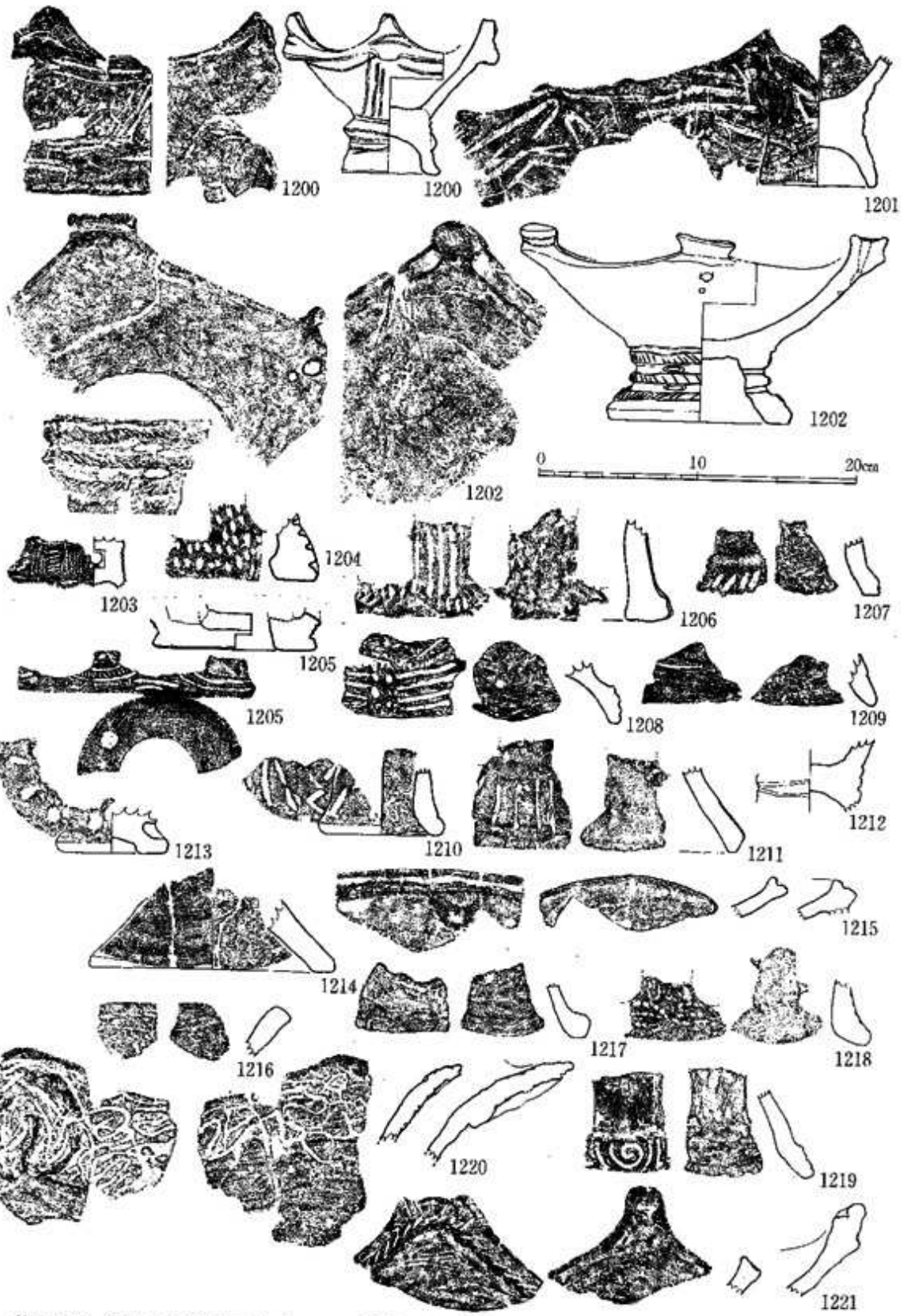
1166～1167・1169・1173　A地区
1168・1174～1176　B地区　　1170～1172　E地区



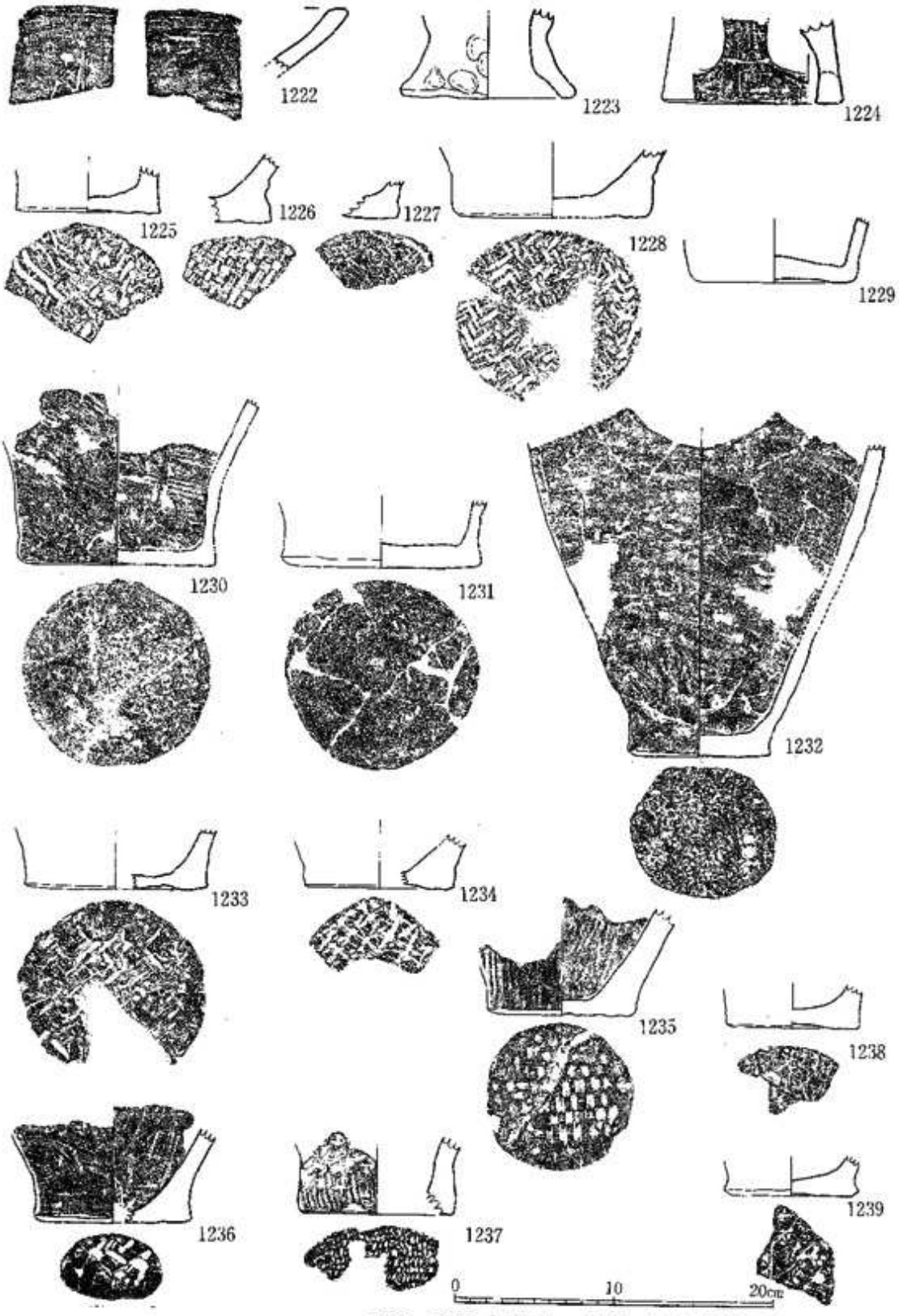
第121図　縄文土器実測図（61）　1177・1181～1182 A地区　1179 B地区　1178・1180 E地区



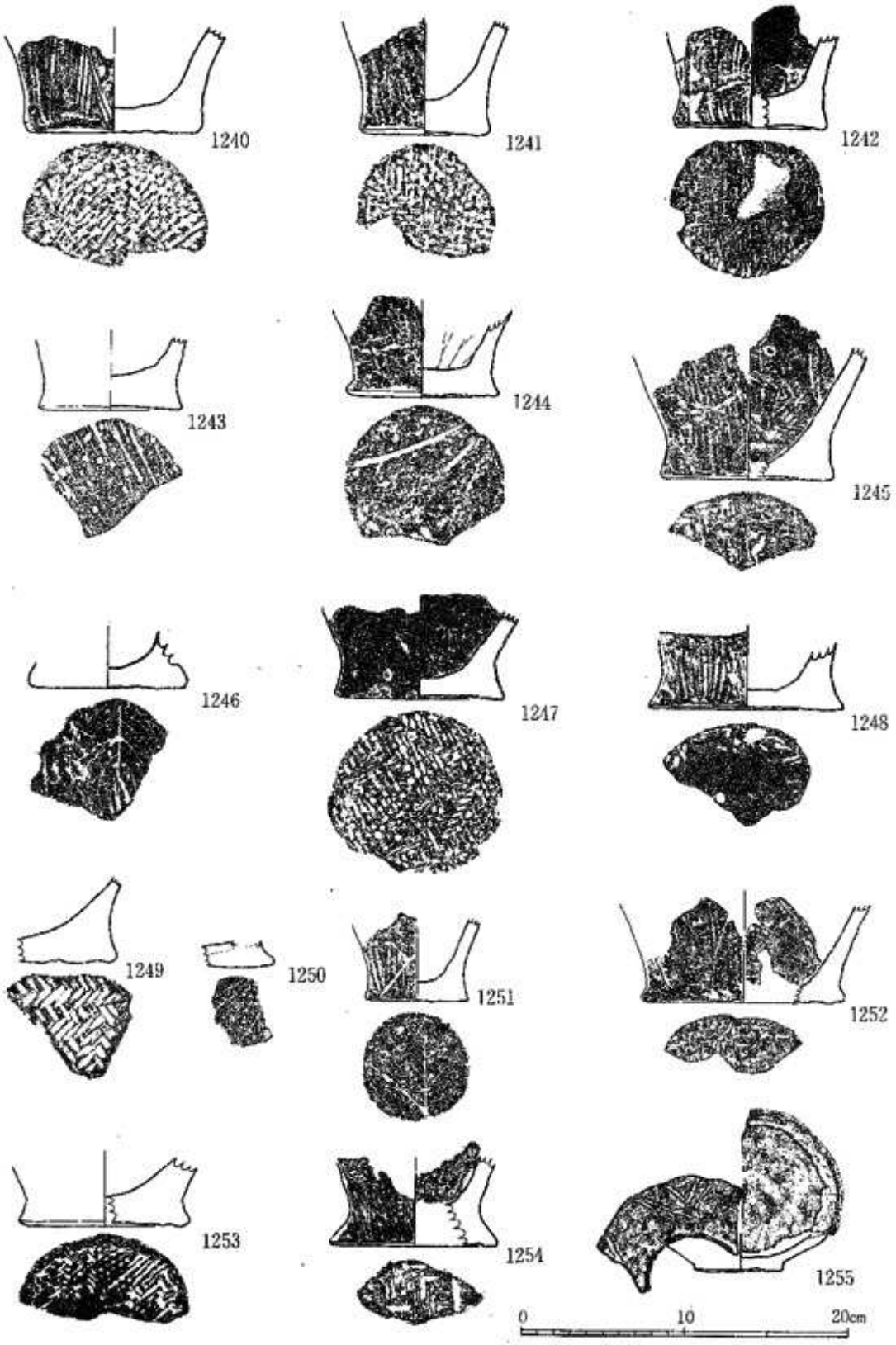
第122図　縄文土器実測図（62）　1183～1186・1188～1194・1196～1199 A地区　1187・1195 B地区



第123図　縄文土器実測図（63）　1203～1214 A地区 1220～1221 E地区　1200～1202・1215～1219 B地区



第124図　縄文土器実測図 (64)　1225～1228 A地区　1229～1236 B地区
1224・1237～1238 D地区　1222～1223・1239 E地区



第125図　縄文土器実測図（65）　1242～1250 A地区　1251～1255 B地区　1240～1241 E地区

に対し、当遺跡での各平均値は、長軸3.8cm、短軸2.9cm、重さ12.8gである。

それぞれの内訳は表2のとおりである。

表2　土器片錘計測表

番号	出　土　地　点	長径(cm)	短径(cm)	厚み(cm)	重量(g)	備　考
1	A地区i-8包含層	3.8	2.1	1.0	12.0	住居跡付近
2	A地区j-3包含層	4.6	3.0	0.9	17.4	ピット群付近
3	D地区b-8包含層	3.5	3.4	0.9	12.2	土器密集区
4	B地区SA6南西区	3.7	2.3	0.7	9.0	方形プラン
5	B地区o-32包含層	3.9	4.2	0.9	17.7	SA5南側
6	E地区土器密集区	3.0	2.5	1.0	8.3	南東端部

(7) **土器片加工円盤**（第126，127図）

土器の口縁部・胴部・底部などの部位の縁部を加工して楕円形や円形に整形している。整形の方法としては丁寧な面取りと打ち欠きがあるが、多くのものは打ち欠きで整形している。

当遺跡において989点出土しており、内訳は土器密集区が466点（47.1%）、A地区が301点（30.4%）、B地区が208点（21.0%）、C地区が14点（1.4%）である。住居などの遺構からはわずか96点（9.7%）であり、土器密集区が半数近くを占めている。重さは表5の棒グラフによると4.0～115.0gに分布しているが、14～27gに集中しており、特に18～23gに集中している。重量の平均は24.5gである。

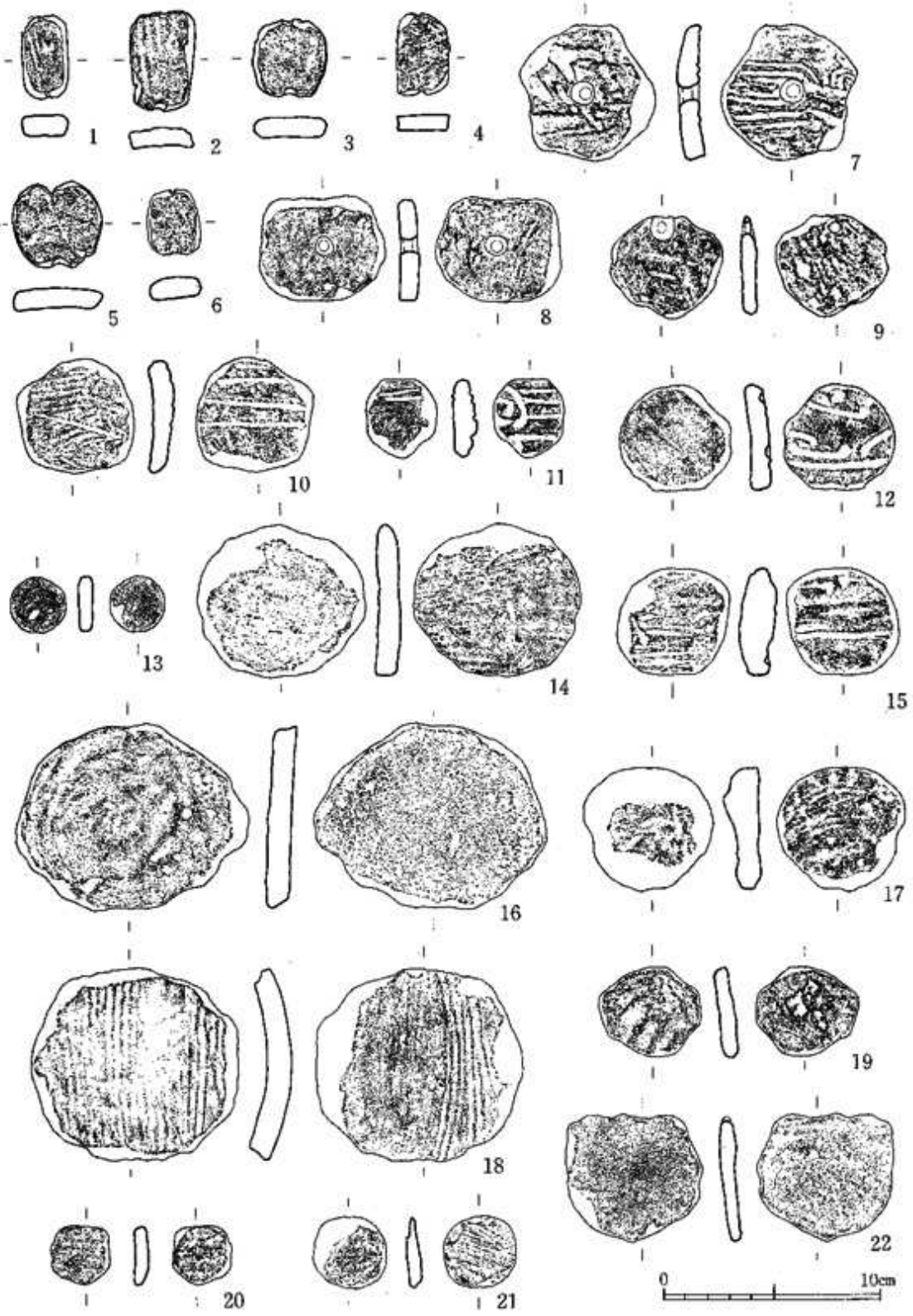
土器片加工円盤に利用している土器の部位は915点（92.4 %）と胴部片が多く、口縁部は57点（5.8%）、底部は18点（1.8%）である。無文は416点（42.1%）、貝殻条痕は396点（40.0%）、文様は177点（17.9%）であり、無文と貝殻条痕のものが多く利用されている。

7～9は穿孔を1個有する土器片加工円盤で、7・8が中央部に孔径0.9cmの両側穿孔を施しているのに対して、9は中央上部の縁に孔径1.1cmの両側穿孔を施している。

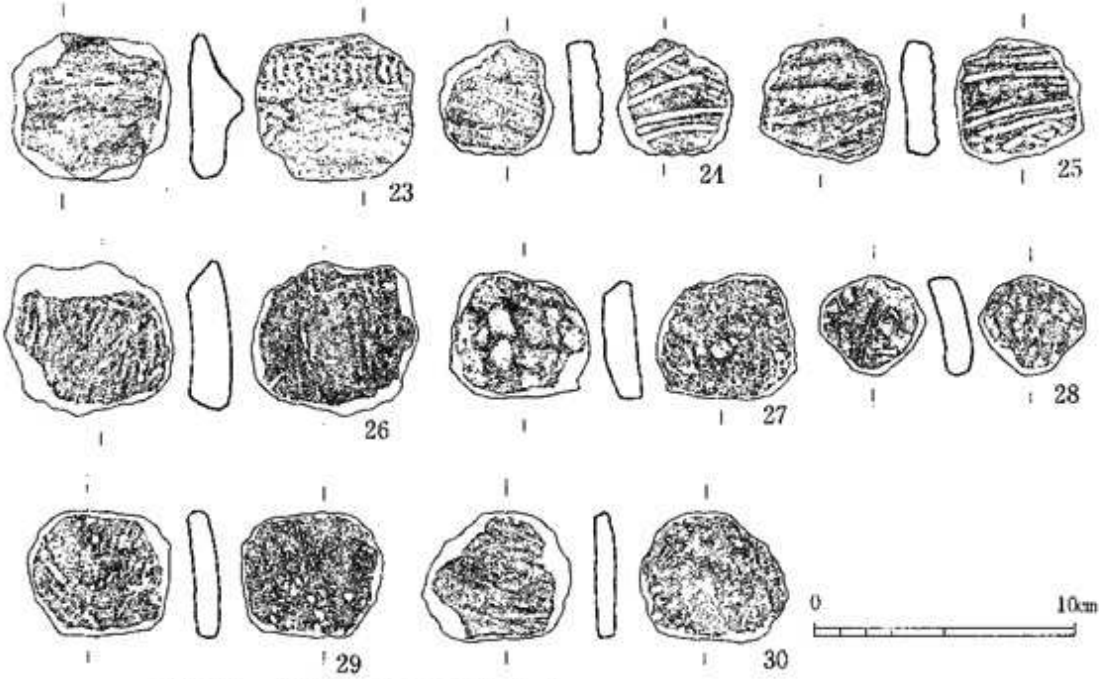
土器片加工円盤の計測と重量は表3と表4のとおりである。

(8) **石器**

石器は203点出土した。その内訳は磨製石斧64点（31.5%）、磨石57点（28.0 %）、石錘18点（8.9%）、敲石16点（7.9%）、石皿14点（6.9%）、打製石鏃12点（5.9%）、台石9点（4.4%）、のみ状石器4点（2.0%）、石刀2点（1.0%）、その他7点である。石器組成の特徴としては、磨製石斧が多く扁平打製石斧は全く出土していない点、磨石の量が多い点、石錘では切目石錘の割合が高い点などである。石器はA地区が92点（45.3%）、土器密集区が64点（31.5%）、B地区が42点（20.7%）、C地区が4点（2.0%）出土しており、A地区のSA1・SA2・SA3周辺で特に出土している。遺構としてはA地区SA3から



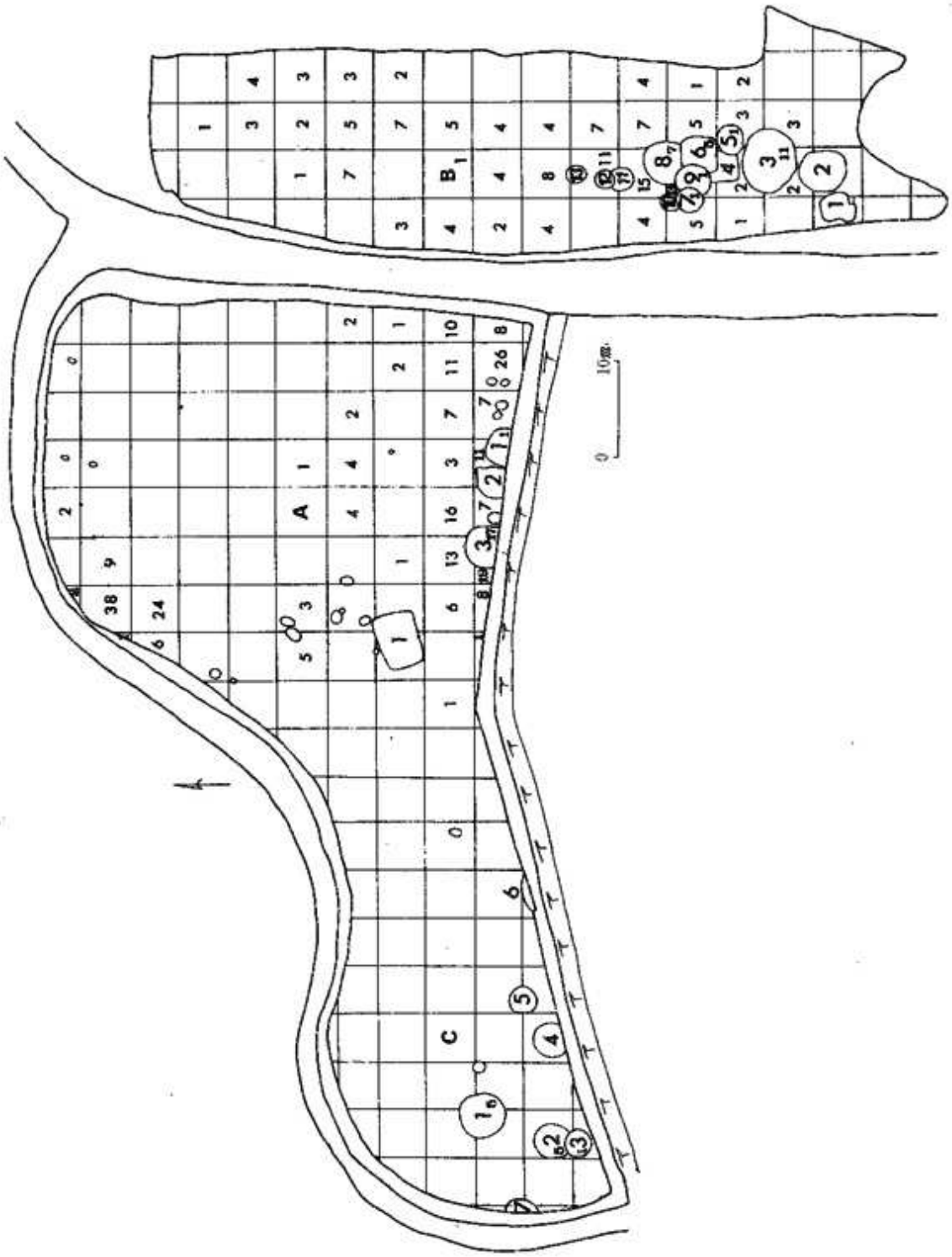
第126図　土器片加工品実測図（1）



第127図　土器片加工品実測図（2）

表3　土器片加工円盤計測表

番号	出土地区	幅（cm）	長さ(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	部位	文様	備考
7	E	6.2	6.2	1.0	34.0	口縁	細い沈線	穿孔
8	E	5.8	4.8	0.9	27.0	胴部	ナデ	穿孔
9	E	5.1	4.7	0.7	17.8	胴部	ナデ	穿孔
10	A，SA2	5.2	5.3	1.0	31.8	口縁	細い沈線	
11	A，b－8	3.2	3.6	1.0	13.0	口縁	沈線	
12	B，c－32	5.1	4.8	0.9	28.3	胴部	沈線、刺突文	
13	A，a－8	2.5	2.5	0.6	5.0	胴部	ナデ	
14	B，j－32	7.2	6.8	1.0	68.5	胴部	条痕、ナデ	
15	D，a－7	5	4.9	1.6	41.0	口縁	沈線、刺突文	
16	A，c－9	10.6	8.4	1.0	106.0	底部	ナデ、指頭痕	
17	A	5.9	5.5	1.6	47.5	底部	ナデ	
18	A，i－7	9.5	8.9	1.1	110.0	胴部	ナデ、条痕	
19	A，j－3	4.7	4.1	0.8	16.0	底部	ナデ、指頭痕	
20	A，j－4	2.6	2.7	0.6	5.0	胴部	条痕	
21	B，e－33	3.3	3.7	0.6	6.5	口縁	ナデ、条痕	
22	B，n－30	6.2	5.9	0.7	32.0	口縁	刻目	
23	E	6.0	5.5	2.0	66.0	口縁	貝殻刺突文	
24	E	4.3	4.3	1.2	24.7	胴部	浅沈線	
25	E	4.8	4.8	1.3	31.9	口縁	沈線	
26	E	6.3	5.9	1.6	63.8	胴部	条痕	
27	E	5.2	4.8	1.2	30.0	底部	ナデ、指頭痕	
28	E	4.0	3.8	1.0	15.8	胴部	ナデ	
29	E	5.4	4.8	0.9	20	胴部	ナデ	
30	E	5.5	4.8	0.7	24.2	胴部	ナデ	



第128図　土器片加工円盤分布図

地区 / 重量(g)	A	B	C	D•E	計	地区 / 重量(g)	A	B	C	D•E	計
0～	0	0	0	0	0	29	5	3	0	12	20
1	0	0	0	0	0	30	6	4	0	21	31
2	0	0	0	0	0	31	5	2	0	12	19
3	0	0	0	0	0	32	8	5	0	6	19
4	1	0	1	0	2	33	2	0	0	8	10
5	3	0	0	1	4	34	3	1	0	6	12
6	3	1	1	4	9	35	2	1	0	4	7
7	5	1	0	2	8	36	5	0	0	5	10
8	5	2	1	4	12	37	2	3	0	5	10
9	4	5	0	2	11	38	4	0	0	2	6
10	6	7	0	4	17	39	6	2	0	7	15
11	5	5	0	4	14	40	4	1	0	4	9
12	4	7	0	14	25	41	5	2	0	3	10
13	6	6	0	8	20	42	4	0	0	5	9
14	18	11	2	16	47	43	2	2	1	4	9
15	7	8	0	13	28	44	2	0	0	2	4
16	11	11	1	27	50	45	1	0	0	0	1
17	10	4	0	14	28	46	0	0	1	2	3
18	18	6	1	14	39	47	2	1	0	1	4
19	12	9	0	32	53	48	1	1	0	1	3
20	15	14	0	32	61	49	0	2	0	4	6
21	10	12	0	16	38	50	1	2	0	0	3
22	11	12	1	27	51	51	1	0	0	0	1
23	12	6	0	22	40	52	3	0	0	0	3
24	13	12	1	21	47	53	0	0	0	1	1
25	10	5	0	19	34	54	1	0	0	1	2
26	13	13	1	22	49	55	0	0	0	1	1
27	9	5	0	15	25	56	0	0	0	0	0
28	10	12	0	8	30	57	0	0	0	0	0

表4－1　土器片加工円盤重量表（1）

地区 / 重量(g)	A	B	C	D•E	計	地区 / 重量(g)	A	B	C	D•E	計
58～	0	0	0	0	0	87	0	0	0	0	0
59	0	0	1	1	2	88	0	0	0	0	0
60	1	0	0	0	1	89	0	0	0	0	0
61	0	0	1	2	3	90	0	0	0	0	0
62	1	0	0	1	2	91	0	0	0	0	0
63	1	0	0	1	2	92	0	0	0	0	0
64	1	0	0	0	1	93	0	0	0	0	0
65	0	0	0	0	0	94	0	0	0	0	0
66	1	0	0	1	2	95	0	0	0	0	0
67	0	0	0	0	0	96	0	0	0	0	0
68	0	1	0	0	1	97	0	1	0	0	1
69	0	0	0	0	0	98	0	0	0	0	0
70	0	0	0	0	0	99	0	0	0	0	0
71	0	0	0	1	1	100	1	0	0	0	1
72	0	0	0	1	1	101	0	0	0	0	0
73	0	0	0	0	0	102	0	0	0	0	0
74	0	0	0	0	0	103	0	0	0	0	0
75	0	0	0	0	0	104	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	105	0	0	0	0	0
77	0	0	0	0	0	106	0	0	0	1	1
78	0	0	0	0	0	107	0	0	0	0	0
79	0	0	0	0	0	108	0	0	0	0	0
80	0	0	0	0	0	109	0	0	0	0	0
81	0	0	0	0	0	110	0	0	0	0	0
82	1	0	0	0	1	111	0	0	0	0	0
83	0	0	0	0	0	112	0	0	0	0	0
84	0	0	0	0	0	113	0	0	0	0	0
85	0	0	0	0	0	114	0	0	0	0	0
86	0	0	0	0	0	115	1	0	0	0	1

表4－2　土器片加工円盤重量表 (2)

磨石1・敲石1・磨製石斧2・石錘1が出土しており、石器の組み合せとしては良く揃っている。磨石・磨製石斧は量が多いため、タイプ別の特徴あるものを図示した。

器種 / 地区	石皿	台石	磨石	敲石	磨製石斧	石錘	石刀	打製石鏃	鑿状石器	その他
A	3	0	35	8	24	9	1	4	3	5
B	0	0	11	3	16	6	2	4	0	0
C	0	0	3	0	0	0	0	1	0	0
D．E	11	9	8	5	24	3	0	3	1	1
計	14	9	57	16	64	18	3	12	4	6

表6　石器組成表

1　石皿（第130・131図1～4）

石皿は石器全体の6.9%の14点出土しており、土器密集区で11点（78.6%）、A地区で3点（21.4%）である。A地区の場合、1・2号住居の北側で出土している。石材は砂岩が8点（57.1%）、姶良・溶結凝灰岩が6点（42.9%）である。

1～4は縁や使用面を加工しており、中央の使用面が弓状に緩く窪んでいる。全体が楕円形に近い形のものであるが、1が6.3cmと凹み部が深いのに対してその他は2.3cm～3.7cmと浅い。1のみが姶良・溶結凝灰岩であるのに対して残りは砂岩である。ＳＩ3出土の1は半分が欠如しており、長さ25.8cm＋α、幅34.3cm＋α、縁部の厚さ10.8cm、凹み部の厚さ4.5cm、重さ8.5kg＋αである。ＳＩ4出土の3も半分欠如しているが、長さ36.4cm、幅17.2cm＋α、縁部の厚さ10.7cm、凹み部の厚さ7.0cm、重さ10.4kg＋αである。ＳＩ6出土の4は半分が欠如しているが、凹み部の深さが7mmと非常に浅く、長さ29.7cm、幅35.6cm＋α、凹み部の厚さ9.7cmである。ＳＩ12出土の5は四分の三ほど欠如しているが、長さ18.1cm＋α、幅17.5cm＋α、厚み7.0cm、重さ4.7kgである。6は四分の三ほど欠如しているが、長さ23.6cm＋α、幅17.8cm＋α、縁部の厚さ10.3cm、凹み部の厚さ8.0cm、重さ6.5kg＋αである。

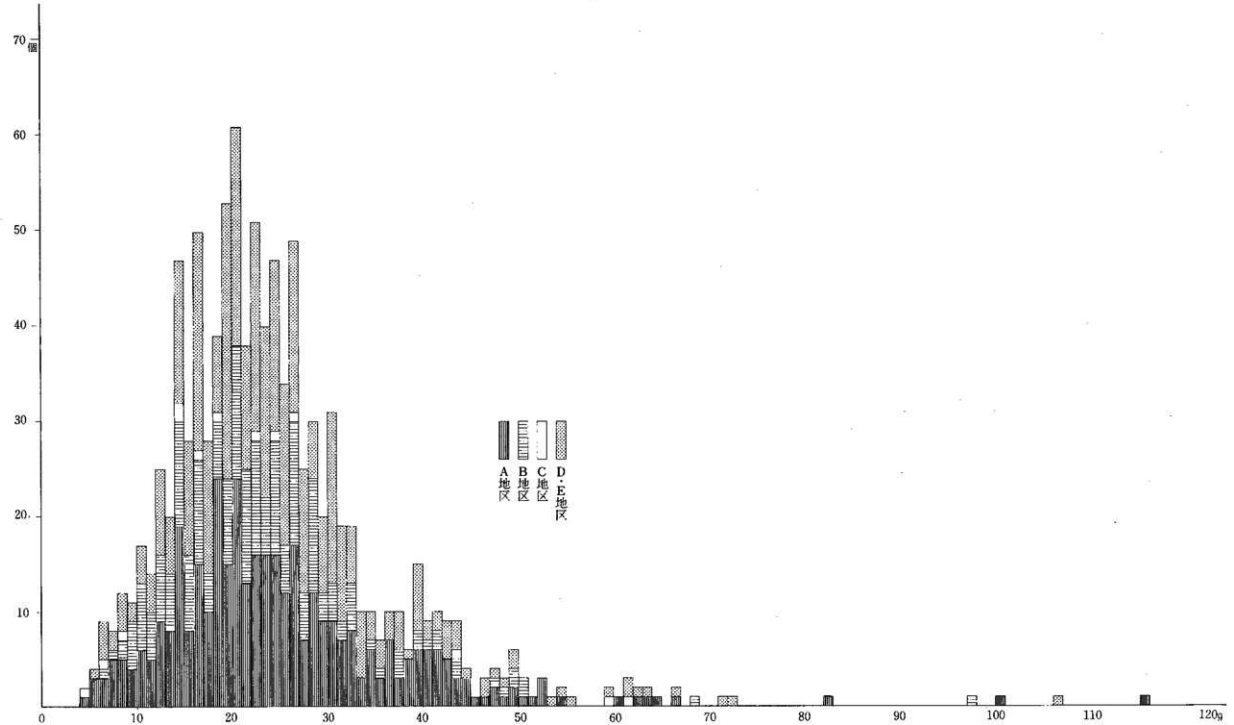
2　台石（第132図5～8）

台石は石器全体の4.4%の9点出土しており、すべて土器密集区である。石材はすべて砂岩である。

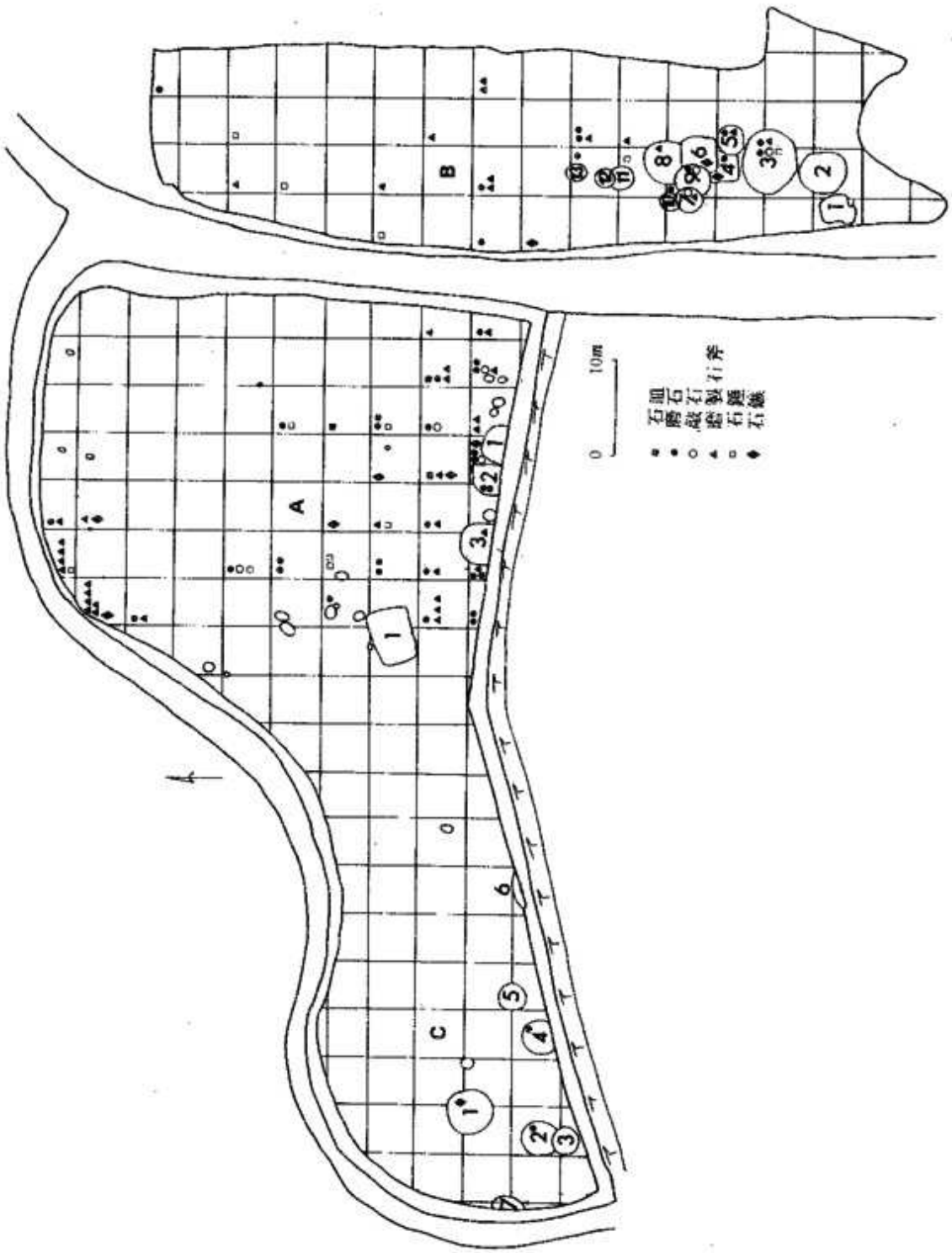
ＳＩ13出土の7は上端部が丸く、下端部が直線的な形を呈している。長さ31.8cm、幅21.0cm、厚み10.7cm、重さ10.4kgである。ＳＩ2出土の8は台形状を呈しており、下半分を大きく欠如している。長さ19.6cm＋α、幅18.9cm＋α、厚み7.8cm、重さ3.2kg＋αである。表裏面とも部分的にススが付着している。

3　磨石（第133図9～16・第139図81～128）

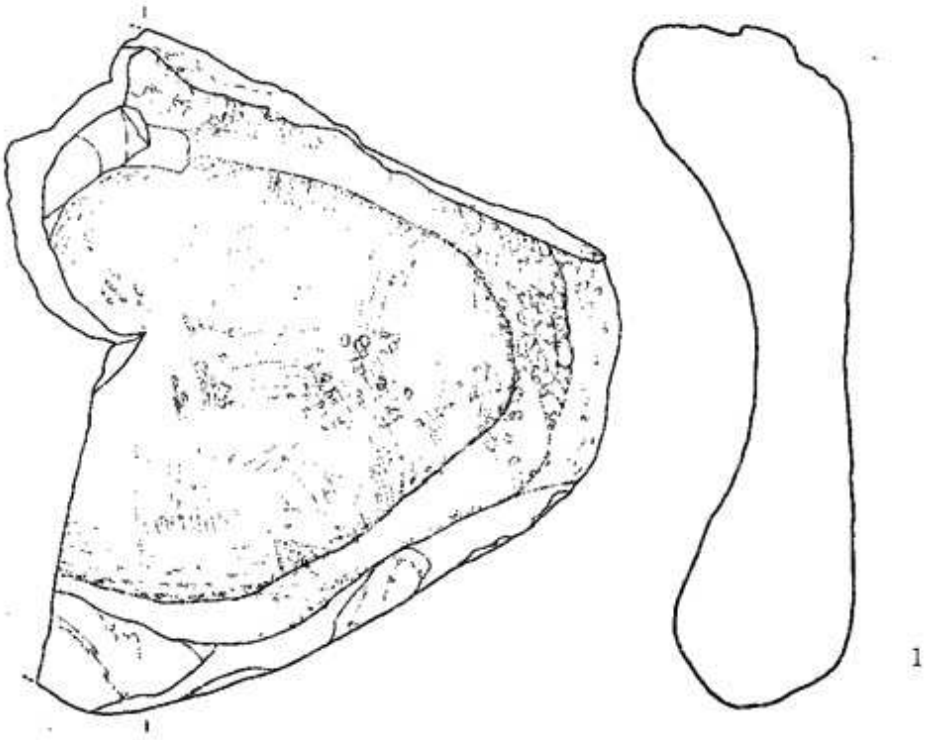
磨石は石器全体の28.0%の57点出土しており、A地区で35点（61.4%）、B地区で11点



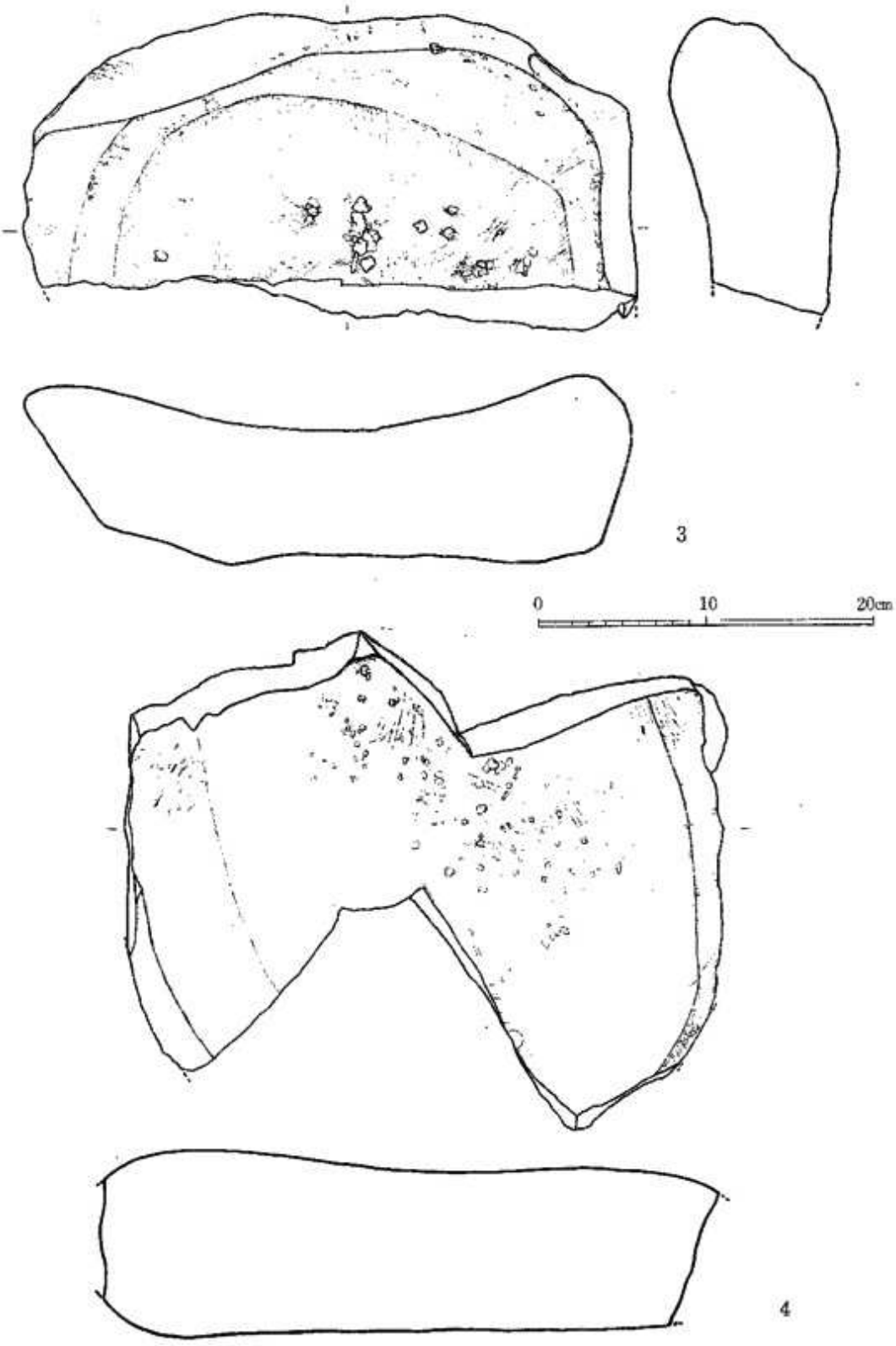
第5表　土器片加工円盤重量グラフ



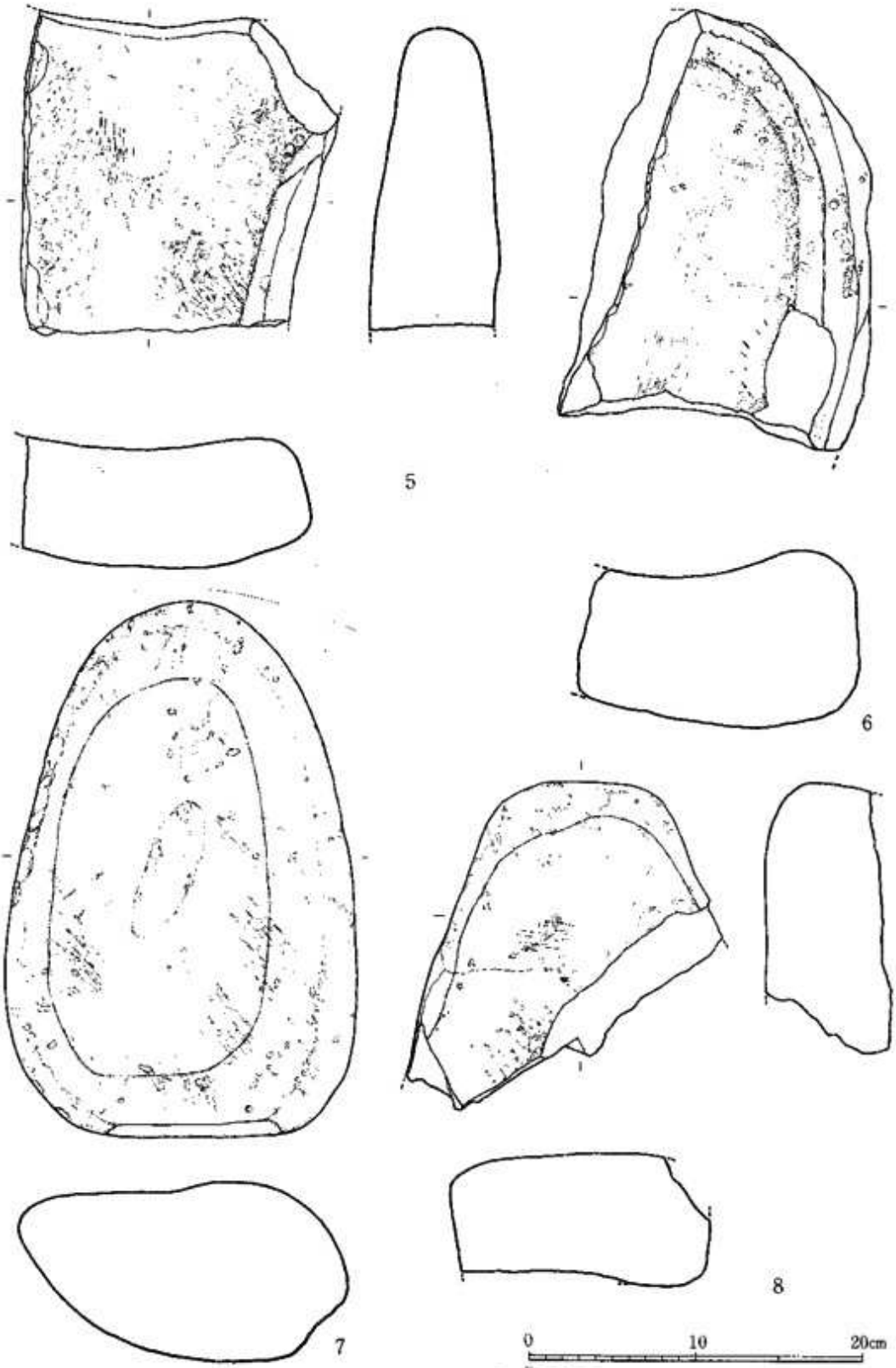
第129図 石 器 分 布 図



第130図　石器実測図（1）　　1～2　E地区 S I 3



第131図　石器実測図（2）　　3．E地区 S I 4　4．E地区 S I 6



5．E地区 SI12　6．E地区
7．E地区 SI13　8．E地区 SI2

第132図　石器実測図（3）

(19.3%)、土器密集区で8点(14.0%)、C地区で3点(5.3%)である。石材は尾鈴山酸性岩類(溶結凝灰岩)が25点(43.9%)、砂岩が22点(38.6%)、頁岩が6点(10.5%)、安山岩が4点(7.0%)である。

磨石Aは長さと幅がほぼ等しく、平面形は円形で、断面は楕円形である(11・14・81・82・117・119・128)。11は長さ11.4cm、幅10.0cm、厚み4.1cm、重さ750gである。14は長さ11.6cm、幅9.8cm、厚み5.0cm、重さ900gである。81・82はA地区SA2出土で、81が長さ12.3cm、幅10.5cm、厚み4.6cm、重さ1kgであるのに対して、82は長さ9.3cm、幅8.4cm、厚み4.6cm、重さ564gである。82は側面を平坦にしている。117はB地区SA3出土であるが、半分欠如しており、長さ5.6cm+α、幅9.1cm、厚み5.0cm、重さ338gである。119はB地区SA5出土で、長さ9.2cm、幅8.3cm、厚み5.0cm、重さ552gである。120はB地区SA9出土で、長さ8.6cm、幅8.1cm、厚み4.8cm、重さ472gである。128はC地区SA4出土であるが、半分欠如しており、長さ7.9cm+α、幅10.8cm、厚み5.6cm、重さ790gである。石材は11・14・82・117が砂岩、81・128が尾鈴山溶結凝灰岩、119が頁岩である。

磨石Bは長さと幅の比が3:2で、平面形が楕円形である(9・12・126)。SI15出土の9は表面は滑らかに研磨されているが、裏面は粗い研磨であり、側面には敲打痕がある。長さ19.9cm、幅14.2cm、厚み5.9cm、重さ2.5kgである。12は長さ14.0cm、幅9.6cm、厚み5.6cm、重さ682gである。126はC地区SA2から出土しているが、半分欠如しており、長さ5.4cm+α、幅6.8cm、厚み5.0cm、重さ244gである。石材はすべて砂岩である。

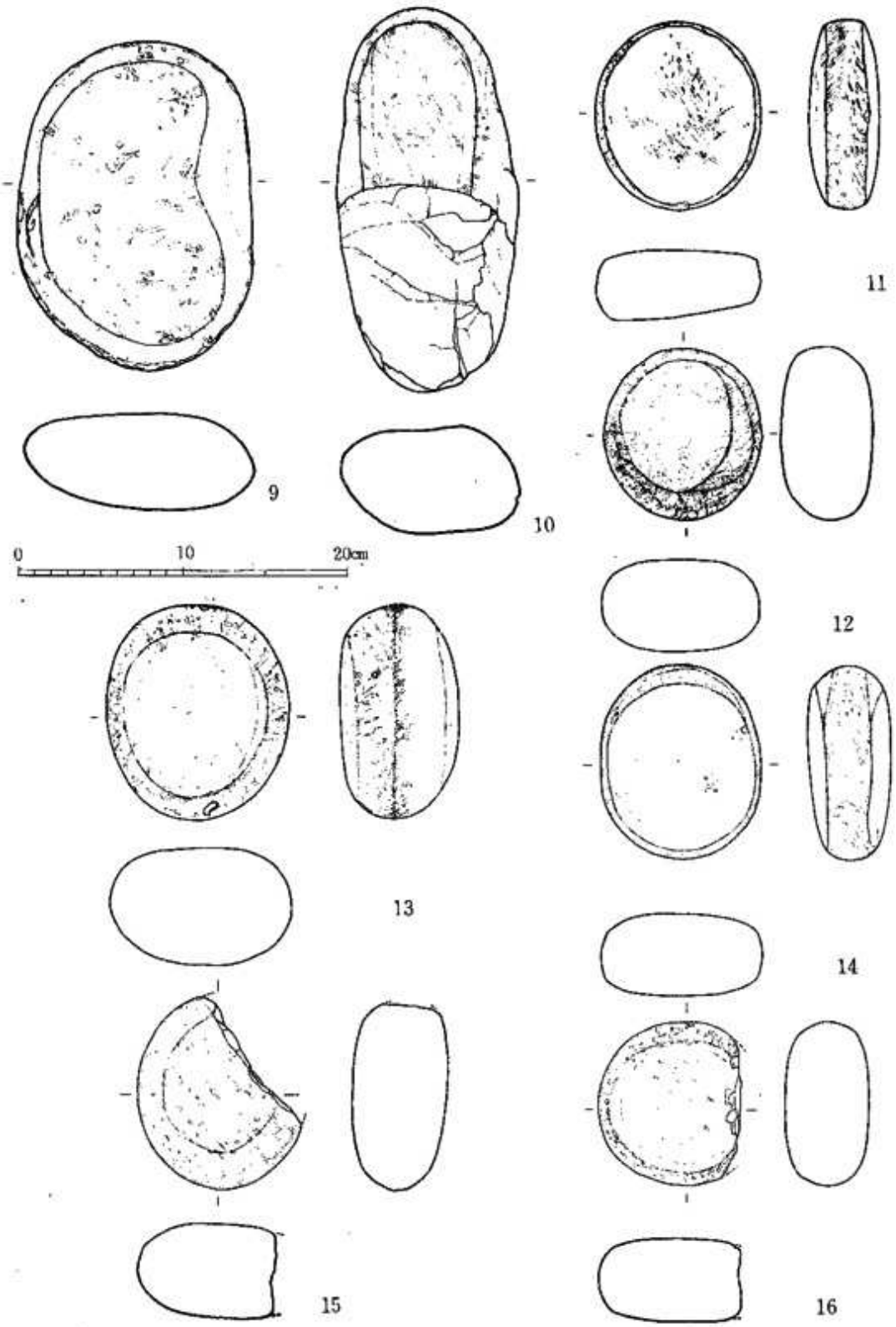
磨石Cは長さと幅の比が2:1で、平面形が長楕円形である(10・13)。10は表面が若干窪んでおり、長さ23.4cm、幅10.9cm、厚み6.3cm、重さ1.8kgである。13は長さ13.0cm、幅11.0cm、厚み7.1cm、重さ1.4kgである。側面には敲打痕があり、表面が丸みをもつのに対して裏面は平坦である。石材はすべて砂岩である。15・16は一部欠如している。

4　敲石(第134・135図17～23・第140図132・136・137)

敲石は石器全体の7.9%の16点が出土しており、A地区が8点(50.0%)、土器密集区が5点(31.3%)、B地区が3点(18.8%)である。石材は安山岩が6点(37.5%)、砂岩が5点(31.3%)、尾鈴山酸性岩類(溶結凝灰岩)と花崗閃緑岩が各2点(12.5%)、岩石Cが1点(6.2%)である。

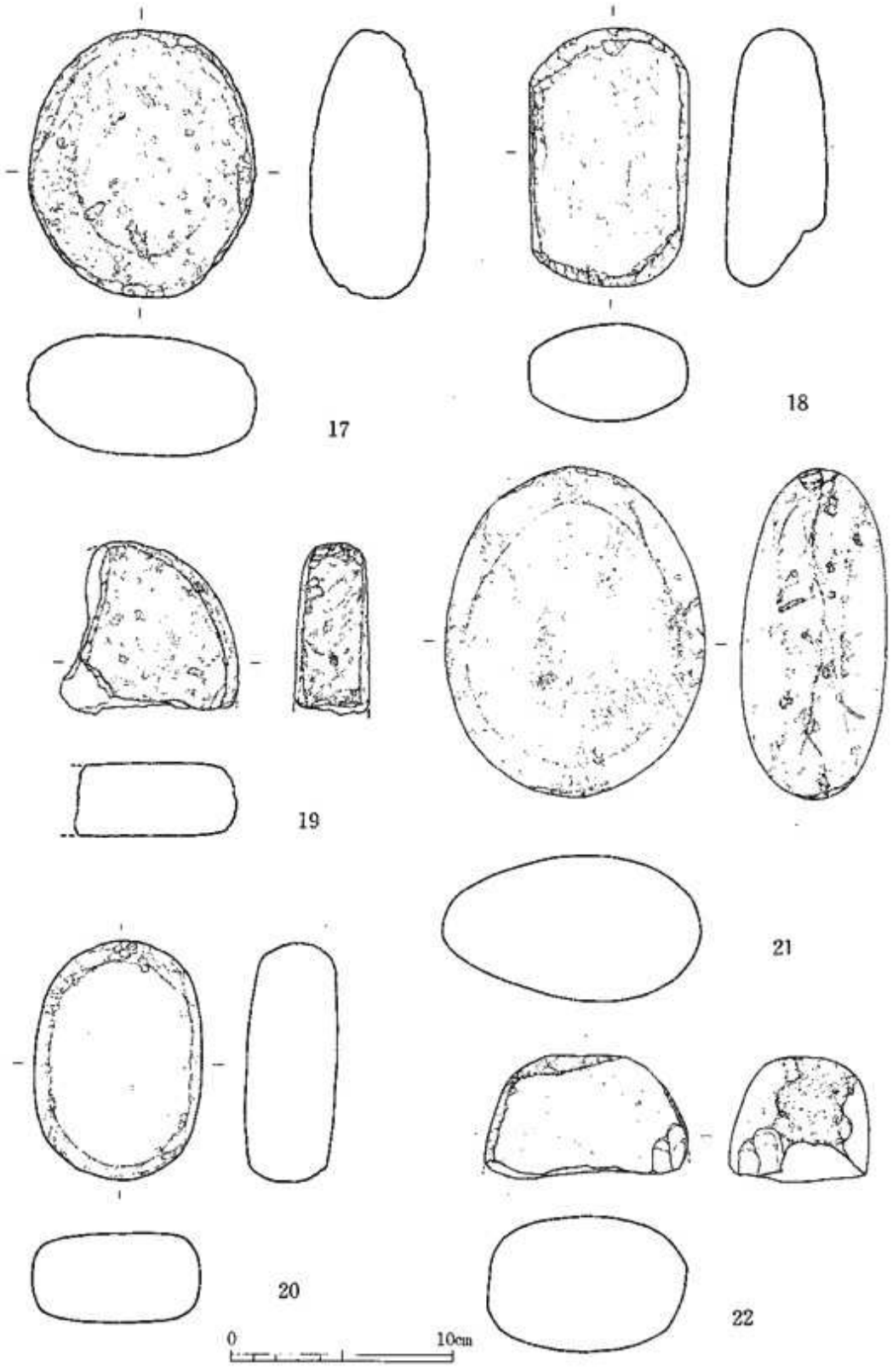
敲石Aは長さと幅がほぼ等しく、平面形が円形で、断面形は楕円形である(17・136・137)。17は長さ11.9cm、幅10.1cm、厚み5.3cm、重さ613gである。136はB地区SA3出土で、長さ10.4cm、幅9.3cm、厚み4.4cm、重さ714gである。137はB地区SA9出土であるが、半分欠如しており、長さ8.3cm+α、幅9.7cm、厚み6.5cm、重さ766gである。137は平面形が隅丸方形で、厚みが非常にある。石材はすべて安山岩である。

敲石Bは長さと幅の比が3:2で、平面形が楕円形である(18・20・21)。18は側面が直



第133図　石器実測図（4）

15～16．A地区　12．B地区　9．E地区 S I 15
10～11・13～14．E地区



第134図　石器実測図（5）　17～18・20．A地区　19・21～22．E地区

線状を呈し、表裏面とも丸みを有している。長さ11.5cm、幅7.1cm、厚み4.4cm、重さ608gである。20は側面に敲打痕があり、表裏面とも平坦に仕上げている。長さ10.8cm、幅7.5cm、厚み4.0cm、重さ545gである。21は側面に敲打痕があり、表裏面とも丸みを有している。長さ14.7cm、幅11.5cm、厚み6.5cm、重さ1400gである。石材は18の岩石B以外は砂岩である。

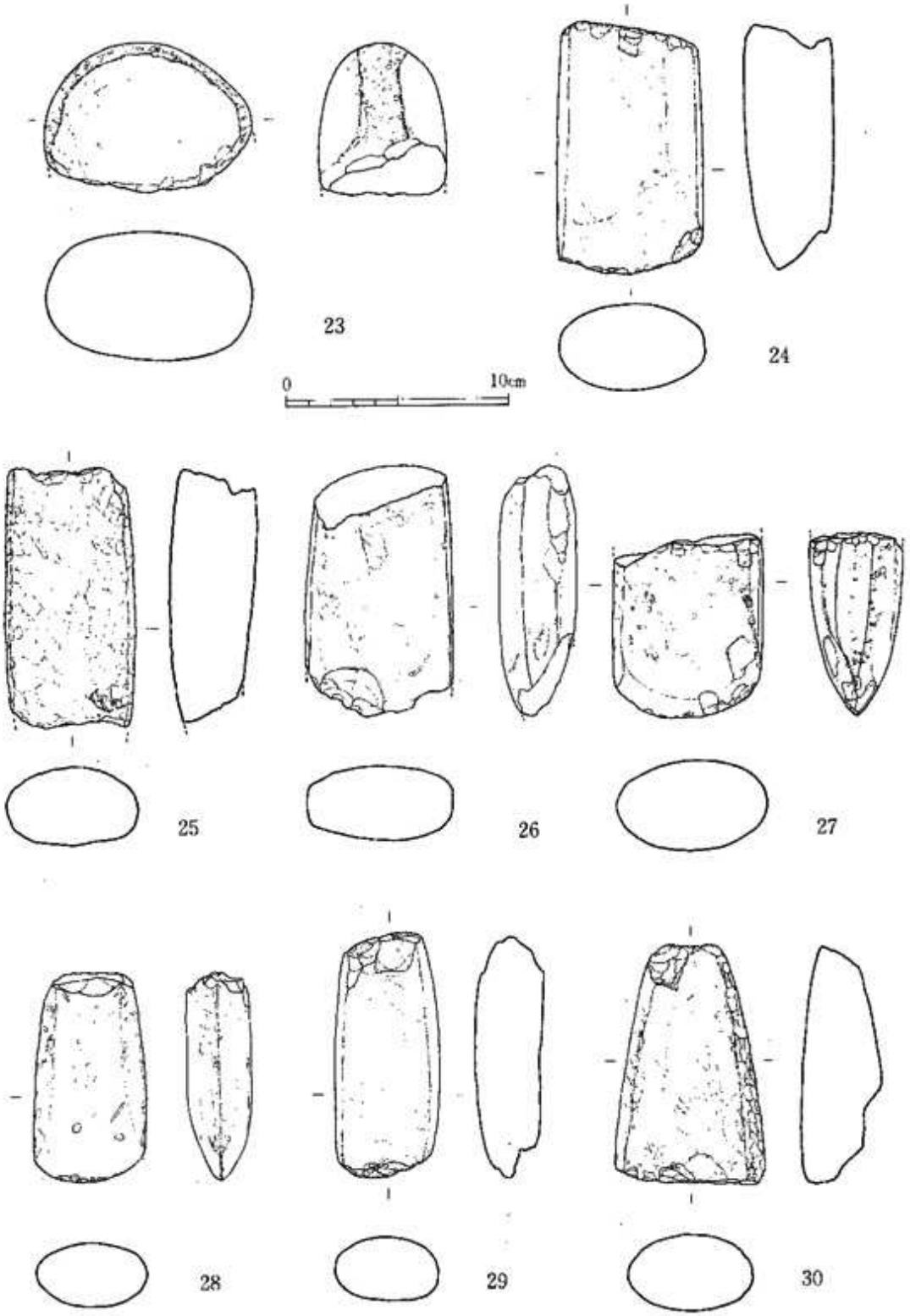
5　磨製石斧（第135～137図24～45・第140図139～159）

磨製石斧は石器全体の31.5%の64点が出土しており、土器密集区で28点（43.8%）、A地区で24点（37.5%）、B地区で16点（25.0%）である。石材はホルンフェルスが27点（42.2%）、岩石Bが12点（18.8%）、岩石Cが8点（12.5%）、頁岩が5点（7.8%）、砂岩が3点（4.7%）、岩石Dが2点（3.1%）である。磨製石斧は形態によって次のように分かれる。

石斧Aは基端部と刃部幅がほぼ等しく、断面形が楕円形の厚手のタイプである（24～27）。完形のものはないが、幅は5.9～6.7cmで、4個のうち3個は6.5～6.7cmに集中している。刃部は両刃で、厚みは3.3～4cmである。A地区SA3出土の24は基端部と刃部を欠如しており、長さ11.1cm＋α、幅6.5cm、厚み3.9cm、重さ517gである。石材は24・26が岩石B、25がホルンフェルス、27が岩石Aである。

石斧Bは基端部幅と刃部幅がほぼ等しく、断面形が楕円形の薄手のタイプである（28・29）。28は基端部が若干欠けている程度でほぼ完形であり、長さ9.5cm、幅5.0cm、厚み2.9cm、重さ228gである。全面に研磨を施している。29は基端部と刃部を欠如しているが、幅4.7cm、厚み2.9cm、重さ265gである。石材は28がホルンフェルス、29が岩石Cである。

石斧Cは基端部幅と刃部幅が1：2となり、側面を平坦に仕上げており、断面形が楕円形のタイプである（30～36・44・139・157～159）。A地区SA3出土の139は基端部と刃部を欠如しており、断面形は側面を平坦に仕上げている。重さが520gと重い。B地区SA5出土の157は刃部を大きく欠如している。B地区SA7出土の158は刃部と裏面を欠如しているが、小型の石斧である。B地区出土の159は158と同タイプの小型の石斧であり、基端部と刃部を若干欠如しているが、長さ9.7cm、幅5.3cm、厚み2.7cm、重さ198gである。B地区SA8出土の30は基端部と刃部を欠如しており、長さ10.6cm、幅5.6cm、厚み3.5cm、重さ339gである。34はほぼ完形で、長さ10.5cm、幅5.5cm、厚み3.0cm、重さ244gである。刃部は両刃である。35もほぼ完形であり、長さ11.5cm、幅4.8cm、厚み3.2cm、重さ272gである。36は基端部が欠けているが、長さ9.0cm＋α、幅6.0cm、厚み3.0cm、重さ300gである。44は基端部を平坦に仕上げており、長さ11.4cm、幅5.2cm、厚み3.2cm、重さ264gである。石材は31・157・159が岩石B、30・44・139がホルンフェルス、35・36が岩石A、32・33が岩石D、34が岩石Cである。



第135図　石器実測図 (6)　24．A地区 SA3　25．A地区　29．B地区　30．B地区 SA8
23．26～28　E地区

石斧Dは基端部と刃部幅がほぼ等しく、断面形が楕円形の薄手のタイプである（37）。37は基端部が欠けているが、長さ10.6cm＋α、幅5.3cm、厚み1.6cm、重さ152gである。石材はホルンフェルスである。

石斧Eは基端部が細く丸く、刃部幅も狭い乳棒状石斧のタイプである（38～42・143）。完形はなく、すべて刃部を欠如している。40は刃部を若干欠如しているが、長さ13.4cm＋α、幅5.2cm、厚み3.1cm、重さ322gである。断面形は楕円形であるが、38のみが他の石斧より厚みがあり、円形に近い。143は刃部を欠如しているが、ほぼ原型が窺うことができ、長さ15.3cm、最大幅 5.9cm、厚み3.7cm、重さ442gである。石材は39・40・42が頁岩、41・143がホルンフェルス、38が砂岩である。

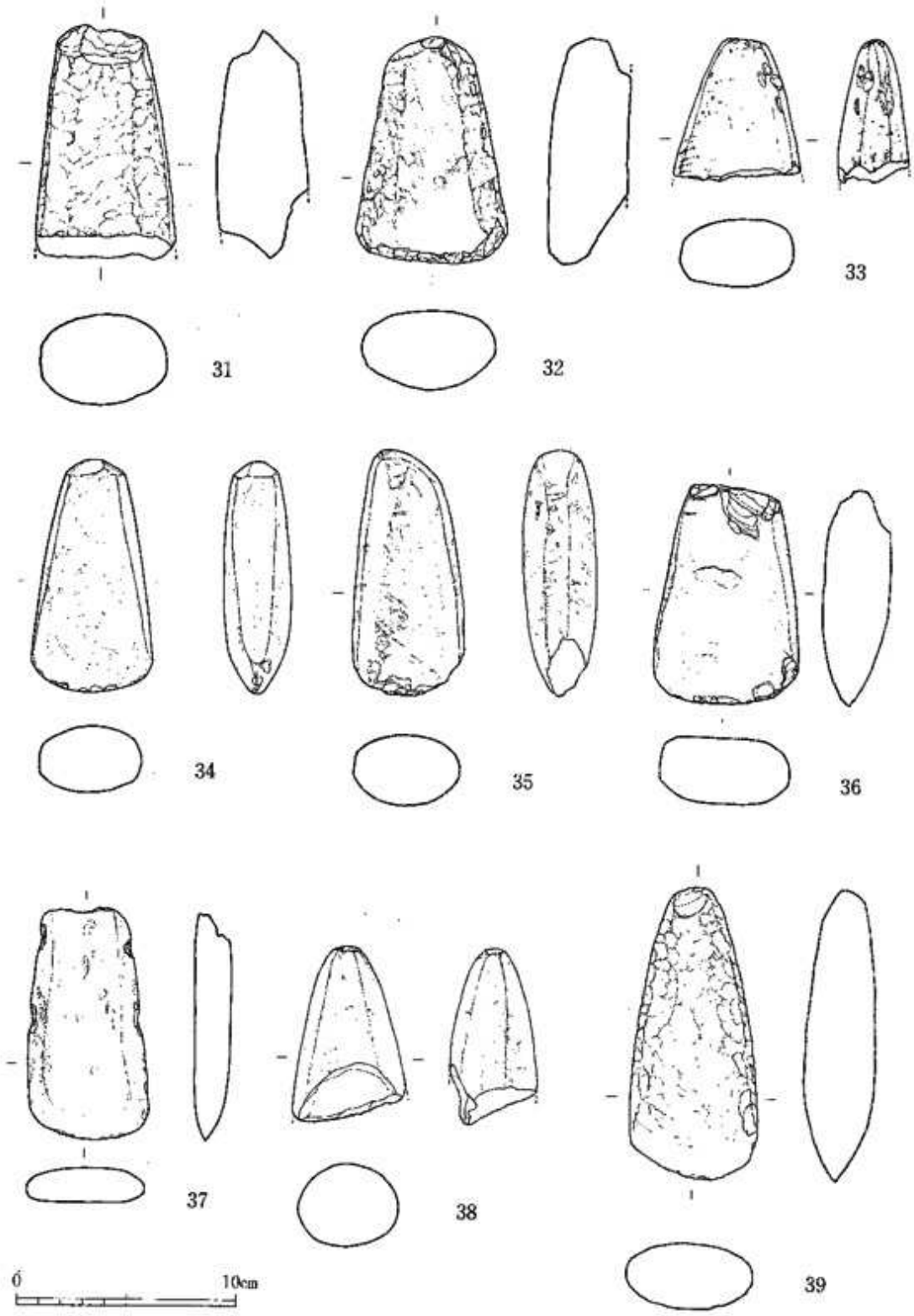
石斧Fは側縁が平坦に仕上げており、基端部と刃部幅の差が大きいタイプである（43）。43は刃部が大きく欠如しており、長さ9.7cm＋α、幅5.7cm、厚み3.3cm、重さ236gである。石材は岩石Bである。

6　石錘（第137図46～54・第141図179～187）

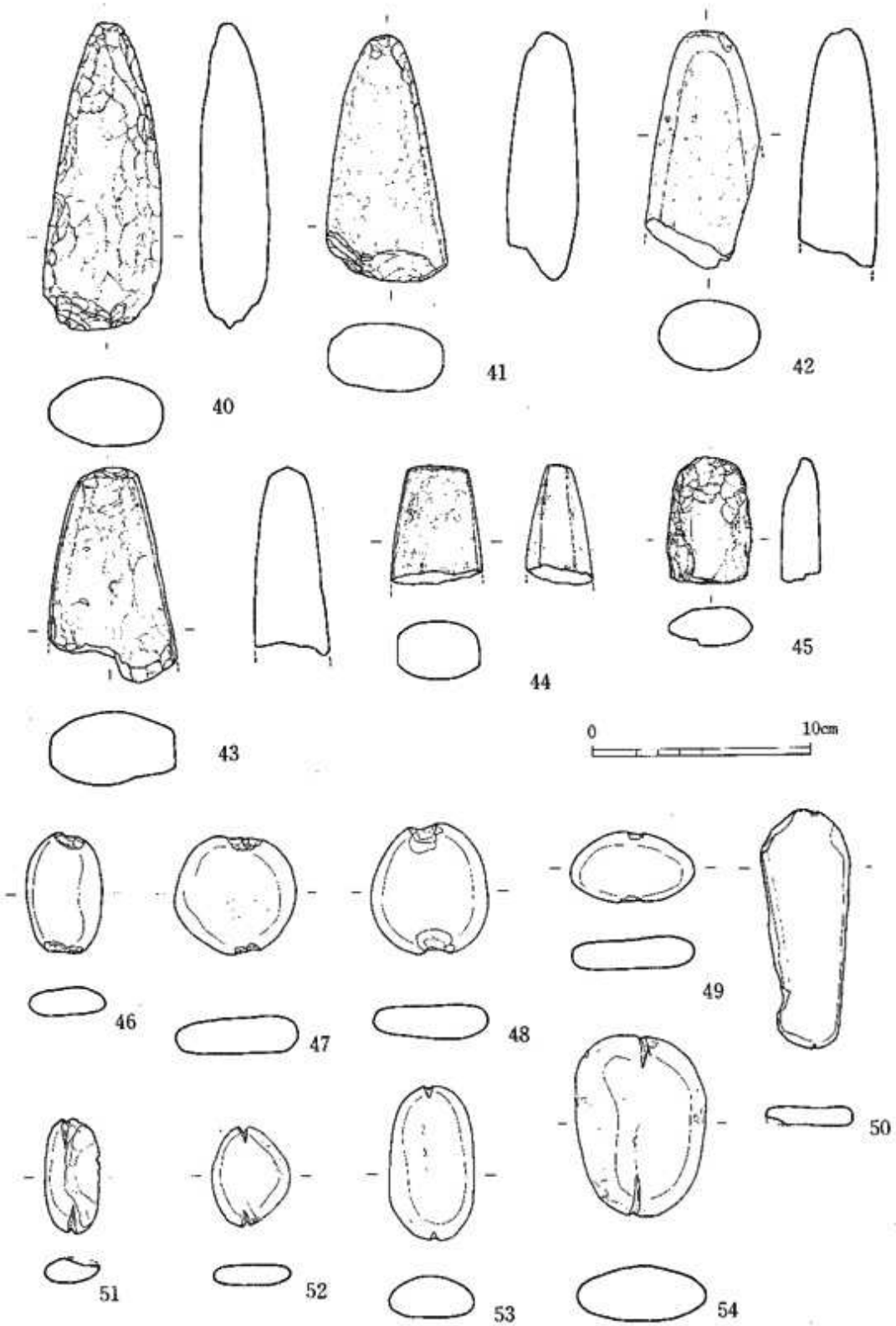
石錘は石器全体の8.9%の18点が出土しており、A地区が9点（50.0%）、B地区が6点（33.3%）、土器密集区が3点（16.7%）である。石錘の内訳は打ち欠き石錘が5点（27.8%）、切目石錘が13点（72.2%）で、石材は砂岩が10点（55.6%）、頁岩が8点（44.4%）である。

46～49・179は川原石の打ち欠き石錘で46・48が長軸方向に打ち欠きを入れているA類であるのに対して49は短軸方向に入れているB類である。長さと幅がほぼ1：1のa類（47・48・179）とほぼ3：2のb類（46・49）がある。 B地区SC1出土の179は長さ3.9cm、幅3.6cm、厚み1.0cmと平面がほぼ円形に近い円礫に、打ち欠きを入れている。A地区出土の47・48は長さ5.6～5.9cm、幅 5.4cm、厚み1.5～1.6cmとほぼ同じ法量である。A地区出土の46と49は切目の方向が違うが、長さ5.5～5.6cm、幅3.2～3.5cm、厚み1.2～1.3cmとほぼ同じ法量である。179が22gと軽く、46が32.5g、49が36gと30g代であるのに対して、47が72g、48が74gと70g代である。石材はすべて砂岩である。

50～54・180～187はすべて長軸方向に切目を入れた切目石錘である。長さと幅がほぼ1：1のa類（52・54・182）とほぼ3：2のb類（181・185）とほぼ2：1のc類（51・53・183）がある。50以外は通有の石錘であるが、50は長さ10.9cm、幅3.9cm、厚さ0.8cmと長目で厚さが薄い。182はB地区SA3出土で長さ4.1cm、幅3.6cm、厚み1.1cmである。180は切目の後に敲打を行っている。186が10g、187が14gと軽く、51が20.5g、52が22g、 182が24gと20g代であるのに対して、181が36g、184が42g、185が46g、50が60g、180と183が78g、53が83gであり、54は182gと最も重い。石材は頁岩が9点（64.3%）であるに対して砂岩が5点（35.7%）である。



第136図　石器実測図（7）　31～32・36～37・39　A地区　33～35・38　E地区



第137図　石器実測図（8）

40～43・45～47・49～51・53～54　A地区
52　B地区　　44・48　E地区

7　石刀（第138図55～56）

石刀は石器全体の1.0%の2点が出土しており、両者ともB地区である。石材は両者とも頁岩である。

55の石刀はℓ－32から出土し、文様は線刻による2条の沈線間に格子目文を施す組み合わせである。沈線は幅2㎜、深さ1㎜である。2つの文様の間は無文である。全面に研磨が施されており、断面は楕円形状を呈している。周辺はほとんど割れており、現存長さ4.4㎝、現存幅2.5㎝、現存厚み1.0㎝である。

56の石刀はm－32から出土し、55の石刀とは別個体であるが、平面形は長方形状で1ケ所に2㎜ほどの抉りを有する。断面は楕円形状を呈している。表面はかなり風化しているが、研磨を施している。前後で割れているが、現存長9.1㎝、現存幅12.5㎝、現存厚み1.4㎝である。

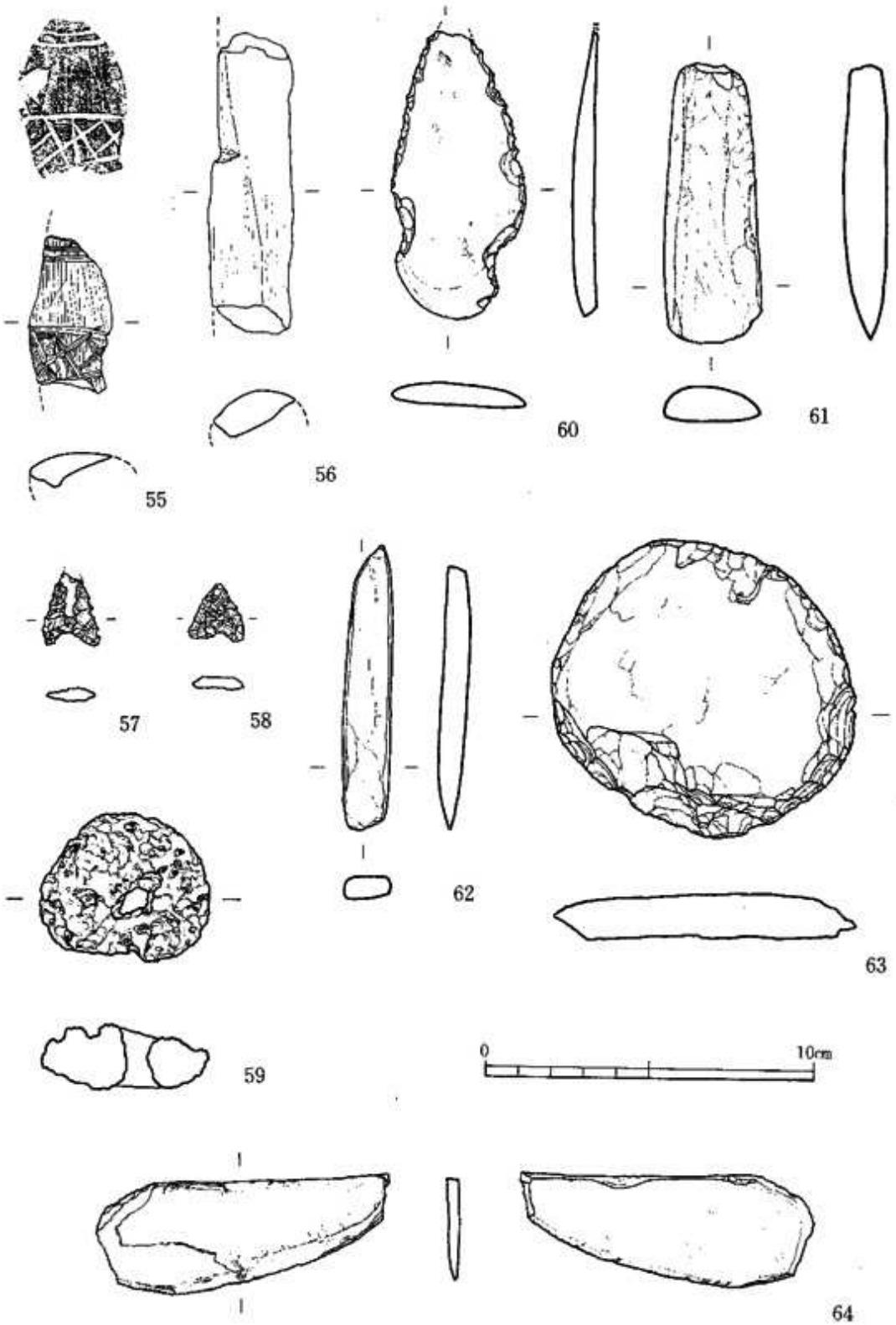
8　打製石鏃（第138図57・58・第141図188～197）

打製石鏃は石器全体の5.9%の12点が出土しており、A地区とB地区とも4点（33.3%）、土器密集区が3点（25.0%）、C地区が1点（8.3%）である。石鏃の形態は凹基無茎鏃が10点（83.3%）、円基鏃が2点（16.7%）である。石材は黒耀石が6点（50.0%）、チャートが4点（33.3%）、花崗斑岩と流紋岩が各1点（8.3%）である。

B地区ＳＡ1出土の195は基部の抉入りの深い凹基無茎鏃でチャート製である。B地区ＳＡ4出土の193は基部が丸みを帯び、側縁が直線状の縦長の円基鏃で姫島産の黒耀石製である。B地区k－30出土の196は193と同タイプの円基鏃である。B地区ＳＡ6出土の194は基部が凹状で側縁が内湾状に膨らむ凹基無茎鏃で、流紋岩製である。C地区ＳＡ1出土の197は脚端部を片方欠如している正三角形状の凹基無茎鏃で、チャート製である。長さ1.4㎝、幅1.1㎝、厚み3.0㎝、重さ0.3ｇと最小の石鏃である。57は基部が凹状で、側縁が直線状の長めの凹基無茎鏃である。58も凹基無茎鏃であるが、長さ1.7㎝、幅1.7㎝、厚さ0.3㎝と形態は正三角形状である。重さは57が1.1ｇ、58が0.9ｇである。土器密集区のb－7出土の188は側縁部がそれぞれ7個の鋸歯状を呈している凹基無茎鏃で、チャート製である。長さ2.6㎝、幅1.3㎝、厚み0.3㎝、重さ1.0ｇである。土器密集区のb－8出土の189とA地区g－6出土の190は縦長の凹基無茎鏃である。189は長さ3.0㎝、幅1.8㎝、厚み0.3㎝、重さ1.2ｇと最大の石鏃である。190は剥片を素材として整形しており、花崗斑岩製である。A地区j－5出土の191は尖頭部先端が丸みを帯びた凹基無茎鏃で、黒耀石製である。A地区j－6出土の192は剥片を素材として正三角形状の凹基無茎鏃で、姫島産の黒耀石である。

9　有孔軽石加工品（第138図59）

A地区出土の59は周縁部を円形に調整して中心部に径1.2㎝の小さい孔を施している。断面はソロバン玉状を呈しており、両面から穿孔している。浮子の可能性がある。直径5.1



第138図　石器実測図（9）

57・59～63　A地区　55・56　B地区
58・64　E地区

cm、厚さ1.9cm、重さ8.0gである。

10　スクレイパー（第138図60）

A地区j－3出土の60は抉りを入れ、刃部を打ち欠いて整形しているが、先端部は折れている。断面はレンズ状を呈している。長さ8.6cm＋α、幅4.0cm、厚み0.7cm、重さ32gである。石材は岩石Cである。

11　磬状石器（第138図61・62、第141図199・200）

磬状石器は石器全体の2.0%の4点が出土しており、A地区で3点（75.0%）、土器密集区で1点（25.0%）である。

61は基端部幅と刃部幅がほぼ等しく、両刃で断面がカマボコ状である。長さ8.4cm、幅2.9cm、厚み1.1cm、重さ51gである。62は基端部幅と刃部幅がほぼ等しく、細身であり、断面が隅丸長方形である。長さ8.0cm、幅1.4cm、厚み0.7cm、重さ16gである。

12　円盤形石器（第138図63）

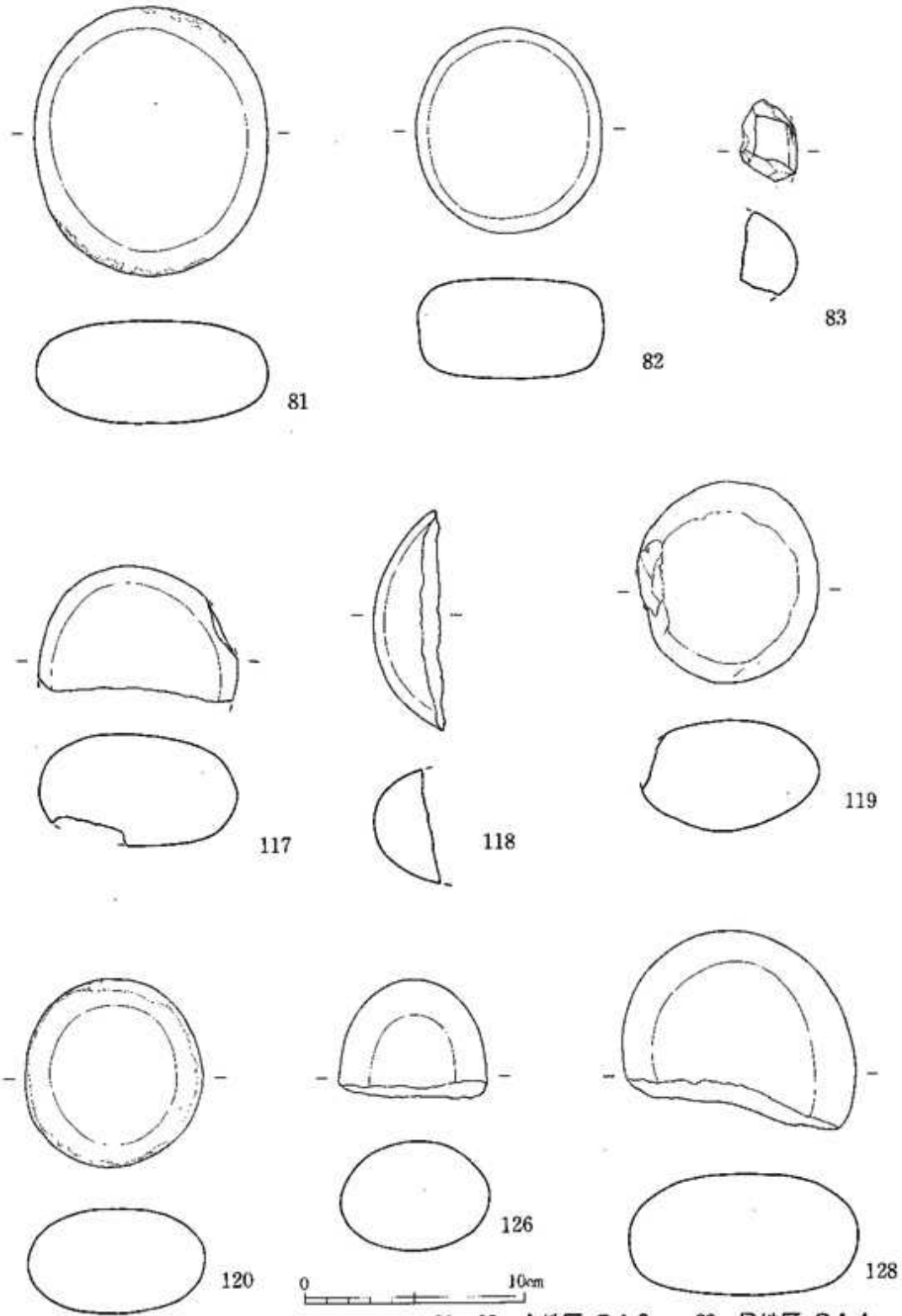
A地区f－4出土の63は頁岩の周縁部を円形に打ち欠いており、直径9.1cm、厚さ1.3cm、重さ152gである。

13　円盤形石製品（第141図204）

204は砂岩を表裏面は磨研し、縁部は面取りを行って正円形に整形している。長さ2.8cm、幅2.8cm、厚み0.6cm、重さ7.0gである。

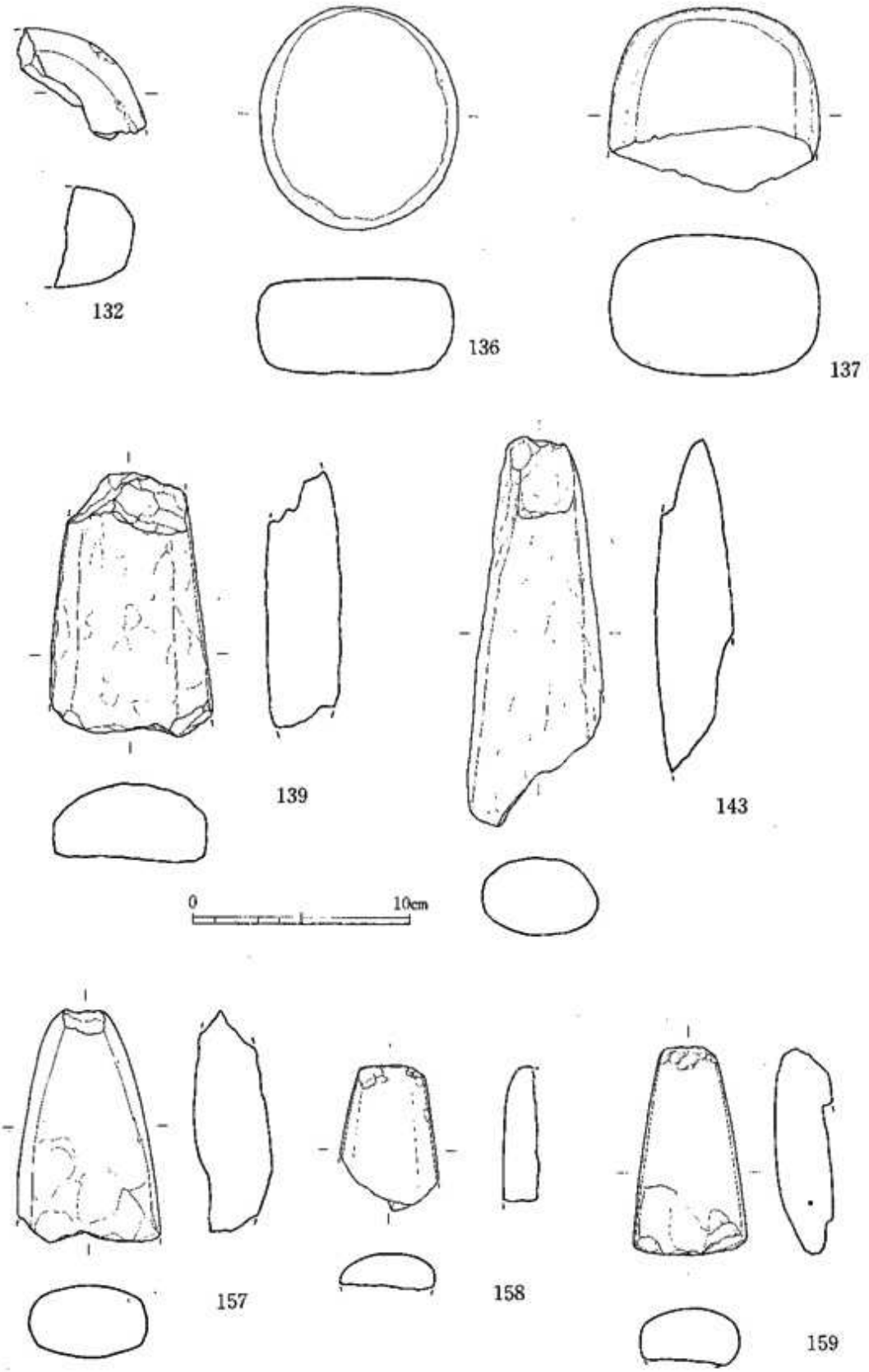
器種／石材	石皿	台石	磨石	敲石	磨製石斧	石錘	石刀	打製石鏃	磬状石器	その他
A	8	9	22	5	3	10				3
B			6		5	8	2		3	2
C			25	2						
D	6									
E			4	6						
F				2						
G					27		1			
H					7					
I					12					
J				1	8				1	1
K					2					
L										
M										
N										
O										
計	14	9	57	16	64	18	3	12	4	6

表7　石器石材組成表（石材のアルファベットは石器の凡例と同じ）



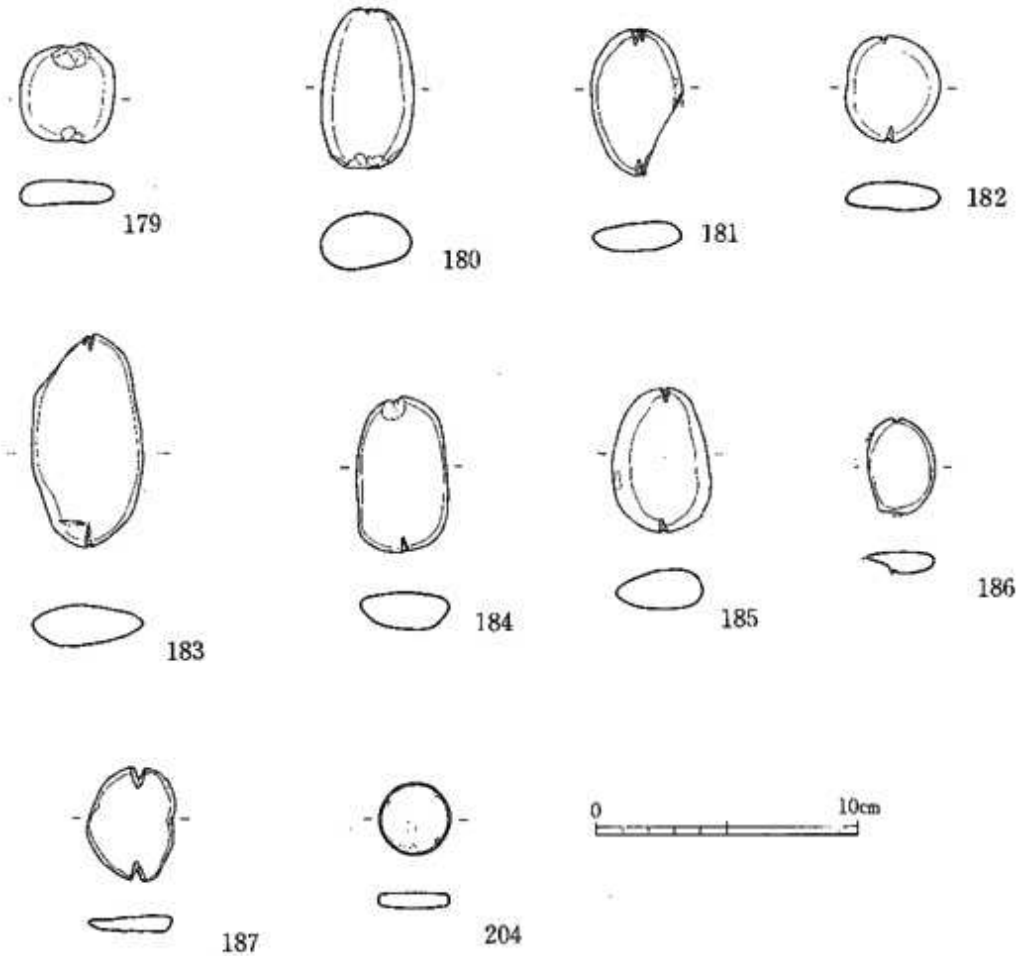
81・82．A地区 SA2　83．B地区 SA4
117・118．B地区 SA3　119．B地区 SA5
120．B地区 SA9　126．C地区 SA2
128．C地区 SA4

第139図　石器実測図（10）



132 B地区 SA 7　136 B地区 SA 3　137 B地区 SA 9
139 A地区 SA 3　143 A地区　157 B地区 SA 5
158 B地区 SA 7　159 B地区 SA 8

第140図　石器実測図 (11)



179 B地区 SC 1　　180.181 A地区
182 B地区 SA 3　　183～186 B地区
187 D地区　　188～192 A地区
193 A地区 SA 4　　194 B地区 SA 6
195.196 B地区　　197 C地区 SA 1
204 A地区 i －3 Ⅳ

第141図　石器実測図 (12)

石器観察表石材凡例

岩石名区分　　宍戸　章氏分類

A　砂岩（礫岩）
B　頁岩
C　尾鈴山酸性岩類（溶結凝灰岩）
D　姶良・溶結凝灰岩
E　安山岩
F　花崗閃緑岩
G　ホルンフェルス
H　岩石A
I　岩石B
J　岩石C
K　岩石D
L　黒耀石
M　チャート
N　花崗斑岩
O　流紋岩

産地不明の岩石の特徴

H　岩石A

白黒のゴマシオ状で細粒の花崗閃緑岩といった印象がある。石器表面に風化面なし。

有色鉱物は暗緑色粒状で結晶形不明。

A' としたものは、これが更に細粒化したものと思われる。

I　岩石B

暗灰色～暗黒色基質中に1㎜大の粒状～粒状黄褐色斑を極めて多量にもつ、表面風化が著しい。

黒雲母の集合体の他、全体に微細な雲母が点在する。

J　岩石C

帯紫暗灰色の基質中に0.1～0.2㎜大の微細な白～黄褐色斑を極めて多量にもつ。

石器表面は風化し、微細な斑が溶脱して虫食い状を呈す（斑は時に1㎜大のこともある。）

砂質岩の熱変成岩（ホルンフェルス）である可能性が高い。

K　岩石D

微細なゴマシオ状で、帯紫暗灰色～暗灰色の岩石、表面風化は殆どない。

黒色斑は0.1～0.2㎜大の柱状～粒状で輪郭ははっきりしない。

泥質岩の熱変成岩（ホルンフェルス）の可能性が高い。

表8　丸野第2遺跡出土石器観察表

番号	器種	グリット	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	備考
1	石皿	E	25.8+α	34.3+α	4.5	8.5 kg	D	
2	〃	E	26.7+α	24.4+α	6.9	9.6 kg	A	
3	〃	E	36.4	17.2+α	7.4	10.4 kg	A	
4	〃	E	29.7+α	35.6+α	11.2	14.0 kg	A	
5	台石	E	18.1	17.5	7.0	4.7 kg	A	
6	〃	E	23.6	17.8	10.3	6.5 kg	A	
7	〃	E	31.8	21.0	10.7	10.4 kg	A	
8	〃	E	16.0+α	15.6	7.8	3.2 kg	A	
9	磨石	E	19.9	14.2	5.9	2.5 kg	A	磨石 B
10	〃	E	23.4	10.9	6.3	1.8 kg	A	磨石 C
11	〃	E	11.4	10.0	4.1	750.0	A	磨石 A
12	〃	B n−31	14.0	9.6	5.6	682.0	A	磨石 B
13	〃	E	13.0	11.0	7.1	1.4 kg	A	磨石 C
14	〃	E	11.8	9.8	5.0	900.0	A	磨石 A
15	〃	A f−7	11.3+α	8.3+α	5.7	832.0	C	
16	〃	A e−7	10.0	8.5+α	5.1	724.0	C	
17	敲石	A j−3	11.9	10.1	5.3	613.0	E	敲石 A
18	〃	A	11.5	7.1	4.4	608.0	J	敲石 B
19	〃	E	7.6+α	7.1+α	3.2	257.0	E	
20	〃	A	10.8	7.5	4.0	545.0	A	敲石 B
21	〃	E	14.7	11.5	6.5	1.4 kg	A	敲石 B
22	〃	E	5.3+α	8.9	6.1	472.0	C	
23	〃	E	6.7+α	9.3	5.8	524.0	C	
24	磨製石斧	A	11.1+α	6.5	3.9	517.0	I	石斧 A
25	〃	D b−8	11.4+α	5.9	3.5	454.0	G	石斧 A
26	〃	E	11.2+α	6.6	3.3	395.0	I	石斧 A
27	〃	E	8.0+α	6.7	4.0	332.0	H	石斧 A
28	〃	E	9.5	5.0	2.9	228.0	G	石斧 B
29	〃	B e−31	11.0+α	4.7	2.9	265.0	J	石斧 B
30	〃	B	16.0+α	5.6	3.5	339.0	G	石斧 C

番号	器種	グリット	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	備考
31	磨製石斧	A	10.4+α	5.7	4.1	384.0	I	石斧 C
32	〃	D b−8	10.3+α	6.1	3.6	338.0	K	石斧 C
33	〃	E	6.3+α	5.1	3.1	146.0	K	石斧 C
34	〃	E	10.5	5.5	3.0	244.0	J	石斧 C
35	〃	E	11.5	4.8	3.2	272.0	H	石斧 C
36	〃	A	19.0+α	6.0	3.0	300.0	H	石斧 C
37	〃	A i−6	10.6+α	5.3	10.6	152.0	G	石斧 D
38	〃	E	7.7+α	4.6	3.8	165.0	A	石斧 E
39	〃	A h−6	13.1	5.7	3.0	322.0	I	石斧 E
40	〃	A i−8	13.4	5.2	3.1	322.0	I	石斧 E
41	〃	A i−8	11.2+α	5.3	3.1	262.0	G	石斧 E
42	〃	D a−7	10.8+α	4.7	3.2	264.0	I	石斧 E
43	〃	D c−8	9.7+α	5.7	3.3	236.0	I	石斧 F
44	〃	E	5.4+α	3.9	2.7	92.0	G	石斧 C
45	〃	A J−3	5.8+α	3.9	1.7	62.0	B	
46	石錘	A g−7	5.5	3.5	1.2	32.5	A	打ち欠き石錘
47	〃	A h−6	5.4	5.6	1.6	72.0	A	打ち欠き石錘
48	〃	E	5.9	5.4	1.5	74.0	A	打ち欠き石錘
49	〃	A f−4	3.2	5.6	1.3	36.0	A	打ち欠き石錘
50	〃	A h−4	10.9	4.0	0.8	60.0	B	切目石錘
51	〃	A	5.2	2.5	1.1	20.5	B	切目石錘
52	〃	D a−7	4.5	3.6	1.0	22.0	B	切目石錘
53	〃	A g−7	7.0	3.9	1.9	83.0	B	切目石錘
54	〃	A e−7	8.3	6.9	2.5	182.0	B	切目石錘
55	石刀	B	4.5+α	2.5	9.5+α	11.5	B	
56	〃	B	9.1+α	2.5	1.1	33.5	B	
57	打製石鏃	A h−5	2.2+α	1.8	0.4	1.1	L	凹基無茎鏃
58	〃	E	1.7	1.7	0.4	0.9	L	凹基無茎鏃
59	有孔軽石加工品	A	4.3	5.2	1.9	8.0		
60	スクレイパー	A J−3	8.6+α	4.0	0.7	32.0	J	
61	のみ状石器	A	8.4+α	2.9	1.1	51.0	J	

番号	器種	グリッド	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	備考
62	のみ状石器	A	8.0	1.4	0.7	16.0	B	
63	円盤形石器	A f−4	8.7	9.2	1.2	152.0	B	
64		E	8.6	3.1	0.3	20.0	B	
65	石皿	A i−6	31.7+α	34.5	7.6	9.0kg	D	
66	〃	A g−4	23.1+α	27.3+α	7.7	8.0kg	A	
67	〃	A i−3	15.4+α	14.5+α	6.5	2.0kg	D	
68	〃	E	41.0	31.0	9.2	15.1kg	A	
69	〃	E	2.8	25.2	7.5	8.5kg	A	
70	〃	E	27.0+α	14.3+α	9.7	6.5kg	A	
71	〃	E	21.3+α	23.0+α	3.0	2.4kg	A	
72	〃	E	24.6+α	17.6+α	4.3	4.0kg	D	
73	〃	E	19.6+α	9.8	8.5	2.0kg	D	
74	〃	E	12.9+α	8.0+α	7.3	1.0kg	D	
75	台石	E SI−1	33.2	26.8	12.1 9.2	15.0kg	A	
76	〃	E SI−13	35.0	23.0	9.6	10.1kg		76は7と接合
77	〃	E SI−6	24.5	22.5	3.0(3) 5.0(大)	4.0kg	A	
78	〃	E SI−21	28.0	25.0	3.5	4.5kg	A	
79	〃	E	41.3	22.0+α	8.0	9.0kg	A	
80	〃	E	28.0+α	19.2+α	10.1	6.0kg	A	
81	磨石	A SA2	12.3	10.5	4.6	1.0kg	C	磨石A
82	〃	A SA2	9.3	8.4	4.6	564.0	A	磨石A
83	〃	B SA4	3.3+α	3.3+α	2.8+α	38.0	C	
84	〃	A SC4	5.1+α	4.2+α	3.7+α	90.0	C	
85	〃	A SC4	6.3+α	5.1+α	3.7+α	162.0	C	
86	〃	A	8.1	7.6	5.1	458.0	C	磨石A
87	〃	A	5.7+α	9.4	6.0	414.0	A	
88	〃	A h−7	10.9	9.8	3.9	744.0	B	磨石A
89	〃	A	12.5	11.7	5.3	1.0kg	E	磨石A
90	〃	A g−8	9.5	8.6	5.9	640.0	A	磨石A
91	〃	A	9.2	7.2	4.0	454.0	C	磨石B

番号	器種	グリッド	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	備考
92	磨石	Λ i−4	9.7	8.6	3.3	548.0	B	磨石A
93	〃	A j−5	8.4	8.2	3.8	396.0	C	磨石A
94	〃	A h−7	10.2	7.6	6.3	632.0	A	磨石B
95	〃	A i−3	14.0	8.3+α	5.3	810.0	A	
96	〃	A i−7	11.6+α	8.9+α	4.9	780.0	C	
97	〃	A j−3	15.6	7.8	7.0	1.0kg	C	磨石C
98	〃	A j−3	11.4	5.7	5.0	504.0	A	磨石C
99	〃	A t−4	10.4	6.7+α	5.1	522.0	A	
100	〃	A	10.6+α	7.1+α	4.9	482.0	B	
101	〃	A	12.0+α	7.3+α	4.2	468.0	C	
102	〃	A j−8	4.6+α	9.7	5.6	368.0	C	
103	〃	A	7.0+α	7.5	5.7	432.0	A	
104	〃	A i−25	7.4+α	8.1	4.0	290.0	A	
105	〃	A j−7	5.3+α	6.8	5.6	300.0	B	
106	〃	A f−8	5.3+α	8.8	4.3	292.0	C	
107	〃	A j−5	2.6+α	5.6	5.4	96.0	B	
108	〃	A h−4	13.8+α	4.5+α	4.7	330.0	C	
109	〃	A j−2	5.8+α	5.3+α	3.6+α	154.0	C	
110	〃	D c−8	8.5+α	3.8+α	4.5	154.0	E	
111	〃	D a−6	4.6+α	3.1+α	5.3	122.0	C	
112	〃	A j−8	5.5+α	3.5+α	4.8	108.0	E	
113	〃	A i−8	5.1	4.4	4.2	82.0	E	磨石Λ
114	〃	A i−6	4.8+α	3.5+α	4.2	109.0	A	
115	〃	Λ	6.3+α	3.8+α	1.4+α	30.0	C	
116	〃	A j−3	7.3+α	2.2+α	4.0+α	72.0	C	
117	〃	B SA3	5.6+α	9.1	5.0	338.0	A	磨石A
118	〃	B SA3	10.7	2.6+α	5.1	176.0	C	
119	〃	B SA5	9.2	8.26	5.0	522.0	B	磨石A
120	〃	B SA9	8.6	8.1	4.8	472.0	A	磨石A
121	〃	B j−31	11.33	7.2+α	5.8	656.0	A	

番号	器種	グリッド	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石質	備考
122	磨石	B c-33	8.3+α	9.6	5.1	661.0	C	
123	〃	B ℓ-32	10.5	4.6+α	5.6	420.0	C	
124	〃	B ℓ-32	6.0+α	6.7	4.8	263.0	A	
125	〃	B i-30	7.8+α	2.4+α	4.8	108.0	C	
126	〃	C SA 2	5.4+α	6.8	5.0	244.0	A	磨石 B
127	〃	C	8.8+α	7.7+α	5.2	622.0	C	
128	〃	C SA 4	7.9+α	10.8	5.6	790.0	C	磨石 A
129	〃	E	7.4+α	6.4+α	1.5+α	90.0	A	
130	敲石	A	10.0	9.1	6.7	772.0	A	敲石 A
131	〃	A SC11	9.9+α	8.8	4.8	680.0	A	
132	〃	B SA 7	7.2+α	3.2+α	4.7	124.0	E	
133	〃	A i- 4	7.3+α	9.3	5.0	420.0	A	
134	〃	A e- 7	9.7	8.1	4.7	623.0	F	敲石 A
135	〃	A j- 5	10.0	7.8	4.7	608.0	F	敲石 B
136	〃	B SA 3	10.4	9.3	4.4	714.0	E	敲石 A
137	〃	B SA 9	8.3+α	9.7	6.5	766.0	E	敲石 A
138	〃	D	11.8+α	7.5	3.8	608.0	E	
139	磨製石斧	A SA 3	11.9+α	7.5	3.5	520.0	G	石斧 C
140	〃	A SC	6.4+α	3.9	1.1	36.0	G	
141	〃	A	8.3+α	5.5	2.7	185.0	J	石斧 C
142	〃	A i- 5	11.2	6.0	3.7	388.0	J	石斧 C
143	〃	A	15.3	5.9	3.7	442.0	G	石斧 E
144	〃	A i- 3	11.3	6.1	1.4	118.0	I	石斧 F
145	〃	D c- 8	8.3	5.3	1.7	94.0	G	
146	〃	D b- 6	9.5	6.2	3.1	258.0	J	石斧 C
147	〃	A j- 4	9.1	5.8	3.2	286.0	G	石斧 A
148	〃	A	9.2	6.5	3.6	365.0	J	石斧 A
149	〃	D b- 8	7.0+α	4.4+α	4.6	124.0	II	石斧 A
150	〃	A j- 4	7.7+α	5.1	3.7	222.0	I	
151	〃	A j- 2	6.9+α	4.6+α	4.0	190.0	I	石斧 C

番号	器種	グリッド	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	備考
152	磨製石斧	A i−2	6.2+α	5.0 4.6+α	4.3	200.0	G	石斧C
153	〃	A j−7	8.1+α	4.3+α	1.3+α	52.0	H	
154	〃	A i−7	5.8+α	3.6+α	1.3+α	28.0	B	
155	〃	D b−8	5.2+α	3.6+α	1.0+α	26.0	G	
156	〃	A j−7	6.6+α	2.5+α	1.0+α	18.0	B	
157	〃	B SA 5	10.9+α	6.5+α	3.5	328.0	I	石斧C
158	〃	B SA 7	6.8+α	4.5	1.6	72.0	G	石斧C
159	〃	B SA 8	9.7+α	5.3	2.7	198.0	I	石斧C
160	〃	B SA 3	5.9+α	4.9	0.9+α	38.0	J	
161	〃	B j−33	10.2+α	5.7	3.2	246.0	G	石斧C
162	〃	B m−32	9.7+α	6.2	2.4	210.0	H	石斧C
163	〃	B	9.2+α	5.7	2.5+α	214.0	G	石斧C
164	〃	B h−31	10.3+α	6.0	1.8	154.0	G	石斧D
165	〃	B j−31	11.8+α	7.1	3.8	530.0	G	石斧A
166	〃	B ℓ−32	9.4+α	6.3	4.2+α	402.0	G	石斧A
167	〃	B j−33	6.2+α	6.5	3.8+α	248.0	G	石斧A
168	〃	B i−32	6.2+α	6.2	2.4	171.0	H	
169	〃	B ℓ−31	6.1+α	5.2	4.3	218.0	A	石斧C
170	〃	B j−31	5.3+α	4.5+α	1.0+α	30.0	G	
171	〃	D a− 7	9.1+α	6.6	3.4+α	302.0	A	石斧C
172	〃	D a− 6	9.5+α	5.8	3.3	240.0	J	石斧C
173	〃	D a− 8	6.0+α	5.2	3.2	172.0	G	石斧C 44と接合
174	〃	E	8.4+α	5.4	1.8	108.0	G	
175	〃	E	9.5+α	5.0	1.7	112.0	G	石斧D
176	〃	E	4.0+α	4.0	1.6+α	26.0	G	
177	〃	E	7.1+α	3.1	2.2+α	42.0	G	
178	〃	表採	9.9+α	6.4	3.0	330.0	G	石斧A
179	石錘	B SC 1	3.9	3.6	1.0	22.0	A	打ち欠き石錘
180	〃	A	6.1	3.5	2.2	78.0	A	切目石錘
181	〃	A	5.5	3.5	1.3	36.0	A	切目石錘

番号	器種	グリッド	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	備考
182	石錘	B SA 3	4.1	3.6	1.1	24.0	A	切目石錘
183	〃	B e-32	8.2	4.2	1.8	78.0	B	切目石錘
184	〃	B f-31	6.0	3.5	1.4	42.0	A	切目石錘
185	〃	B h-30	5.4	3.7	1.4	46.0	A	切目石錘
186	〃	B m-31	3.7+α	2.6	0.8	10.0	B	切目石錘
187	〃	D a- 7	4.3	3.3	0.7	14.0	B	切目石錘
188	打製石鏃	D b- 7	2.6	1.3	0.26	1.0	M	凹基無茎鏃
189	〃	D b- 8	3.0	1.8	0.3	1.2	L	凹基無茎鏃
190	〃	A g- 6	2.6	1.6	0.4	1.45	N	凹基無茎鏃
191	〃	A j- 5	1.7	1.5	4.7	1.0	L	凹基無茎鏃
192	〃	A i- 6	1.8	1.6	3.5	0.7	L	凹基無茎鏃
193	〃	B SA 4	2.2	1.0	3.7	0.35	L	円基鏃
194	〃	B SA 6	1.9	1.4	5.2	1.0	O	凹基無茎鏃
195	〃	B SA 1	1.6	1.5	2.5	0.35	M	凹基無茎鏃
196	〃	B k-30	2.6	1.1	3.5	1.35	M	円基鏃
197	〃	C SA 1	1.4	1.1	3.0	0.3	M	
198		A i- 4	9.3	4.3	1.6	94.0	G	
199	のみ状石斧	A j- 7	7.1	9.5	0.7	6.15	B	
200	〃	E	4.9	1.2	7.3	5.75	B	
201	磨製石斧	A	5.1	4.1	0.9	25.45	B	
202	〃	A i- 8	5.5+α	3.8	0.9	18.58	B	
203		E	5.6+α	3.35+α	5.1	17.3	A	
204		A i- 3	2.8	2.8	0.6	7.0	A	

第6節　弥生時代の遺構と遺物

弥生時代の遺構としてはA地区のｈ－８・９で長方形プランの竪穴住居が１軒検出されたのみである。

(1) 竪穴住居

ＳＡ１（第142・143図）

ＳＡ１の規模は長さ585cm、幅415cm、深さ60cmの規模で、主軸はほぼ東西方向である。柱穴は南北方向に長径80cm、短径50cm、深さ９cmの楕円形プランのピットと長径100cm、短径65cm、深さ41cmの不定形プランのピットの２本柱である。南のピットは摺り鉢状の断面を呈し、長さ17cm、幅９cmの石４個と伴に、磨製石鏃２が出土している。このピットの埋土の断面を見ると黒褐色土層（Ｈｕｅ7.5ＹＲ　2/2）の中に暗褐色土層（Ｈｕｅ10ＹＲ　3/3）が柱状に入っている。埋土はⅠ層が１～３mmの細礫及び白色の細粒を含む暗褐色土層（Ｈｕｅ10ＹＲ　3/4）、Ⅱ層が灰褐色の粘土粒及び小ブロックを含み、黄褐色のパミスをわずかに含む褐色土層（Ｈｕｅ7.5ＹＲ　4/4）である。無茎磨製石鏃や未製品・剥片が多数出土しており、土器片は出土したが、図化できるものはなかった。

磨製石鏃の製品は３点出土しており、すべて無茎鏃である。１は基部と表裏面の磨きが不十分であり、半製品である。長さ4.1cm、幅2.3cm、厚み0.25cm、重さ3.4ｇ。２・３は基部と表裏面は丁寧に磨かれており製品である。２は長さ3.4cm、幅2.6cm、厚み0.3cm、重さ3.3ｇである。３は長さ4.1cm、幅2.0cm、厚み0.2cm、重さ2.0ｇであり、２より細身である。１～３の石材はすべて頁岩である。

６は1.5cm間隔で３ケ所に穿孔を施した軽石製加工品で、不定形の３辺に面取りを行っている。穿孔の孔径は0.8cm、0.5cm、0.3cmで両側穿孔である。穿孔の１つは貫通していない。長さ6.1cm、幅3.8cm、厚み2.1cm、重さ11.8ｇである。

(2) 弥生土器

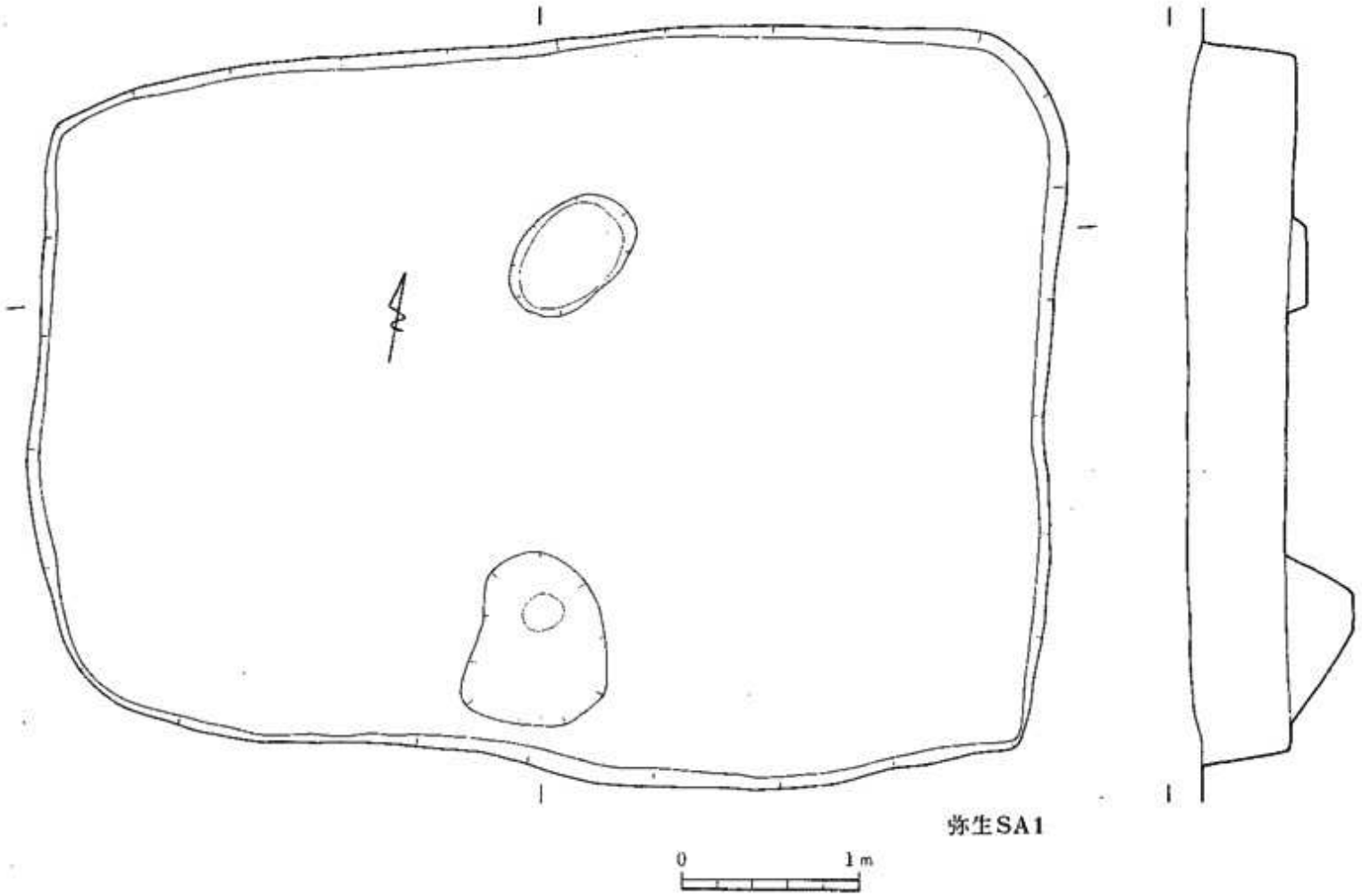
弥生土器はA地区と土器密集区で少量出土している。

壷　（第144図１～４）

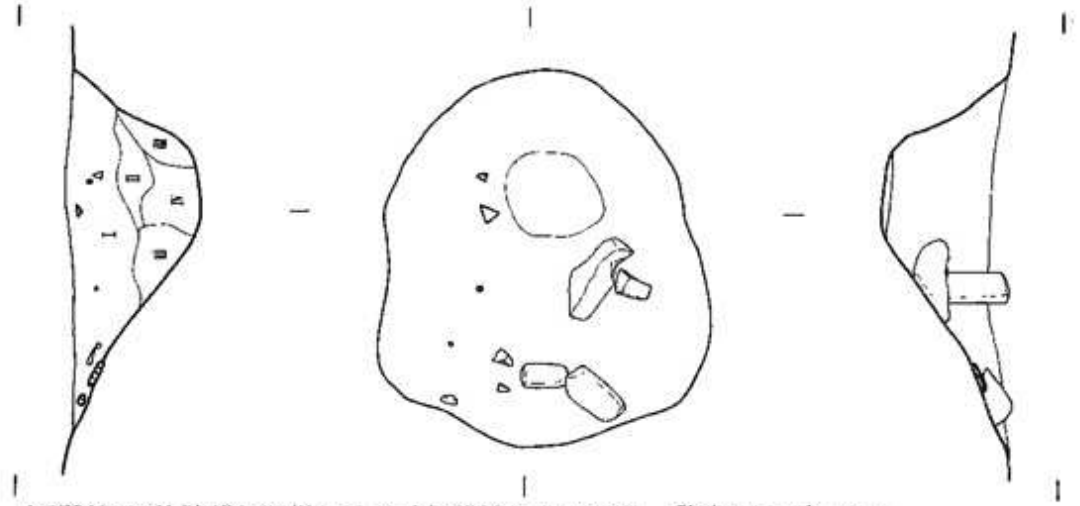
１は頸部が緩やかに伸びながら外反する壷である。内外面とも風化しており、調整は不明であるが、ヨコナデの可能性がある。２は壷の頸部片である。３は内外面とも丁寧なヨコナデを施している壷の頸部である。４は３条の三角形突帯を有する壷の肩部である。内外面ともヨコナデを施しており、表面には煤が付着している。

鉢　（第144図５）

５は口縁部が内湾しながらほぼ真直に立ち上がり、椀状を呈する器高の低い鉢である。口唇部はヨコナデで丸く仕上げており、内外面とも風化している。



第142図　A地区　弥生ＳＡ１実測図



I 暗褐色土(7.5YR3/4) 粘性に強くヌメリがある。0.5 ～2mm程度の砂粒を含み、ザラつく感じで纏まりは無い。

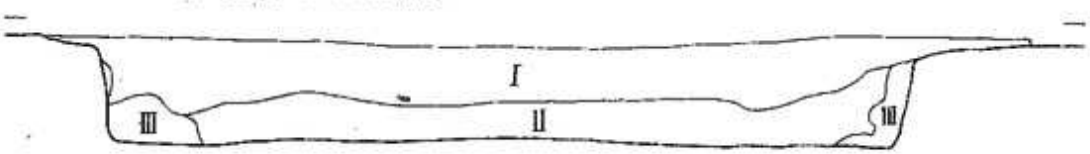
II 黒褐色土(7.5YR2/2) 粘性は普通で纏まりがよい。白色粒子を多く含み、砂粒も含むがI層より少ない。炭化物を多く含む。

III 黒褐色～(2.5YR2/2) 土質はII層に類似するが、より締まっている。黄褐色のパミスを含み、予想りがザラザラしている。炭化物をわずかに含む。

IV 暗褐色土(10YR3/3) 粘性に強く、1～II層よりは締まりは弱い。黄褐色のパミスを多量に含み、径0.5 ～2cm程度のパミスのブロックを含む。

弥生SA1 内 SH1

0 1m



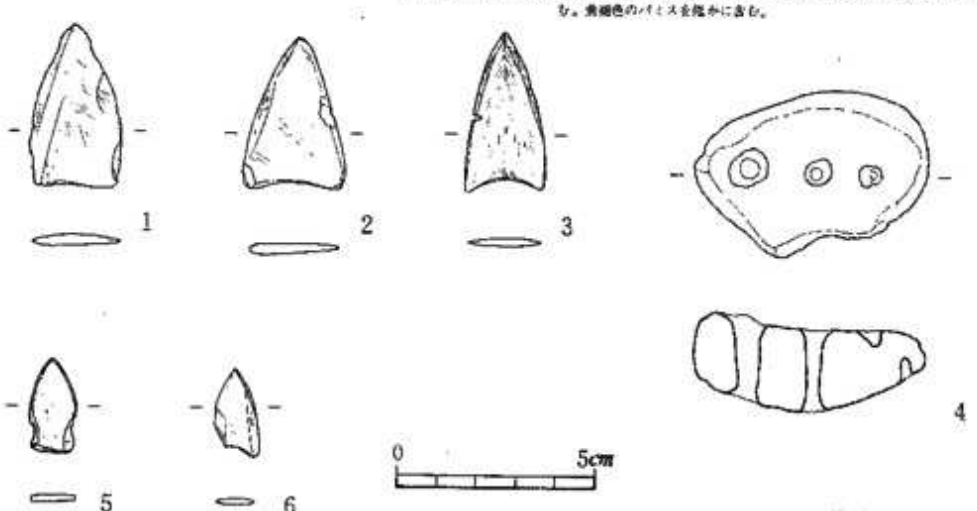
弥生SA1 土層断面図

I 暗褐色土(10YR3/4) 粘性中程度、締まりがよい。1～3mmの細礫及び白色の砂粒を含む。

II 黒褐色土(7.5YR3/1) 粘性中程度で締まりがよい。白色粒子を僅かに含み黄褐色パミスも僅かに含む。

III にぶい黄褐色～(10YR4/3) 粘性弱くザラザラしている。黄褐色のパミスを多く含み、径1～3cm程度のブロック状になっているところもある。

IV 褐色～(7.5YR4/4) 粘性強くヌメリがある。締まりはよい。灰褐色の粘土塊及び小ブロックを含む。黄褐色のパミスを僅かに含む。



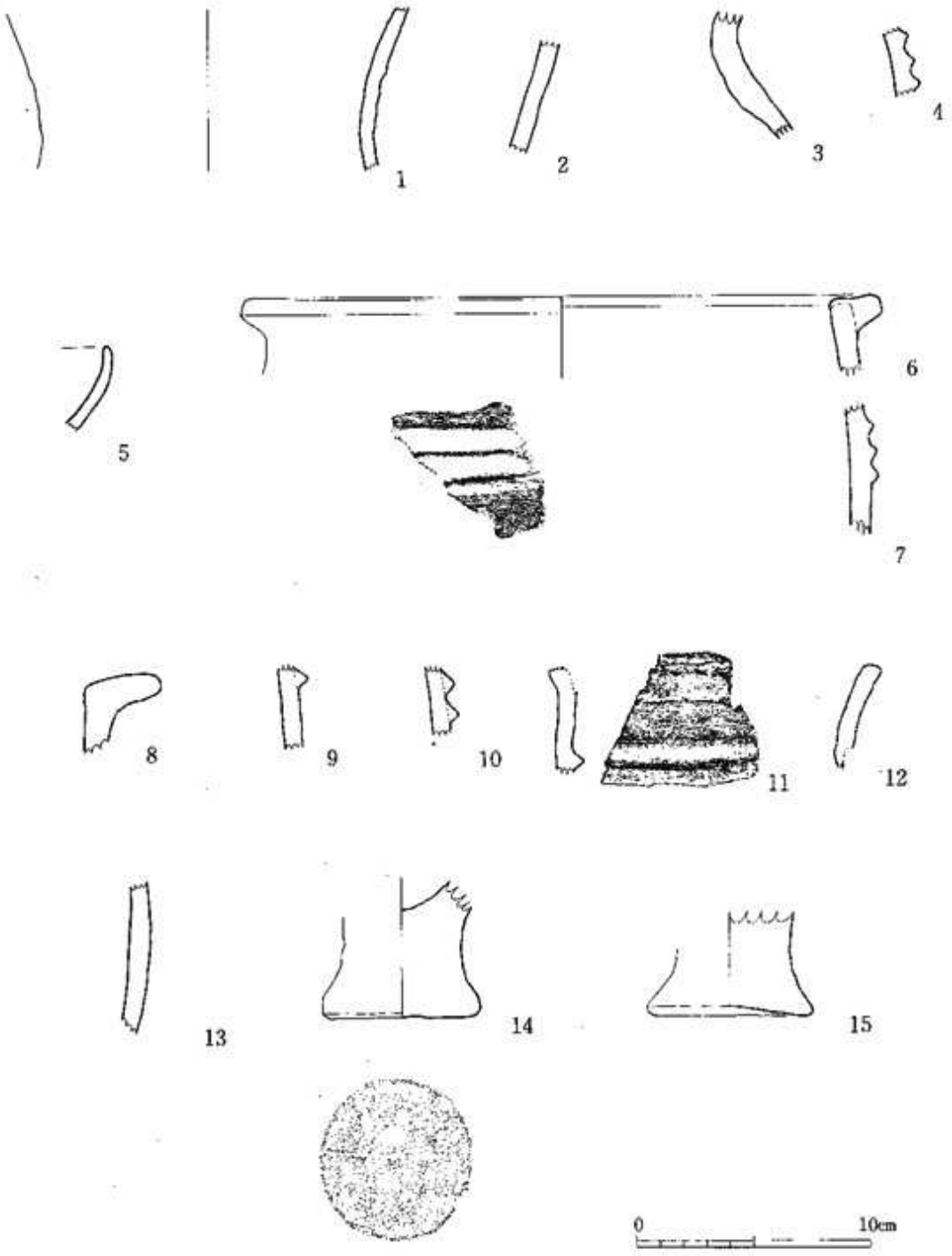
1～4. 弥生SA1
5. A地区g－6.6.A地区

第143図　弥生SA1 内 SH1 実測図、弥生SA1 土層断面図・弥生遺物実測図

甕　（第144図6～10）

6は口唇部は平坦に仕上げ、内側がわずかに肥厚する逆L字形の口縁部で、7・9・10のような3条の三角形突帯を下位に有する甕である。口径は26.6cmで、内外面ともヨコナデを施しており、煤が付着している。7も6と同一タイプである。7・9・10も内外面ともヨコナデを施しており、煤が付着している。15・16の充実した底部は6・7に伴う底部で、内外面ともナデを施している。14が木の葉底の平底であるのに対して、15は上げ底である。底径は14が6.7cm、15が7.1cmである。

12は口縁部がほぼ直線的に外反し、口唇部は平坦気味に仕上げている。内外面ともヨコナデを施している。



第144図　弥生土器実測図　　8～11・14～15．A地区　12．B地区
1～7・13．E地区

第Ⅲ章　ま と め

丸野第２遺跡は縄文時代早期・前期・中期・後期と弥生時代中期・後期の遺跡であるが、最盛期の縄文時代後期には竪穴住居が27軒営まれている。しかし、縄文時代晩期と弥生時代前期には集落の形成が断絶しており、集落の移動か廃絶が考えられる。

第１節　縄文時代早・前期について

縄文時代早期の土器群は、Ａ地区北端部出土の前平式土器とＢ地区中央部出土の山形押型文土器・塞ノ神式土器であるが、住居が検出された部分のアカホヤ下層を発掘調査していないので、分布及び詳細について不明であり、前平遺跡群(1)（田野町）との比較はできなかった。集石遺構は１基だけ検出されている。

縄文時代前期の土器としては滑石を含まず、口縁部の２条の横方向の沈線文の下に短沈線文を施した曽畑式土器がＥ地区から出土しており、水ノ江和同氏分類(2)のⅢ式に相当する。

第２節　縄文時代後期について

縄文時代後期の問題点のうち特に(1)～(7)について述べる。

(1)　縄文時代後期の土器群について

第Ⅱ章第５節(5)縄文土器の分類は従来の土器編年に対応すると次のようになる。口縁部外面に連続押圧（刺突）文、その下に沈線文を施すⅡ類は、岩崎上層式に相当する。口縁部をわずかに肥厚させた文様帯の下部を沈線文で区切り、その上は斜沈線文を施すⅢａ類は、出水式に相当する。口縁部をわずかに肥厚させた文様帯に二枚貝腹縁または竹管状工具・ヘラ状工具などによる沈線文・短沈線文・刺突文・押引き文などを施したⅢｂ類は、御手洗Ａ式に相当する。厚く肥厚した口縁部文様帯に沈線文と刺突文・押圧刻みを施しているⅣ類のうち、沈線文間に連続刺突文を施すものは擬似磨消縄文土器に相当する。沈線文または平行沈線文を主文様として用いるⅤ類は、指宿式に相当する。口縁部の内面上部あるいは口唇部に施文されるⅥ類は、内面施文土器に相当する。口縁部を肥厚させ、断面が三角形または逆「く」字形に成形し、文様として貝殻腹縁の連続刺突文や竹管状工具による爪形あるいは「D」字形の連続刺突文や単独の刺突文、沈線文や凹線文などを施すⅦ類は、市来式に相当する。口唇部をわずかに拡張させたような、口縁部文様帯幅の比較的狭いもので、文様は「D」字形連続刺突文などの単純なものを施すⅦａ類がある。外面のくびれ付近から口縁部が外傾または外反し、文様はこの付近に施されているⅧ類は、草野式に相当する。磨消縄文と磨研土器のⅨ類は、小池原上層式・鐘崎式・北久根山式などに相当する。これらの土器の

分類を草野貝塚分類[3]と対応させると、丸野Ⅳ類は草野貝塚Ⅲ類に、丸野Ⅴ類が草野貝塚Ⅰ類に、丸野Ⅵ類が草野貝塚Ⅳ類に、丸野Ⅶ類が草野貝塚Ⅴ類に、丸野Ⅷ類は草野Ⅵ類に相当する。以上のように後期の土器群としては、Ⅱ類の岩崎上層式・Ⅴ類の指宿式などの凹線文・沈線文系の土器、松山式・Ⅶ類の市来式・Ⅷ類の草野式などの貝殻文系の南九州の土器群と小池原上層式・鐘崎式などのⅨ類の磨消縄文系の東九州・西九州の土器群で構成されている。特に指宿式・市来式の時期にピークがある。

また遺構出土の底部は120点で、内訳は網代底が62点（51.7%）、ナデなどの底部が57点（47.5%）、木の葉底が1点（0.8%）であり、網代底が過半数を占めている。また成分は不明であるが、白色物が底面に付着している底部が16点出土しており、全体の13.3%を占めている。

(2) 土器片加工円盤について

土器片加工円盤は989点出土しており、土器密集区が47.1%、A地区が30.1%、B地区が21.0%、C地区が1.4%である。住居などの遺構からも9.7%の96点が出土しており、A地区のＳＡ２が最多の22点出土している。重量は4.0ｇ～115.0ｇに分布しているが、14.0ｇ～27.0ｇに集中しており、特に19.0ｇ～21.0ｇにピークがある。平均の重量は24.5ｇであり、切り目石錘の平均重量の53.5ｇの約半分の重さである。この用途については不明であるが、居住域よりも廃棄空間で多数出土していることなどを考えると、実用的な用途よりも『祭祀』的な用途が想定されるかも知れない。その具体的中身は不明であるが、平畑遺跡[4]（宮崎市）の土器廃棄空間で出土している赤色顔料付着の精製磨研土器・岩偶・高坏などに替わるものと推定される。しかし、土器片加工円盤には面取りしているものは数点であり、ほとんどのものは打ち欠いて整形しているだけであるので、再考の余地が十分ある。

県内では陣内遺跡[5]（高千穂町・点数不明）・青木遺跡[6]（田野町・200点以上）・尾立遺跡[7]（綾町・点数不明）・駒栗毛遺跡[8]（小林市・点数不明）・崩野遺跡[9]（南郷町・257点）・下弓田遺跡[10]（串間市・10数点）などの後期の遺跡から出土している。一方、宮崎学園都市遺跡群（宮崎市）では平畑遺跡ＸＸⅣ区[11]で14点、平畑遺跡ＸＸⅤ区[12]で５点、平畑遺跡Ｐ・Ｑ区[13]で少量出土しているだけである。

(3) 石器組成について

石器としては、磨製石斧が64点（31.5%）、磨石57点（28.0%）、石錘18点（8.9%）、敲石16点（7.9%）、石皿14点（6.9%）、打製石鏃11点（5.9%）、台石９点（4.4%）、鑿状石器４点（2.0%）、石刀２点（1.0%）、その他７点などの計203点出土している。石器はA地区が45.3%、土器密集区が31.5%、B地区が20.7%、C地区が2.0%で、出土の割合は遺構の数が多いB地区よりもA地区が高い。石器組成の特徴としては、磨製石斧が64点の31.5%、磨石が57点の28.0%を占めている。このことは木の実などの植物採集に依存する割

合が高いことを示している。

出土地区ごとに石器組成を見てみると、土器密集区は磨製石斧が23点と全体の64点の35.9％を占めているのに対して、磨石８点（12.5％）と極端に少なく、遺跡全体の石器組成とは異なり如何に多くの石斧が廃棄されていたかが分かる。Ａ地区は92点のうち磨石35点（38.0％）、磨製石斧24点（26.1％）、石錘９点（9.8％）であり、遺跡全体の石器組成とは異なり磨石が磨製石斧より多い。またＢ地区の住居群の遺構内及び埋土からは22点出土しているが、磨石８点（36.4％）、磨製石斧６点（27.3％）とＡ地区と同様な在り方を示している。住居内から出土した石器組成は磨石が９点（40.9％）、磨製石斧が５点（22.7％）、石鏃が４点（18.2％）、敲石が３点（13.6％）、石錘１点（4.5％）であり、Ａ・Ｂ地区と同様な在り方を示しているが、石鏃の割合が高いのが目立つ。住居からの出土で揃っているのはＢ地区のＳＡ３で磨石２・敲石１・石斧１・石錘１の組み合わせである。磨石を出土している住居はＡ地区ＳＡ２、Ｂ地区ＳＡ３・４・５・９、Ｃ地区ＳＡ２・４の７軒であり、石斧を出土しているのがＡ地区のＳＡ３、Ｂ地区のＳＡ３・５・７・８の５軒であり、打製石鏃はＢ地区のＳＡ１・４・６、Ｃ地区のＳＡ１の４軒である。集落本来の石器組成はＡ地区とＢ地区及び住居群の在り方が本来であり、廃棄空間と居住域における性格の違いが明確に示されている。特に県北の陣内遺跡[14]などで多数出土する扁平打製石斧が全く出土していないことは、県北と県南及び山間部と平野部の生活基盤の様相の違いを示しているかもしれない。

また石錘は8.9％を占めており、その内切り目石錘が72.2％と割合が高いことは既に指摘されているように河川域の漁労に関係すると思われる[15]。切り目石錘の平均重量は53.5ｇであり、平畑遺跡[16]の平均重量の53ｇとほぼ一致する。しかし打ち欠き石錘の重量は22ｇ～74ｇで平均47.3ｇであり、切り目石錘の平均重量よりも軽く、平畑遺跡[17]の打ち欠き石錘の平均186ｇ、下弓田遺跡[18]の打ち欠き石錘の平均181ｇと比較すると小形の石錘ばかりである。この石錘も切り目石錘と同様に河川域の漁労に関係すると思われる。当遺跡から東に約11㎞離れた平畑遺跡[19]では石錘が石器組成の約50％も占め、打ち欠き石錘が350点（81.6％）、切り目石錘が79点（18.4％）と当遺跡と逆の様相を呈しており、打ち欠き石錘の平均重量も186ｇであり、立地に起因して海の漁労の割合が高い集落の姿が浮かび上がる。また下弓田遺跡Ｂ地点[20]でも出土した139点の石器の内打ち欠き石錘が110点（79.1％）も占め、磨石と磨製石斧がそれぞれ４点（2.9％）、石皿と敲石が各１点（0.7％）であり、「漁村」的な集落の姿が如実に現われている。

磨製石斧は形態からＡ～Ｆに分類されるが、Ｃ類が23点（48.9％）、Ａ類が11点（23.4％）、Ｅ類が６点（12.8％）、Ｄ類が３点（6.4％）、Ｂ・Ｆ類が各２点（4.3％）であり、Ｃ類が半数近くを占めている。

第２の道具の刀剣形石製品は、県内では陣内遺跡[21]で石棒が１点、天附型石刀[22]が陣内遺跡[23]１点・西都原周辺[24]（西都市）２点・平畑遺跡[25]１点の計４点が知られているだけであるが、当遺跡から出土した数条の沈線と斜格子文を施した橿原型（ａ類）石刀[26]は、県内及び九州でも初例であるので注目される。出土した地点はℓ・ｍ－32で住居群の北に近接しており、破損して石刀としての機能が終わった時に、廃棄空間である土器密集区ではなく、居住域に意図的に廃棄されている。一方、平畑遺跡[27]の石刀もＳＡ23に含まれる可能性のある包含層で検出されており、完形のブーメラン形であり、機能が終わる以前の段階で廃棄されている。廃棄場所が両者とも居住域であることは、共通している。しかし陣内遺跡[28]では廃棄空間で発見されている。

当遺跡出土の石器を用途別に分類すると、磨石・敲石・石皿などの植物調理用石器が42.9％、磨製石斧・整形石器などの工具類が33.0％、石錘などの漁労用具が8.9％、打製石鏃などの狩猟用具が5.9％であり、立地に起因して平畑遺跡[29]とは異なり植物採集にかなり依存している集落の姿が浮かびあがる。

なお石材としては石皿・打ち欠き石錘はすべて砂岩が、台石は砂岩が、磨石は尾鈴山溶結凝灰岩が、敲石は安山岩が、磨製石斧はホルンフェルスが、切り目石錘は頁岩が、石鏃は黒曜石とチャートが多く使用されており、器種による石材の選択が行われている。宍戸　章氏の鑑定によれば特に磨製石斧はホルンフェルスや岩石Ａ～Ｄなどの県内産の石材ではないものが64点のうち56点（87.5％）も使用されており、石材の剥片も全く出土していないことは消耗度を含めて産地の同定・交流などの点で注目される。

(4)　竪穴住居について

竪穴住居が、Ａ地区で４軒、Ｂ地区で15軒、Ｃ地区で８軒の計27軒検出されたのは、県内では縄文時代晩期の平畑遺跡[30]の66軒に次ぐ規模であり、後期前半～中葉の集落としては平畑遺跡Ｐ・Ｑ地区[31]（11軒・円形プラン）と前野遺跡[32]（１軒・方形プラン）と下弓田遺跡[33]（３軒・方形プラン）が発掘されただけである。特にＢ地区では住居の切り合いから方形プランと円形プランの混在から円形プランへの変遷が追えると伴に、岩崎上層式から草野式までの土器編年と対比することが可能となった。

竪穴住居の切り合いと出土土器によってＢ地区ではⅠ期（岩崎上層式段階・当遺跡縄文土器分類のⅡ・Ⅲ類、縄文土器分類は以下同じ）のⅠａ期（Ⅱ類）がＳＡ４（方形プラン・8.7㎡）、Ⅰｂ期（Ⅲ類）がＳＡ５（方形プラン・12.9㎡）・ＳＡ８Ａ（円形プラン・16.6㎡）・ＳＡ３Ａ（方形プラン・16.8㎡）、Ⅱ期（指宿式段階・Ⅴ類）のⅡａ期（Ⅴａ・ｂ類）がＳＡ６（方形プラン・11.6㎡）・ＳＡ２Ａ（方形プラン・16.2㎡）、Ⅱｂ期（Ⅴｃ類）がＳＡ９（円形プラン・10.2㎡）・ＳＡ３Ｂ（方形プラン・27.6㎡）、Ⅲ期（市来式段階・Ⅶ類）のⅢａ期（Ⅶａ・ｂ類）がＳＡ10（円形プラン・5.3㎡）・ＳＡ８Ｂ（円形プラ

表9　丸野第2遺跡竪穴住居変遷表

地区　住居	Ⅰa期	Ⅰb期	Ⅱa期	Ⅱb期	Ⅲa期	Ⅲb期	Ⅳa期	Ⅳb期
B　2A			←□	→				
2B					←□→			
3A	←	□→						
3B			←	□→				
3C					←	○→		
4	←□			→				
5	←	□		→				
6			←□		→			
7A				←		○		→
7B				←			○	→
8		←○			○	→		
9	←			○→				
10					←○→			
A　1A				←□→				
1B					←○→			
2	←		□		→			
3			←		○	→		
C　1A		←				○→		
1B							←○	→
2					←		○	→
3								←○→
4						←○→		
5							← ○	→
6				←○→				
7								←○→

ン・16.6㎡）・ＳＡ２Ｂ（方形プラン・16.0㎡）、Ⅲｂ期（Ⅶｃ類）がＳＡ７Ａ（円形プラン・9.1㎡）・ＳＡ３Ｃ（円形プラン・10.2㎡）、Ⅳ期（草野式段階・Ⅷ類）のＳＡ７Ｂ（円形プラン・9.1㎡）となる。Ａ地区ではⅡａ期がＳＡ２（方形プラン・10.2㎡）、Ⅱｂ期がＳＡ１Ａ（方形プラン・10.9㎡）、Ⅲａ期がＳＡ１Ｂ（円形プラン・13.8㎡）・ＳＡ３（円形プラン・16.6㎡）となる。Ｃ地区ではⅡｂ期がＳＡ６（円形プラン・9.1㎡）、Ⅲｂ期がＳＡ１Ａ（円形プラン・16.6㎡）・ＳＡ４（円形プラン・10.2㎡）、Ⅳａ期がＳＡ１Ｂ（円形プラン・15.2㎡）・ＳＡ２（円形プラン・11.3㎡）、Ⅳｂ期がＳＡ３（円形プラン・6.2㎡）・ＳＡ７（円形プラン・10.2㎡）、Ⅳ期がＳＡ５（円形プラン・8.0㎡）である。

以上のようにＡ・Ｂ地区が方形プランから円形プランへの変遷が追えるのに対してＣ地区では円形プランのみを造営している。Ａ地区ではⅡａ期に方形プランのＳＡ２の造営に始まり、Ⅲａ期に円形プランのＳＡ１Ｂ・ＳＡ３で規模が大きくなっている。Ｂ地区は初現期の方形プランのＳＡ４のⅠａ期からⅢａ期まで大きな住居が継続して建てられ、特にⅠｂ期が３軒と最大の軒数になり方形プランと円形プランが混在する。しかし、Ⅱａ期にはＳＡ２とＳＡ６のように方形プランへの揺り戻しが起きるが、Ⅱｂ期とⅢａ期には方形プランと円形プランが混在し、Ⅲｂ期とⅣａ期には円形プランになる。Ｃ地区ではⅡｂ期に円形プランのＳＡ１Ａに始まり、Ⅲｂ期とⅣａ期に規模が大きくなっている。３単位が勢揃いし、集落の体裁を整えるのはⅡｂ期であり、この時期に当集落最大規模のＢ地区ＳＡ３Ｂ（27.6㎡）が営まれる。またこの時期の住居は４軒で、方形プランと円形プランが半々である。次の時期のⅢａ期には最大規模の５軒で、Ｂ地区のＳＡ２Ｂのみが方形プランであり、その他はすべて円形プランである。Ⅲｂ期になると４軒ともすべて円形プランである。３単位の中心はＢ地区の単位であり、その中でもＳＡ３である。

住居の面積は最大規模がＢ地区ＳＡ３Ｂであるのに対して最小規模はＢ地区ＳＡ10の5.3㎡であり、平均は13.0㎡である。5.0㎡～6.2㎡のＡグループ（３軒）、8.0㎡～12.0㎡のＢ－１グループ（13軒）、12.8㎡～13.8㎡のＢ－２グループ（２軒）、15.0㎡～17.0㎡のＢ－３グループ（７軒）、最大規模の27.0㎡のＣグループ（１軒）に分かれる。方形プランの住居は隅丸方形プランを含むとＢ・Ｃグループに分布するのに対して円形プランの住居はＡ・Ｂグループに分布する。Ａ・Ｂ地区の単位は初現期はＢ－１グループであるのに対してＣ地区の単位はＢ－３グループである。Ａ地区ではＳＡ３が、Ｂ地区ではＳＡ３Ｂが、Ｃ地区ではＳＡ１Ａが突出しており、それぞれＳＡ１Ｂ、ＳＡ９、ＳＡ４というより小型の円形プランの住居が付属する。なお平畑遺跡分類[34]の大型住居・中型住居・小型住居にはそれぞれＣグループ、Ｂグループ、Ａグループが対応する。

(5) 集石遺構について

大小の礫を用いた配石・集石遺構が30基検出されており、第Ⅱ章第５節(3)集石遺構Ｅ地区

で指摘されているように共伴土器と遺構検出の状況から後期前半の時期に比定される。この時期の配石・集石遺構は県内では青木遺跡[35]（１基）・崩野遺跡[36]（一次調査１基・二次調査10基）で検出されているが、平畑遺跡[37]では１基も検出されていない。青木遺跡[38]の配石遺構は直径約2.5mの不整円形プランで、市来式土器が出土している。崩野遺跡[39]では住居が１軒だけで配石・集石遺構との位置関係は不明であるが、やはり当遺跡と同様に集石遺構は土器密集区に近接して造営されている。当遺跡ではＢ地区の住居群から北に40～60m離れた北側斜面の土器密集区に近接して配石・集石遺構が集中して分布しており、配石・集石遺構の性格を考える上で示唆的である。また配石・集石遺構の西側10mには湧水があることも性格を考える上で重要である。

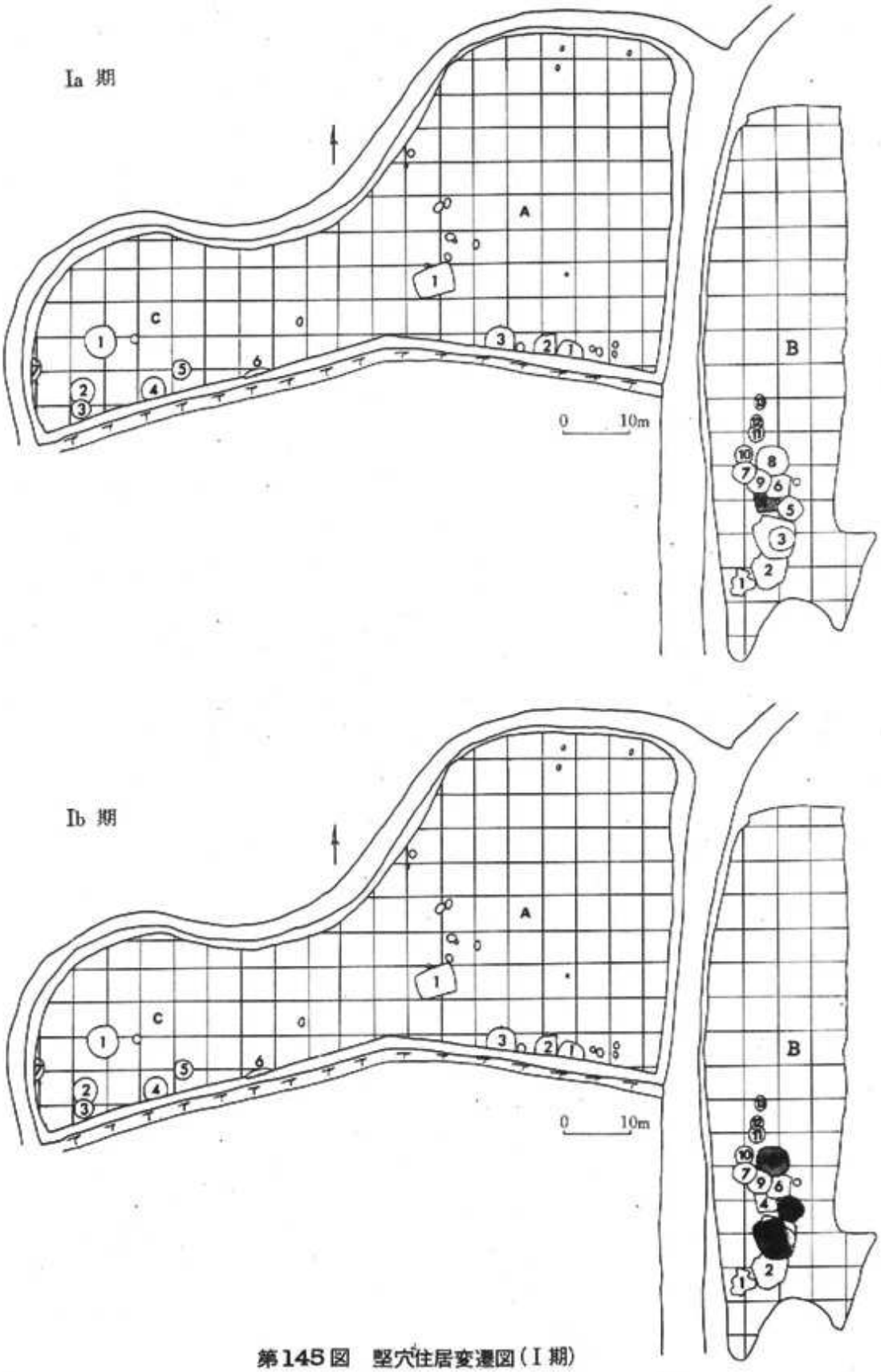
(6) 土器密集区について

Ａ地区の北端部のＤ地区とＥ地区にまたがる土器密集区は、一次調査[40]では「土器溜まり」、二次調査[41]では「土器密集部」として報告した地区であり、第Ⅱ章第４節(4)土器密集区で述べられているように北西斜面・湧水・多量の土器の出土などの６つの特徴から、廃棄空間（土器廃棄場）としての姿が浮かび上がる。この在り方は平畑遺跡ＸＸⅣ区[42]・ＸＸＶ区[43]や崩野遺跡[44]でも見られる。平畑遺跡の廃棄空間では土器群のわずかな時期差や３ケ所の土器集中箇所やそのうちの１ケ所に見られた焼土の存在、赤色顔料付着の精製磨研土器・岩偶・高坏などの出土から廃棄場所の規制や超過すると場所を移してまた廃棄するというような廃棄法が行われた可能性も指摘されている[45]。しかし、石器組成においては当遺跡に見られる土器廃棄空間と居住域との相違は指摘できない。

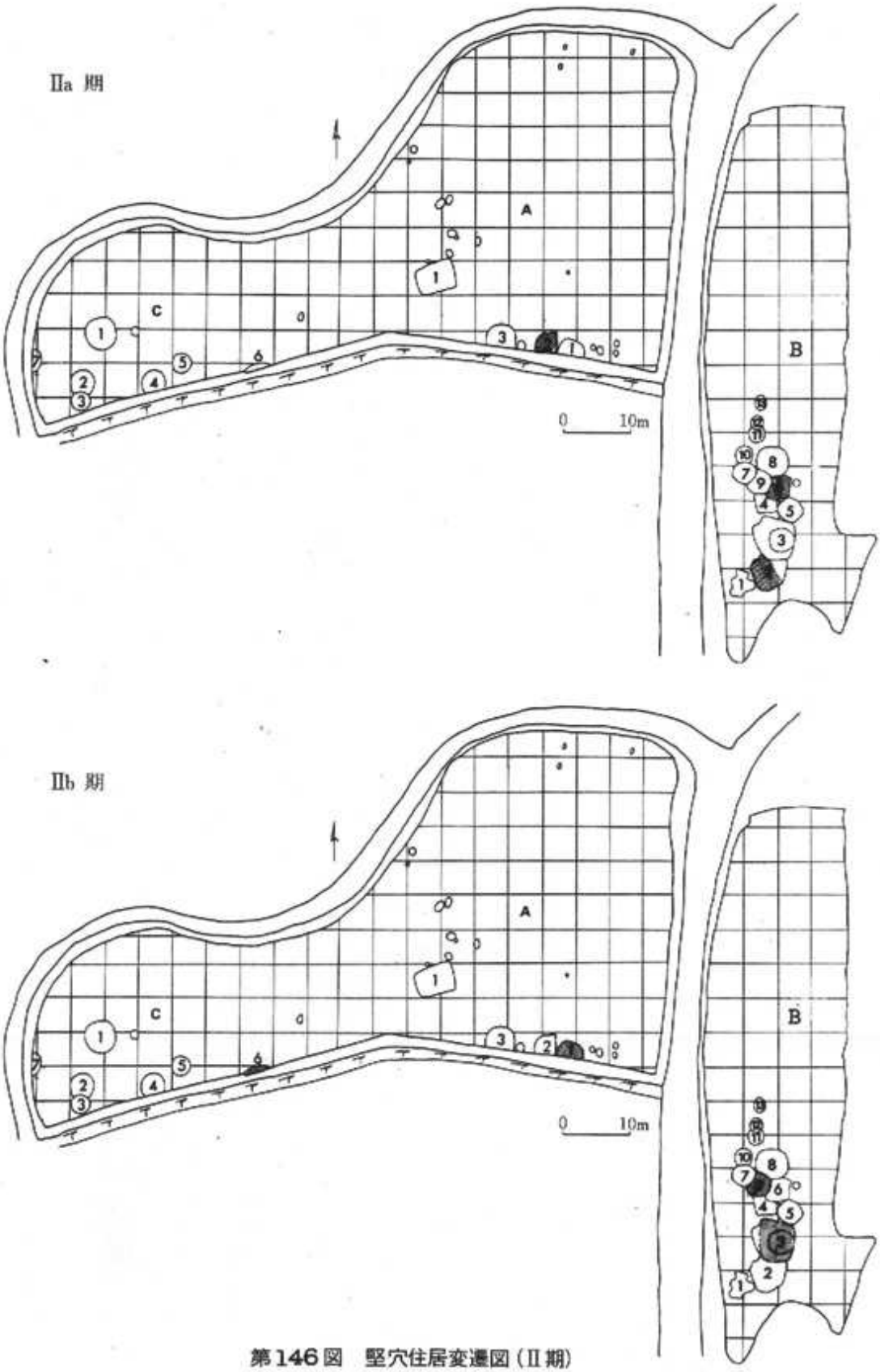
(7) 縄文集落について

以上のようにＢ地区はⅠ期～Ⅳ期、Ａ地区はⅡ期～Ⅲ期、土器密集区はⅡ期～Ⅲ期、Ｃ地区はⅡ～Ⅳ期と地区によって形成される時期が異なっている。住居はⅠａ期が１軒（Ｂ地区）、Ⅰｂ期が３軒（Ｂ地区）、Ⅱａ期が３軒（Ａ・Ｂ地区）、Ⅱｂ期が４軒（Ａ・Ｂ・Ｃ地区）、Ⅲａ期が５軒（Ａ・Ｂ地区）、Ⅲｂ期が４軒（Ｂ・Ｃ地区）、Ⅳａ期が３軒（Ｂ・Ｃ地区）、Ⅳｂ期が２軒（Ｃ地区）、Ⅳ期が１軒（Ｃ地区）である。最盛期はⅡ期～Ⅲ期である。一時期の竪穴住居の軒数はＢ地区では２～３軒、Ａ地区の２軒、Ｃ地区の２軒であり、２～３単位で構成された４～５軒の集落が復元される。３単位で集落が構成されるのはⅡｂ期のみであり、残りの時期はＢ地区の単位を中心としてⅠａ期～Ⅲａ期がＡ地区、Ⅲｂ期～Ⅳｂ期がＣ地区の組み合わせによる２単位で構成された集落である。Ａ地区の単位が廃絶後、Ｃ地区の単位が出現している。この集落の中心的な単位は初現期から継続して17軒の住居が建てられるＢ地区の単位であり、Ⅲｂ期の時期が３軒も同時に建てられており、最盛期である。

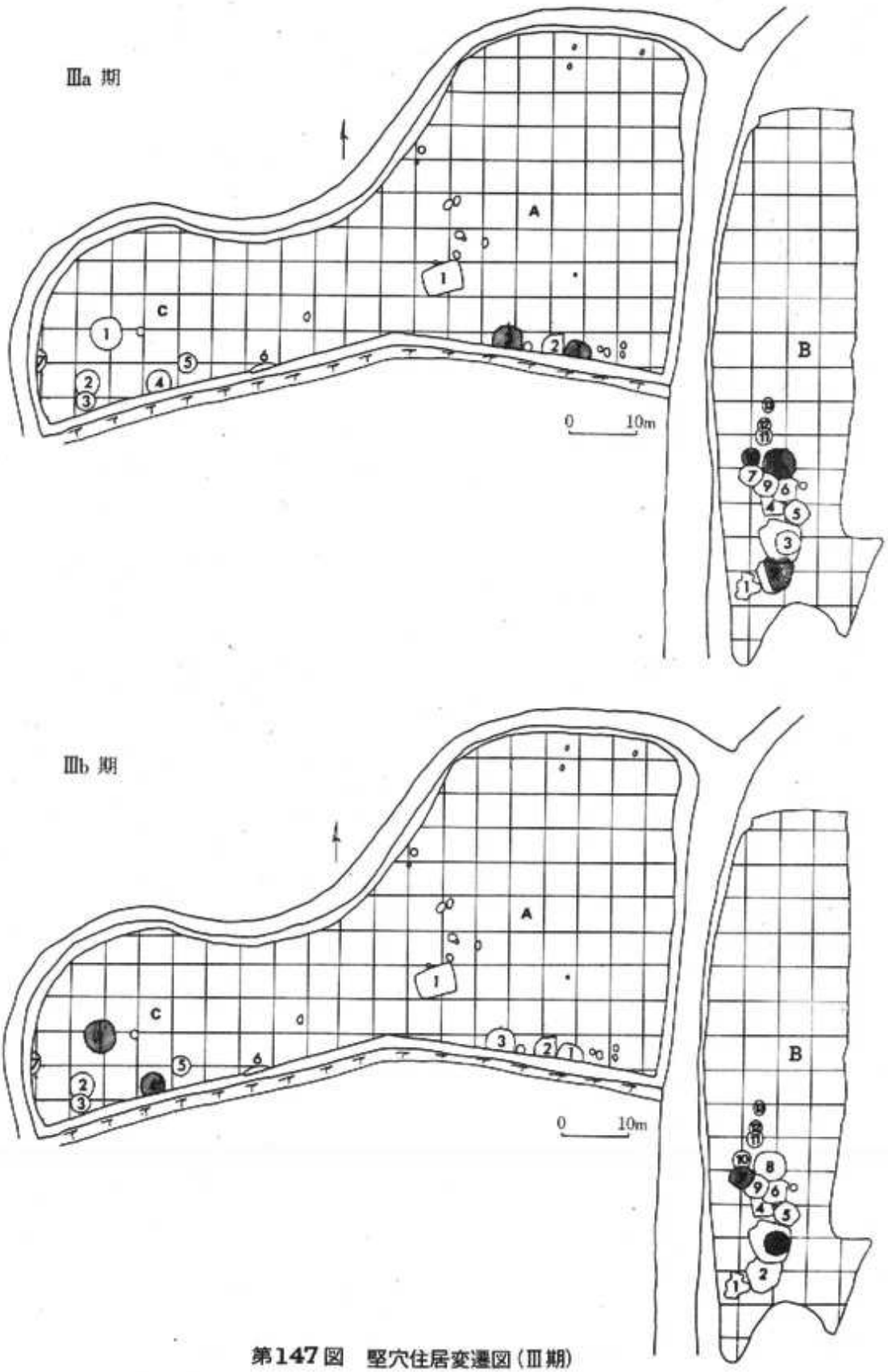
これらを総括すると、中央の広場？を中心として周囲に２軒の住居を１単位とする３単位



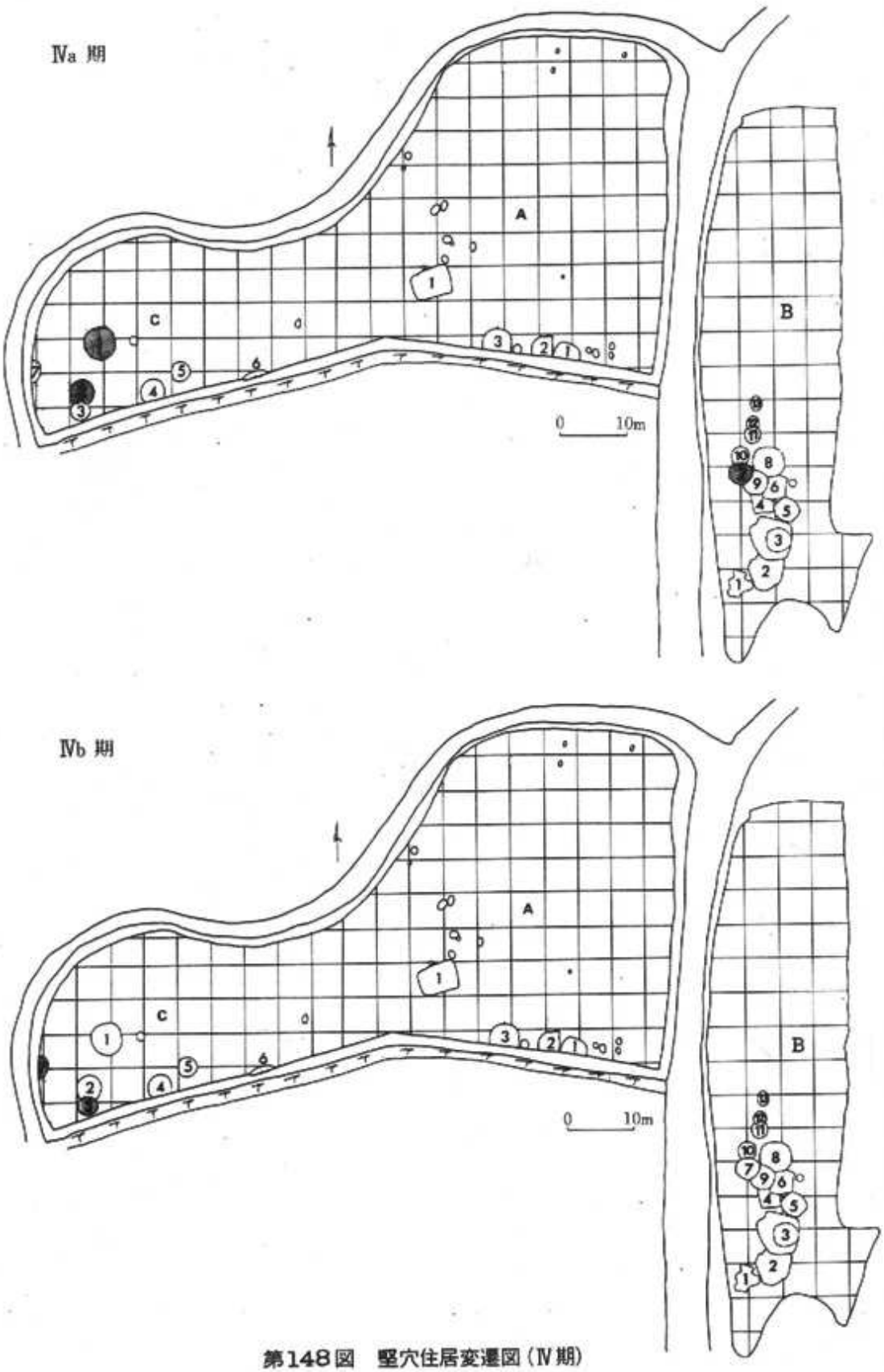
第145図　竪穴住居変遷図(Ⅰ期)



第146図　竪穴住居変遷図（II期）



第147図　竪穴住居変遷図（Ⅲ期）



第148図　竪穴住居変遷図（Ⅳ期）

の住居群が約30ｍの間隔で配置される居住域としての『内帯』、更に外側約40ｍの北側斜面に土器密集区と配石・集石遺構が配置される廃棄空間としての『外帯』という縄文時代後期の集落の姿を復元できる。県内では当遺跡に後続する後期後半から晩期前半の集落である平畑遺跡では１軒の20㎡の大型住居と数軒の10㎡の中型住居、それに炉を持つ５㎡の小型住居といった規模の異なる住居が一つの単位として、緩やかな南向きの傾斜に配列されるという集落景観が復元されており[46]、その外側に廃棄空間としての土器密集区が存在する。集落は後期には高位面に25軒、晩期には低位面に42軒形成されており、廃棄空間は高位面と低位面の段差のある境であり、当遺跡と平畑遺跡の集落の景観は広場の有無は別にして非常に良く似ているが、一つの単位が異なるのは時期的なあるいは立地的な差異によると思われる。

第３節　弥生時代後期について

弥生時代の住居であるＳＡ１からは磨製石鏃の未製品・剥片・製品が出土しており、石器製作の場として使用されている。県内では祝吉遺跡[47]（都城市）や城ケ尾遺跡[48]（高城町）などで磨製石鏃の製品・未製品・剥片などの出土で「工房」的な性格の住居が想定されているが、すべて日向型間仕切り住居である。立地に起因するのか前段階の縄文時代の集落とは異り、集落の北辺か、あるいは拠点的集落ではなかったと推定される。

以上のように、当遺跡は縄文後期の集落として住居の変遷及び土器編年が追究できたことは大きな成果であった。しかし土器型式の設定、他地域の土器編年との比較など土器編年について十分に消化していない点もあるため、後日機会を改めて述べたいと思う。

註

(1) 面高哲郎・寺師雄二　「芳ケ迫第１～３遺跡・札ノ元遺跡」『田野町文化財調査報告書』第３集　田野町教育委員会　1986

(2) 水ノ江和同　「西北九州における曽畑式土器の諸様相」『考古学と地域文化』同志社大学　1987

(3) 出口　浩他　「草野貝塚」『鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書(9)』鹿児島市教育委員会　1988

(4) 北郷泰道・菅付和樹　「平畑遺跡」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第２集　宮崎県教育委員会　1985

(5) 鈴木重治・賀川光夫　「陣内遺跡」『日向遺跡総合調査報告』第２輯　宮崎県教育委員会　1962

(6) 鈴木　重治　「宮崎郡田野町青木遺跡の調査」『日本考古学協会第28回大会研究発表

要旨』日本考古学協会　1963

鈴木　重治　「青木遺跡」『宮崎県史　資料編　考古Ⅰ』宮崎県　1989

(7) 石川恒太郎　「綾町尾立遺跡」『宮崎県文化財調査報告書』第4輯
宮崎県教育委員会　1959

田中　熊雄　「綾町尾立遺跡の研究(1)・(2)」『宮崎大学学芸学部紀要』13・14号
宮崎大学学芸学部　1962

田中　茂　「尾立遺跡」『宮崎県史　資料編　考古Ⅰ』宮崎県　1989

(8) 田中　茂　「こまくりげ遺跡」『九州縦貫自動車道埋蔵文化財調査報告(1)』
宮崎県教育委員会　1973

(9) 昭和62年3月～4月に南郷町教育委員会によって発掘調査が行なわれたが、未報告。永友良典氏の御教示による。

永友　良典　「崩野遺跡」『宮崎県史　資料編　考古Ⅰ』宮崎県　1989

(10) 石川恒太郎他　「下弓田遺跡」『日向遺跡総合調査報告』第1輯
宮崎県教育委員会　1961

(11) 註4に同じ

(12) 菅付和樹・日高孝治　「宮大農学部平畑遺跡ⅩⅩⅤ区」『宮崎大学埋蔵文化財調査報告Ⅰ』宮崎大学・宮崎県教育委員会　1985

(13) 昭和60年9月～12月に宮崎大学によって発掘調査が行なわれたが、未報告。

(14) 註5に同じ

(15) 坂元　嘉弘　「内陸部の縄文後期遺跡」『大分県史　先史編Ⅰ』大分県　1983

(16) 註4に同じ

(17) 註4に同じ

(18) 註10に同じ

(19) 註4に同じ

(20) 註10に同じ

(21) 註5に同じ

(22) 後藤　信祐　「縄文晩期の刀剣形石製品の研究(1)・(2)」『考古学研究』第33巻第3・4号　考古学研究会　1986

(23) 註5に同じ

(24) 小田富士雄　「宮崎県西都原付近発見の石刀」『九州考古学』第15巻第7号
九州考古学会　1962

(25) 註4に同じ

(26) 註22に同じ

(27) 註4に同じ
(28) 註5に同じ
(29) 註4に同じ
(30) 註4に同じ
(31) 註13に同じ
(32) 註9に同じ
(33) 註10に同じ
(34) 註4に同じ
(35) 註6に同じ
(36) 註9に同じ。二次調査は平成元年12月に南郷町教育委員会によって発掘調査が行われたが、未報告。
(37) 註4・12・13に同じ
(38) 註6に同じ
(39) 註9に同じ
(40) 長津　宗重　「丸野第2遺跡」『田野町文化財調査報告書』第4集
田野町教育委員会　1987
(41) 菅付　和樹　「丸野第2遺跡－第2次調査－」『田野町文化財調査報告書』第5集
田野町教育委員会　1988
(42) 註4に同じ
(43) 註12に同じ
(44) 註9に同じ
(45) 註12に同じ
(46) 註4に同じ
北郷　泰道　「集落論ノート」『考古学研究』第34巻第1号　考古学研究会　1987
北郷　泰道　『縄文の「むら」』『Museum　Kyushu』第7巻第1号
博物館等建設推進九州会議　1987
(47) 北郷　泰道　「祝吉遺跡」『都城市文化財調査報告書』第1集
都城市教育委員会　1981
(48) 長津宗重・寺師雄二　「城ケ尾遺跡」『高城町文化財調査報告書』第1集
高城町教育委員会　1989

丸野第2遺跡縄文土器観察表凡例

1　調整

A	ナデ
B	ヨコナデ
C	ヘラナデ
D	貝殻条痕（横方向）
E	貝殻条痕（縦方向）
F	貝殻条痕（斜方向）
G	ヘラ磨き（横方向）
H	ヘラ磨き（縦方向）
I	無調整
J	指押え
Z	不明（風化・剥離など）

2　文様

A	凹線文
B	刺突列点文
C	縄文
D	擬似縄文
E	太めの沈線文
F	浅めの沈線文
G	細めの沈線文
H	貼付け文
I	押圧刻み
J	ヘラ刻み
K	貝殻腹縁による連続刺突文
L	貝殻腹縁による押引文
M	連続刺突文
N	撚糸文
O	刺突文（連続していない）
P	刻み
Q	押圧文

3　色調

A	灰白	T	黄褐
B	浅黄橙	U	赤褐
C	淡黄	V	黒褐
D	黄橙	W	暗赤褐
E	明褐灰	X	暗褐
F	灰黄	Y	赤黒
G	にぶい橙	Z	黄灰
H	にぶい黄橙	ア	黒
I	橙	イ	灰
J	明黄褐	ウ	浅黄
K	褐灰	エ	灰赤
L	灰褐	オ	オリーブ黒
M	灰黄褐	カ	暗赤灰
N	にぶい赤褐	キ	暗灰黄
O	にぶい褐	ク	にぶい黄
P	褐	ケ	淡橙
Q	にぶい黄褐	コ	赤灰
R	明赤褐	サ	浅赤橙
S	明褐	シ	灰オリーブ

表10 縄文土器観察表

図面番号	地区名(遺構名)	調整			文様			色調		特徴	分類
		外器面	内器面	口唇部(底面)	外器面	内器面	口唇部	外器面	内器面		
1	A SA1	粗いB	Dの上をA	A				L	O	スス付着(口縁部外面) 波状口縁(波頂部にQ)	
2	〃	A	A	A	E			X	N	波状口縁	V c
3	〃	A	A	A			P	H	H	片側穿孔2	
4	〃	B	B	B	L			J	R	スス付着(口縁部外面)	V c
5	〃	B	B	B	F・C			L	H	スス付着(口縁部内面)	IX b
6	〃	縄文	B	A	C		E	W	O		IX a
7	〃	B	B	B	F		浅いE・C	Q	R		IX a
8	〃	A	Dの上を丁寧なA		D・G			Q	Q	スス付着(胴部内面)	IX
9	〃	A	A		F・K			P	I	金雲母	IX
10	〃	A	B		F・P			I	R	金雲母	IX
11	〃	Dの上をB	A	A	M			I	I	金雲母	VII a
12	〃	A	A	A	K			W	R		
13	〃	B	B	B	K			R	I		
14	〃	B	B	B	K		M	V	S		
15	〃	ナナメのA・B	ヘラ状工具による丁寧なB, ナナメのA	A				Q	I		XI
16	A SA1	D	D・F	A				Q	G	波状口縁	XI
17	〃	E	A	(A)				H	M		
18	〃	E	A	(A)				H	H		
19	〃	A	A	(A)				H	H		
20	A SA2	A	B	A	M・連続したQ		Q	G	G		II a
21	〃	E・A	D・F	D			P	H・Q	Q	波状口縁・波頂部にP	
22	〃	F, ナナメのA	B, Fの上ナナメのA	B			P	I	G	波状口縁・波頂部にP	
23	〃	ナナメのAの上をF	B	A			J	G	G		
24	〃	A	A	A	G		M	H	H		
25	〃	A	E・FのA	A	F		P	N	N・R		
26	〃	A	A	A	F		P	L・G	P		
27	〃	F・A	Dの上をA	A	M・F			H・M	M	波状口縁	
28	〃	A	E・A	A	M・F			H	B		
29	〃	B	B	A	F・M		J	R	V	口唇部にX印状の刻み	V b
30	〃	Dの上をA	BFの上をA	A	F			H	H		V c
31	〃	B	B	B	F・G			R	R		V c
32	〃	A・M	F	A	F		M	N	N		V c
33	〃	A, タテのA	D・A	A	M・P		M	U	X		VII a
34	〃	A	B	A	G・M			I	G		VII a
35	〃	B	B	A	E・P		M	O	I		VII b

図版番号	地区名(遺構名)	調整			文様			色調		特徴	分類
		外器面	内器面	口脇部(底面)	外器面	内器面	口脇部	外器面	内器面		
36	A SA2	DとFの上をA	D・F	A				I	1	スス付着 (胴部外面)	Ⅶb
37	〃	A	Fの上をA	A				B	B		Ⅵ
38	〃	Dの上をB, Z	F・B	A				B	B・A	波状口縁 スス付着 (胴部外面)	Ⅵ
39	〃	A	ナナメのA	A	H・B		O	H	Q		
40	〃	A	A	(網代底)				1	O		
41	〃	A	A	(網代底)				G	B		
42	〃	A・J	A	(網代底)				H	H		
43	〃	F・J・A	A	(A)				Q	M	金雲母	
44	〃	F・D・A	B	(網代底)				Q	H		
45	〃	E・A	A	(網代底)				H	H		
46	〃	A・J	B	(網代底)				Q	H		
47	〃	A・J	A	(網代底)				H	G		
48	〃	F・A	A	(網代底)				O	I		
49	〃	E・J	強いA	(網代底)				G	M・B		
50	〃	A・J	A	(A)				I	G		
51	〃	F・A	A	(網代底)				O	M		
52	〃	A・J	A	(網代底)				H	H		
53	〃	Z	A	(網代底・A)				Q	B		
54	A SA2	A・J	B・A	(A)				B・H	M		
55	A SA3	A	A・Z	A	F		I	H	H	波状口縁	
56	〃	A	A	A	F・O			H	M		
57	〃	D	D	A	F		P	H	H	黒雲母、スス付着(口縁部外面) 波状口縁	Ⅴc
58	〃	B	Dの上をA, F	B	F			M	M・G	波状口縁？	Ⅴ
59	〃	A	A	A	F			K・O	V		Ⅴ
60	〃	B	B	A	F			I	G		Ⅴ
61	〃	A	B	A	F			N	G		Ⅴ
62	〃	B	B	B	F・P			V	O		
63	〃	A	D	A	F・M			N	N	波状口縁	Ⅴa
64	〃	A・C	C	A	C・F	F	F	M	M	磨消縄文、波頂部(FとC)	Ⅸ
65	〃	B	D・F	A	F			R	N		Ⅶa
66	〃	A・Dの上をA	Dの上をA	A	M			U・N	O		Ⅶa
67	〃	Z	A	Z	K		ナナメP	R	カ		Ⅶa
68	〃	A	A・D	A	K			I・N	I・K		Ⅶa
69	〃	A・B	A・D	A	M			N	K		Ⅶa
70	〃	A・D	D	A	M			G	V	スス付着 (口縁部内面)	Ⅶa
71	〃	Z	Z	Z	M			I	I		Ⅶa
72	〃	B	Dの上をA	A	M			N	L		Ⅶa
73	〃	A・Z・F	A	Z	K			ヌ	O・オ		Ⅶa

図面番号	地区名(遺構名)	調整 外器面	調整 内器面	調整 口唇部(底面)	文様 外器面	文様 内器面	文様 口唇部	色調 外器面	色調 内器面	特徴	分類
74	A SA3	Dの上をA	Dの上をA	A	ヘラ状によるM			R	N		Ⅷa
75	〃	Dの上をA	A	A	貝殻腹縁によるL			O	I・O	波状口縁？	Ⅷa
76	〃	Z	A	A	M			W	Y	スス付着（口縁部内面）	Ⅷa
77	〃	A	A，Dの上をA	A	M			W・R	W		Ⅷa
78	〃	B	A	B	M			V	X		Ⅷa
79	〃	A・B	B	B	M			R	W		Ⅷa
80	〃	A	D・Eの上をA	A	M			V・I	X・V		Ⅷa
81	〃	A・D	D	A	M			N	K・I	スス付着（口縁部）	Ⅷa
82	〃	D・E・A	D，Aの上を棒状工具A	A			M	U	ア	スス付着（胴部外面） 脚台文様M	Ⅷa
83	〃	D・F	D・F	D				R	I		Ⅷa
84	〃	D	A，D・F	A	F・M			V・I	W・R	スス付着（口縁部外面）	Ⅷb
85	〃	B・Z	B	A	M・F			L	U		Ⅷb
86	〃	A，B	B	Z	F		連続P	Y	N		Ⅷb
87	〃	B	A	A	F・O			R	I	波状口縁？	Ⅷb
88	〃	A，D	D	A	深いE，K			Y・U	G		Ⅷb
89	〃	B	A，Z	A	F・O			I	H		Ⅷb
90	〃	B，D・F	A，D・F	A	M			V・I	I		Ⅷa
91	〃	D	D・A	A	M		一部G	X	U		Ⅷa
92	A SA3	D	F	A	ヘラ状工具によるM			R	I		Ⅷc
93	〃	A，Z	D	A	F・M			V	N		Ⅷb
94	〃	B	D	Z	K・F・M			L・I	I		Ⅷb
95	〃	A	A	A	G・M		O	I	I	波状口縁	Ⅷc
96	〃	A	A，タテのA	Z	G			O	L	波頂部文様帯(片側穿孔1)	Ⅷc
97	〃	A	A	A	G			I	O・L	波状口縁	Ⅷc
98	〃	A	A	A	M・E			I	I		
99	〃	A	B	A	貝殻腹縁によるO			N	W	波状口縁？	
100	〃	B	B	Z	K	K		I・N	V・I		
101	〃	Dの上をA	Dの上をA,D	A	K			P	N・P	スス付着（口縁部外面） 波状口縁	Ⅷd
102	〃	A,Dの上をA	A,Dの上をA	A			F	N	I	波状口縁 スス付着（口縁部外面）	Ⅺ
103	〃	A・D	Z	Z	K			P	X		Ⅷb
104	〃	A・D	D	A	K			N・R	N		Ⅷb
105	〃	A・B	Z	Z	G		G・M	I	I		Ⅸ
106	〃	D・F	D・F	A	G・M			X・I	L・G	波状口縁 スス付着（口縁部外面）	Ⅵb
107	〃	A	A	A	F			O	N		
108	〃	A	ヨコのC	A				R・K	K		
109	〃	A	A	A	Fの上をMヘラ状によるM			B	B		Ⅷb
110	〃	A，B，E	A	A	M		連続P	N	V		Ⅷ
111	〃	A	A	A	ヘラ状Mの中に連続Q			V	X・P		Ⅷb

図面番号	地区名(遺構名)	調整 外器面	内器面	口唇部(底面)	文様 外器面	内器面	口唇部	色調 外器面	内器面	特徴	分類
112	A SA3	A・D	D・F	A	連続Q			N・K	N		Ⅶa
113	〃	B	A・F	A	F			L	H		Ⅺ
114	〃	D	B	A	M			X	W		
115	〃	B	B	A				I	G		Ⅸ
116	〃	A・J	D・A	A				Z・H	X・H	スス付着（口縁部内面）	Ⅺ
117	〃	B	ナナメのA	A				M・H	H		Ⅺ
118	〃	E・D, J	A	(網代底)				D・P	G・M		
119	〃	B	F・A	Ø				R	N		
120	〃	Z	A	Ø				I	I・G		
121	〃	F・A	板状工具によるA	(網代底)				Q	H		
122	〃	F・A	D, F, J	Ø				I	L・I	白色物付着（底部外面）	
123	〃	D・F・A	指A, A	Ø				I	I		
124	〃	F・A	D・A, A	Ø				R	G		
125	〃	B・E	F・J	(網代底)				W・R	V・U	スス付着（胴部下端外面）	
126	〃	指 A	D・A	Ø				H	H		
127	〃	Z	F, A	網代底？				I	I		
128	〃	E・A	指A, A	(網代底)				H	H		
129	〃	E・A	Z	(網代底)				H	G		
130	〃	A・J	D・A	(網代底)				G	R		
131	〃	D・F・A	板状工具によるナナメのA	(網代底)				I	H		
132	A SC2	B	A・D	B	F			G	G		
133	〃	B	B	A	F Q		G・P？	N	S	波状口縁？	
134	〃	D	A	A	貝殻腹縁によるO			I	I		
135	〃	A・D	A・D・F	B				R	O		
136	〃	B	B	A	K			I	I		
137	〃	I・Z	A・D	B				P	P		
138	〃	A	A	A				H	Q		
139	A SC1	B	B	A			P	H	I		
140	〃	ナナメのA, B	B	B			連続I	S	G		
141	〃	A	A	A	工具によるM, G, Q		I	B	K	波状口縁　波頂部にI	
142	〃	B	B	B	G	G		H	Q		Ⅸ
143	〃	B	B	A	棒状工具によるM			K・H	O		Ⅶa
144	〃	Z	A	A	ヘラ状工具によるM			L・R	L		Ⅶa
145	〃	B・D	B・D	A	棒状工具によるM			X	P		Ⅶa
146	〃	A・D	A, D	A	ヘラ状工具によるM			I	H		Ⅶa
147	〃	A	B	Z	K			R	I・U		Ⅶa
148	〃	全体的にJ？D	D・F	B	ヘラ状工具によるM			P	S・V	一部スス付着（胴部外面）	Ⅶa
149	〃	D・F	A・F	A	ヘラ状工具によるM			P	R		Ⅶa
150	〃	B	B	A	ヘラ状工具によるM			P	P		
151	〃	Dの上をA	Fの上をA	—	ヘラ状工具によるM,E,K			N	I		Ⅶb
152	〃	D	D	A	ヘラ状工具によるM,K,E			N	I		Ⅶb

図面番号	地区名(遺構名)	調整 外器面	調整 内器面	調整 口唇部(底面)	文様 外器面	文様 内器面	文様 口唇部	色調 外器面	色調 内器面	特徴	分類
153	A SC4	A, D	A・D	A	ヘラ状工具による？M			H	S		
154	〃	D, A, B	Fの上をA	A	K			I	I	波状口縁	Ⅶb
155	〃	Fの上を一部A, A, D	A・J, F	A	工具によるM, F・E			R・N	I・L	波状口縁	Ⅶc
156	〃	A, D	D	A	貝殻腹縁による O			R	H		Ⅵ
157	〃	B, C, D	D	A	K			I	G		Ⅵ
158	〃	A	布によるA	A			G・K	S	O		
159	〃	ヘラ状工具による A	ヘラ状工具による A	B			K？・G	N	W・N		
160	〃	Z	G	Z	ヘラ状工具による連続したし		E	W	V		
161	〃	粗いB	強いB	A				P	H・M	波状口縁, スス付着(頸部外面)	Ⅵ
162	〃	D	D・F	A	K			R	R		Ⅵ
163	〃	B	B, C	B				W	U	波状口縁？	Ⅵ
164	〃	D・F・J	D・Fの上をB, D	A				R・W	R		Ⅵ
165	〃	A・F	A	A				ウ	H		
166	〃	A, D	D, 粗いA	A				I・N	I		
167	〃	A	ナナメのA, A	(A)				I	I	白色物付着（底部外面）	
168	〃	タテのA	B, A	(網代底)				M	G		
169	〃	A	A	(A)				H・Q	B		
170	〃	A・J	A	(粗いA)				B	G		
171	〃	E	A	(網代底)				C	B		
172	A SC18	B	B	B	F		F・Q	P	V	波状口縁	
173	〃	丁寧なB	丁寧なB	丁寧なB	F			L	G		
174	〃	F	B	B	F・K			W・V	W		
175	〃	B	B	B	K			Y	V	スス付着（口唇部外面付近）	
176	〃	D・Eの上をA, E・F・A	D・Fの上をA, D・B	A				H・O	H・O		Ⅵ
177	〃	A・E	D	(A)				F	A		
178	〃	Fの上をA, B	A・B	(網代底)				C	C		
179	〃	B	A	(A)				C・Z	M	白色物付着（底部外面）スス付着（底部内面付近）	
180	〃	A	A	(A)				V	A		
181	〃	Dの上をA, B	A	貝殻条痕				B	B		
182	A SC19	A	A・D	A	細めのF		J	N	P		
183	〃	A	A	A				N	L	スス付着（口縁部外面）	Ⅵ
184	〃	A	B	(粗いA)				G	H		
185	〃	B	B	(網代底)				N	G		
186	A SC17	B	A	B			P	E・V	V		Ⅴc
187	〃	B	ナナメのA	A	F			O	M		Ⅴc
188	〃	B	ナナメのA	A	浅いE・F			イ	F	波状口縁	Ⅴc
189	〃	A	A	A	F		H・K	A	ア	片側穿孔1	
190	〃	A	A	A				K	K		Ⅵ
191	〃	B	B・ナナメのA	B				A	A		Ⅵ
192	〃	B	Dの上をB	B				M・H	H		Ⅵ
193	〃	F	B	A				V	C		Ⅵ

図面番号	地区名(遺構名)	調整 外器面	調整 内器面	調整 口縁部(底面)	文様 外器面	文様 内器面	文様 口唇部	色調 外器面	色調 内器面	特徴	分類
194	A SC17	Dの上をA, B	Dの上をA, A	(A)				A	B	白色物付着 スス付着（底部内面）	
195	〃	A	A	(Z)				I	I		
196	B SA1	Fの上をA	ヘラ状工具によるナナメのA	A			Q	Z・M	K		Ⅺ
197	〃	A	A	A			P	L	I		
198	〃	A	B	A	M・G		P	I	I		Ⅴc
199	〃	B	B	A	G・M		Q	G	G	波状口縁	Ⅶc
200	〃	B	B	B	O			N	I		
201	〃	B	B	B	F・M			B	B		Ⅴa
202	〃	B	B	B	F			I	I		
203	〃	A	A	Z				B	B		Ⅴc
204	〃	A	粗いB	B	F			N	L	スス付着（口縁部内面）	Ⅴc
205	〃	B	B	B	N	F・H		N	N		
206	〃	B	D	Z			P	L	U		
207	〃	D	D	B	K			N・W	I		Ⅶd
208	〃	B・ナナメのA	粗いB	B	棒による連続したQ			G	K		
209	〃	工具によるナナメのA, Aノ下のJ	B, ナナメのA, A	A				M	L・G	スス付着（口縁部外面）	Ⅺ
210	〃	F	B	B			P	G	B		Ⅺ
211	〃	A	A	(A)				A	Z		
212	B SA2	B	A	A			P	M	G		
213	B SA2	A	B	B	M			O	H		
214	〃	B	B	B	M・G			O	I		
215	〃	A	B	B	E, P, M			V	N		
216	〃	B	B	B	M, G		P	H	ウ		Ⅴb
217	〃	A, 一部E	D	B	F		P	K	K	口唇部に貝殻腹縁	Ⅴc
218	〃	B	B	B	M		P	R	R	竹管による連続した刺突文	
219	〃	B	D・A	B	F, G			O・V	Q		Ⅴc
220	〃	B	B	B	K, F		Q	I	I		
221	〃	B	B	B	M			キ	Z		Ⅲb
222	〃	A	A	A	ナナメのM		F	B・P	N	粘土のつなぎ	
223	〃	B	B	B	M			N	N	半截竹管刺突文	Ⅶa
224	〃	B	D	B	M, F			I	W		Ⅶb
225	〃	B	B	B	O, F			I	V	波状口縁	
226	〃	A	A	A				B	B・V		
227	〃	E・A	B・A	(網代底)				I	B・L		
228	〃	B	F・A	(A)				B	ウ		
229	B SA3	A・B	A・B	B	F			O	O・V		
230	〃	B・D	A・B	A	K		連続I	K	E		
231	〃	B	B	A			連続J	B	B		
232	〃	B	D	B			I	B	B		
233	〃	B	B	Z				G	G	波状口縁（波頂部にI）・スス付着（口縁部外面）	
234	〃	B	B	B			I	C	L	スス付着（口縁部外面）	

図面番号	地区名(遺構名)	調整 外器面	調整 内器面	調整 口唇部(底面)	文様 外器面	文様 内器面	文様 口唇部	色調 外器面	色調 内器面	特徴	分類
235	B SA3	A・Dの上をA	Dの上をA	A	M			H	C		
236	〃	棒状工具によるタテのA	棒状工具によるタテのA	Z	M			G	H		
237	〃	A	B	B			連続O	I	I	スス付着（口縁部外面）	
238	〃	A	B	B	F・K			W	N		
239	〃	D	Dの上をA	A	K・F			N	N		Ⅰb
240	〃	B	B	A	K・浅いE			R	N		Ⅰb
241	〃	B	ナナメのA	B	E・K			L	N		
242	〃	B	Dの上をB	B	G・B		I	H	H		
243	〃	B	Dの上をB	B	F・G			F	C		
244	〃	Dの上をA	Dの上をA, A	A	F・O			N	U		
245	〃	B, ナナメのA	B	B	F・M			L	N	スス付着（口縁部外面）	Ⅴc
246	〃	A・F	A	A	深いG		連続I	H	H		
247	〃	Dの上をA	B	A	K		連続P	A	A		
248	〃	丁寧なB, G	B	B	F		連続I	R	L		
249	〃	B	B	A	F		連続I	H	H		Ⅴc
250	〃	A	B	B	G		I	C	A	スス付着（口縁部内面）	Ⅴc
251	〃	B, ナナメのA	A, B, ナナメのA	B	F		連続P	I	I		Ⅴc
252	〃	B	B	B	F		連続I	W	G		
253	B SA3	A	A	A	G・O		I	C	C		
254	〃	B	A	A	E・O			W	L・ア	波状口縁（波頂部にI）	Ⅴc
255	〃	B	Dの上をA	B	F		O	H	H・M		
256	〃	Z	D	Z	M・G		連続I	S	J		Ⅱa
257	〃	B	A・B	Z	F・G・M		B	I	I・K		Ⅳb
258	〃	B	B	A	B・M・G		連続I	C	H	一条刻みの突帯	Ⅱa
259	〃	A・B	A	B	F・M		連続I・G	U	I		
260	〃	A	A	A	M・F			H	H	スス付着（口縁部内面）	Ⅴb
261	〃	A	B	A	F		Q	N	R		Ⅴc
262	〃	B, ナナメのA	B	B	F			N	R	波状口縁（波頂部にI） スス付着（口縁部外面）	Ⅴc
263	〃	B	B	B	F		I	M	H		Ⅴc
264	〃	B	B	B	O・G			L	N	波状口縁（波頂部にI）	
265	〃	B	B	B	O・F			L	W	波状口縁	
266	〃	Dの上をA, A	B・D	B	F			K	G	波状口縁（波頂部にI）	
267	〃	Z	Z	Z	F			H	C	波状口縁（波頂部にI）	Ⅴc
268	〃	B・ナナメのA	B	B	深いE・F		F	N	L		Ⅴc
269	〃	B	Dの上をB	B	深いE, F	E		P	I・P		Ⅴc
270	〃	A	A	A	F			N	I		Ⅴc
271	〃	B	Dの上をB	B	F			N・I	H・I		Ⅴc
272	〃	B	A	B	F			N	R		
273	〃	B	B	B	F			P	R・H		Ⅴc
274	〃	B	D	B	E			N	R		Ⅴc

図面番号	地区名(遺構名)	調整 外器面	調整 内器面	調整 口縁部(底面)	文様 外器面	文様 内器面	文様 口縁部	色調 外器面	色調 内器面	特徴	分類
275	B SA3	B・ナナメのA	B	B	F			R	R	波状口縁	Ⅴc
276	〃	B	Dの上を一部A	B	F			V	N		Ⅴc
277	〃	B	B	B	F			G	H	スス付着（口縁部外面）	Ⅴc
278	〃	B	Dの上をA	B	F			C	C		Ⅴc
279	〃	Dの上をB，ナナメのA，A	Dの上をB・ナナメのA	Dの上をB	F			L	U		Ⅴc
280	〃	B・D	DDの上をB	B	E・F			O	O・L		Ⅴc
281	〃	B	B	B	F			V	G		Ⅴc
282	〃	B	B	A	F			L	L		
283	〃	A	B	A			K	V	V	波状口縁	
284	〃	A	A	—	C・F			V	N	磨消縄文	Ⅸ
285	〃	A	A		C・O・深いE			V	N	磨消縄文	Ⅸ
286	〃	B	B	A	内形状のほぼK・O・Eの順にB		K	I	I		
287	〃	B	B	B	M			R	R		Ⅲb
288	〃	B	Dの上をA	B	M			S・L	S		
289	〃	Dの上をB	D	B	K			N・K	K		Ⅶa
290	〃	D	D	B	K			I・K	V	スス付着（口縁部内面）	
291	〃	B・ナナメのA	B・板状工具によるA	B	M			O	O	スス付着（口縁部外面）	
292	〃	D・A	D・F	B	K			I・V	V		
293	〃	B	B	A	K		G	G	H		Ⅲa
294	B SA3	B・D	D	B	K			R	R		Ⅶa
295	〃	B・D	B	A	K			N・K	U		Ⅶa
296	〃	B	B	A	K			I	I		Ⅶa
297	〃	A	B	A	深いE・K			U・V	N		
298	〃	B	B	Z	細目のF			I	II		
299	〃	B・F	B	A・B	M			L	I		
300	〃	B	B	Z	K・深いG	O		G	G	波状口縁・スス付着（口縁部内面）	
301	〃	Z	丁寧なB，D	A	K		連続I	N	N		
302	〃	A・Dの上をA	AD・Fの上をA	A	K			U・W	R	波状口縁・スス付着（口縁部外面）	Ⅶc
303	〃	B	B	B	F			I	I		Ⅶc
304	〃	B	Dの上をB	B	E・O			N	I		Ⅶc
305	〃	A・D	B	A	K・F			I	I・II	スス付着（口縁部外面）	Ⅶc
306	〃	A・B	D・Fの上をB	A	深いF・K・M			I・N	I	スス付着（口縁部外面）	Ⅶc
307	〃	A	Dの上をA	A	M・E・K			I	I		
308	〃	D	Dの上をA	Dの上をA	K・M			L・G	O		Ⅲb
309	〃	D	D	D	K			L	P	スス付着（口縁部外面）	
310	〃	B	Dの上をA	B	K			G・K	I	スス付着（口縁部外面）	
311	〃	D・F	D・F	B	K			G	R	補修孔1（両側穿孔）スス付着（口縁部外面）	Ⅲb
312	〃	Dの上をA	Dの上をA	Dの上をA	O			R	R		Ⅶb
313	〃	D	A	A			Q	N	R	スス付着（口縁部内面）	
314	〃	B	A	B			G	P	N		
315	〃	B	B・D	—		深いG・B・K		U	R		Ⅵa

図面番号	地区名(遺構名)	調整 外器面	調整 内器面	調整 口縁部(底面)	文様 外器面	文様 内器面	文様 口縁部	色調 外器面	色調 内器面	特徴	分類
316	B SA3	B	B	B	深いG			W	O		
317	〃	B	B	丁寧なB	Q			N	L		
318	〃	B	B	B	G		G	I	I		
319	〃	B	A	A	深いG・G			R	I		
320	〃	B	B	B	F			I	G		
321	〃	条痕	B・D	B	F			W	W		
322	〃	A	A	A	F		O・Q	C	M・C		
323	〃	Z	B	Z	F			I・O	O・S		
324	〃	B	B	A	G		Q	B	B	一条刻みの突帯	
325	〃	D	B	A	M・G		K	W	W		
326	〃	B	B	B	M・G			Z	H		
327	〃	B	B	A	K・M・G			V	I・G	スス付着（口縁部外面）	
328	〃	A	B	B	K・M・G			S	R		
329	〃	B	B	A	K・M・G			S・L	S		
330	〃	Fの上をA	粗いB	A・B				L	N		
331	〃	B・D・E・A	D・F	A	深いE・M		連続P	カ・I	N		
332	〃	A	Dの上をB	B				B	B・M		XI
333	〃	A・ナナメのA	B・ナナメのA	B				H	C		X
334	〃	Fの上をA Eの上をA	Dの上をA	A				H	C・M		XI
335	〃	A	D	A				H・K	M	スス付着（口縁部内面）	XI
336	B SA3	粗いA	A	A				O	G		XI
337	〃	B・A	B・ナナメのA	B				H	K		XI
338	〃	A	D	D				I	N		XI
339	〃	B	Dの上をA	A				O	B		XI
340	〃	A・F	A・D	A				P・N	N		XI
341	〃	E	D・Fの上をB	A				N	N	スス付着（口縁部～胴部外面）	XI
342	〃	ナナメ・タテの粗いA	粗いA粗いナナメのA	粗いA				Z	Z・K		XI
343	〃	粗いB	D	B				O	G		XI
344	〃	B	B	B				N	G	金雲母	XI
345	〃	Dの上をA	D・粗いB	B				B	B		XI
346	〃	D・Fの上をA	Dの上をA	B				N	R		XI
347	〃	B・ナナメのA	B	B				R	I・Z	スス付着（口縁部外面）	XI
348	〃	B	B	B				N	N	波状口縁・スス付着（口縁部外面）	XI
349	〃	Dの上をナナメのA	Fの上をA	B				O・G	I・O	波状口縁	XI
350	〃	Dの上をA,B	Dの上をA	Dの上をA,B				K	I	スス付着（口縁部外面）	XI
351	〃	D,Fの上を一部A	D・F	B				I	D		XI
352	〃	A	A	A			深いE・P	S	X		
353	〃	B	A・F	（網代底・A）				W	W	白色物付着（底部外面）	
354	〃	A	A	（網代底）				I	N		
355	〃	A	A	（網代底）				G	W		
356	〃	ナナメのA・一部F	D・A	（網代底）				I	G		

図面	地区名	調整			文様			色調		特徴	分類
番号	(遺構名)	外器面	内器面	口唇部(底面)	外器面	内器面	口唇部	外器面	内器面		
357	B SA3	Fの上を一部A, B	A	(A)				H	I	白色物付着（底部外面）	
358	〃	A・B	A	(網代底)				W	W	白色物付着（底部外面）	
359	〃	A	D・E・F	(網代底)				O	O		
360	〃	A	A	(網代底)				G	G		
361	〃	D・F	D・F	(A)				U	W		
362	〃	A	A	(網代底)				U	U		
363	〃	D・E	B	(A)				H	I	白色物付着（底部外面） スス付着（底部内面）	
364	〃	Fの上を一部A	B	(A)				C	Z		
365	〃	B・ナナメのA	A	(A)				I	N	白色物付着（底部外面）	
366	〃	A	A	(A)				O	I		
367	B SA4	A	ナナメのA・B	B			Q	K	K		
368	〃	Dの上をA	D	B	F		連続I	G	G	スス付着（口縁部外面）	Ⅴc
369	〃	A	指によるB	指によるB	F			C	C	スス付着（口縁部外面）	Ⅴc
370	〃	D	D, A, F	D	K・E			Y	N・V	スス付着（口縁部内面）	Ⅶb
371	〃	B	B	A				U	A・イ		Ⅶ
372	〃	B	F, A	A				G	G		
373	〃	A	A	(網代底)				R	R		
374	〃	A, Z	A	(A ?)				U・V	N	台付皿の胴部と杯部の接合部	
375	B SA5	B	ナナメのA	A	E		Q	R・X	R		
376	〃	A	A	A			連続I	I・K	I		
377	〃	粗いB	B	A			Q	L	C		
378	〃	A	B	A			連続P	A・イ	C		
379	〃	B	B	B			連続I	N	W		
380	〃	B	Dの上をA	A	深いG		連続P	I	N		Ⅱb
381	〃	B	B	B	G		連続I	K	I		Ⅱb
382	〃	B	B	B			P	C	A・Z		
383	〃	板状工具によるナナメのA, 板状工具によるB	板状工具によるナナメのA, 板状工具によるB	B			I	G	I	波状口縁、波頂部にI スス付着（口縁部外面）	
384	〃	Dの上をA, ナナメのA・B	Dの上をB	A			P	N	B		
385	〃	B, タテのA	ナナメのA・B	A	M・F・O		G連続I	N	R・ウ	スス付着（胴部外面）	Ⅳa
386	〃	B	B	A	F・M		連続I	W	R	スス付着（口縁部外面）	Ⅳ
387	〃	A	B	A	F・M		F・連続I	V	U		Ⅳa
388	〃	A, B	Z, ナナメのA, B	A	F・M		F	C	B	スス付着（口縁部外面）	Ⅴb
389	〃	B	A	A	F・M			V	L		Ⅳ
390	〃	B	Dの上をA	B	F・M			H・Q	B		Ⅴc
391	〃	Z	B	Z	F			F	B		Ⅴc
392	〃	A	B	A	E・F・連続I		連続I	G	G	波状口縁	
393	〃	A	D	B	連続L・F・竹管状によるM		I	W	R	波状口縁・波頂部にI	Ⅴb
394	〃	Fの上をA	Dの上をA	B	F		Q	G	G		Ⅴc

図面	地区名	調整			文様			色調		特徴	分類
番号	(遺構名)	外器面	内器面	口唇部(底面)	外器面	内器面	口唇部	外器面	内器面		
395	B SA5	B，A	Dの上をA	B	F			N・一部ア	R・P	スス付着（口縁部外面）	Ⅴc
396	〃	B	B	B	E			N	I		Ⅴc
397	〃	丁寧なA	A	B	F			I	R		Ⅴc
398	〃	B	B，D	B	F			N	O		Ⅴc
399	〃	丁寧なB	丁寧なB	丁寧なB	G			I	R		Ⅴc
400	〃	ナナメのA	Dの上をA	A	F			M	B		Ⅴc
401	〃	A	Dの上をB	A	F			H	B		Ⅴc
402	〃	B	B	A	F			M	B		Ⅴc
403	〃	B	丁寧なB	丁寧なA	F			K	P		Ⅴc
404	〃	A	B	B	F			Q	M・H		Ⅴc
405	〃	B，Z	A・Z，B	A				B	B	スス付着（口縁部外面）	Ⅴc
406	〃	丁寧なB	丁寧なB	丁寧なA	F			N・R	O		Ⅴc
407	〃	B	D	B	F			N	W	スス付着（胴部内面）	Ⅴc
408	〃	A,ナナメのA	B	A	F			S	K		Ⅴc
409	〃	A	B	B	口縁部による○			W	X		
410	〃	B	Dの上をA	B	F		P	L	G		
411	〃	B	B	B	M			W	I		Ⅶa
412	〃	B	B	B	K			X	N		
413	〃	A	B，A	Z	M			W・U	R		Ⅶ
414	〃	B	B	A	Q		F	N	N		
415	B SA5	A	Dの上をA	A				H・ク	H		Ⅸ
416	〃	A,Fの上をA	B	A				L	G・K		Ⅸ
417	〃	B	B	B				O	C		Ⅸ
418	〃	A	B	A				イ	K	スス付着（口縁部外面）	Ⅸ
419	〃	粗いA	板状工具によるB	B				W・I	L・ア	波状口縁	Ⅸ
420	〃	Z	D,Fの上をA	A				H	M		Ⅸ
421	〃	A	B	A				B・E	A	スス付着（口縁部外面）	Ⅸ
422	〃	B	B	A				I	G・N		Ⅸ
423	〃	Z	B	A				B	C・イ		Ⅸ
424	〃	A，B	B，F	A				N	I	スス付着（外面、内面）	Ⅸ
425	〃	B	B	A				N	N・カ	波状口縁	Ⅸ
426	〃	A	B	A				O	A		Ⅸ
427	〃	A	B	Z				U	R		Ⅸ
428	〃	B	A	B				V	G		Ⅸ
429	〃	ナナメのA・B	Dの上をA	A	F			H	C		Ⅶb
430	〃	B	A	(Z)				R	I		
431	〃	B	D	(網代底)				W	W		
432	〃	Fの上をA	Dの上をB,A	(網代底)				O	G		
433	〃	B	D	(網代底)				R	R		
434	〃	B	A	(網代底)				R	I		
435	〃	B，A	A	(網代底)				W	R		
436	〃	ナナメのA,Z	B，A	(A)				O	W	スス付着（底面，内面）	

図面番号	地区名(遺構名)	調整 外器面	調整 内器面	調整 口唇部(底面)	文様 外器面	文様 内器面	文様 口唇部	色調 外器面	色調 内器面	特徴	分類
437	B SA5	F	A	(木の葉底)				A	A		
438	〃	F	A	(網代底)				B	O		
439		B	A	B	Q			B	B		
440	〃	B	A	A			I	I・P	G・J		
441	〃	F	F	A			I	A	M	スス付着（口縁部外面）	
442	〃	A	B	A	II		I	G	G		
443	〃	B	A	A			Q	キ	キ		
444	〃	A	A	A		O		P	I		
445	〃	A	A	A			I	G	G		
446	〃	A	A	B	K		I	W	L		
447	〃	B	B	B	E	K		L・K	ケ	波状口縁	
448	〃	丁寧なA	丁寧なA	丁寧なA	K・F			L	P		
449	〃	ADの上をA	Dの上をA	A	棒状工具によるM			H	C		
450	〃	A	B	A	E・G・O		I・F	N	G	波状口縁，波頂部にI	
451	〃	B	Dの上をA	A	F・M		I	N	O		IV a
452	〃	B	B	B	F		Q	N	R		IV a
453	〃	B・D	A	B	F・M		F	W	U		IV a
454	〃	A	B	B	O・F・M		I・F	P	N		IV b
455	〃	B	B	A	F・K			I	G		V a
456	〃	A	B	A	F・I 波頂線によるO	I 波頂線によるO		P	B		
457	B SA6	B	B	A	G		I,M 頂によるO	G	H		V
458	〃	A	Dの上をA	A	G		P	G	H		V
459	〃	ナナメのA・B	B	A	F		Q	H	F		V
460	〃	B	B	B	Q・F			V	N		V b
461	〃	D	A・F	A	K・F		I	カ	R		V c
462	〃	B	Dの上をB	B	F		I	W	N・L	波状口縁，波頂部にI	V c
463	〃	B	Dの上をB	B	E		I	O	G	波状口縁，波頂部にI	V c
464	〃	B	B	B	E		I	N	N	波状口縁，波頂部にI	V c
465	〃	B	B	B	F		F	Q	Q		V c
466	〃	B	Dの上をA	B	F			P	V		V c
467	〃	B	B	A	F・G・O			G・O	H	スス付着（外面）	V c
468	〃	B	B	A	F			X	P		V c
469	〃	A	B	A	G			N	V		V c
470	〃	B	B	丁寧なA	F			L	N		V c
471	〃	G	丁寧なA	丁寧なA		深いG		W	K		
472	〃	丁寧なB	丁寧なB	丁寧なB	E			I	I		V c
473	〃	丁寧なB	丁寧なB	丁寧なB	F		I	I	G		V c
474	〃	A，B	A	A	F			O	V		V c
475	〃	ナナメのA	A・B	——	E			G・H	H		V c
476	〃	A	A	A	E		C・E	L	R	金雲母	IX a
477	〃	B	丁寧なB	B	F・G		I	L	G・K		
478	〃	B	Dの上をA	A	G・O			P	K	スス付着（胴部外面）	VII b

図面番号	地区名(遺構名)	調整 外器面	調整 内器面	調整 口縁部(底面)	文様 外器面	文様 内器面	文様 口縁部	色調 外器面	色調 内器面	特徴	分類
479	B SA6	A	板状工具によるA	A	G・M			C・Z	H・K		Ⅷb
480	〃	A	B	B	M・G			R	R		
481	〃	B,ナナメのA	B	B	M		G	K	B		Ⅲb
482	〃	A	丁寧なA	B	F・M		I	N	I・R	スス付着(口縁部外面),金雲母	Ⅴa
483	〃	Dの上をA	B	A	G・M		G	I	I		
484	〃	B	A	B				V	O		
485	〃	A	A	A				H	H		Ⅸ
486	〃	粗いA,B	ナナメのA	A				X	X・S	スス付着（口縁部内面）	
487	〃	B	丁寧なB	B			F	S	I		
488	〃	B	Fの上をA	B			P	M・O	I		Ⅺ
489	〃	ナナメのA	B	A				R	W		Ⅶ
490	〃	E	F	Z				I・L	P		Ⅹ
491	〃	A	A	A				C	Z・C		Ⅸ
492	〃	A・B	B	A				G	O		Ⅺ
493	〃	A	Fの上をA	A			I	A	L	波状口縁，波頂部にI スス付着（口縁部内面）	Ⅺ
494	〃	E	D	A			I	O	B・H	波状口縁，波頂部にI	Ⅺ
495	〃	粗いB	Dの上をB	B			I	P	V		Ⅵ
496	〃	A	Dの上をA	A				P	C		Ⅸ
497	〃	B	B	B				S	I	両側穿孔I	Ⅸ
498	〃	B,Fの上をA	A	B				G・V	H	スス付着（口縁部外面）	Ⅺ
499	B SA6	Dの上をB	Dの上をA	B				I	G		Ⅻ
500	〃	B	B	(網代底)				W・V	R		
501	〃	B	A	(網代底)				B・M	B		
502	〃	板状工具によるタテのA	A	(網代底)				C	B		
503	〃	Z	A	(網代底)				B	B		
504	〃	B，J	A	(網代底)				I	R		
505	〃	A・J	工具によるナナメのA,工具によるA	(網代底)				N	G		
506	〃	板状工具によるタテのA	B	(A)				B	A・イ		
507	〃	A・J	A	(A)				B	B		
508	〃	B，A	A	(A)				G	B	金雲母	
509	〃	G	A	(A)				L	N		
510	B SA7	A	D	A	K・E			N	N		
511	〃	A	A	A	G		M	I	L		Ⅴc
512	〃	B	B	B	O			O	Q		
513	〃	B	B	A	連続O		F	K	B		
514	〃	A	A	A	O		連続P	O	ウ		
515	〃	A	ナナメのA	A	K・F		F	B	R		Ⅳ
516	〃	B	B	B	F・G			H	H		
517	〃	B	F	B	F			U	R・L	スス付着（口縁部内面）	
518	〃	B	B	B	M			G	O		Ⅷa
519	〃	B	D	B	連続O			R	V		Ⅷa
520	〃	A	C	B	K			L	N		

図面番号	地区名(遺構名)	調整 外器面	調整 内器面	調整 口脣部(底面)	文様 外器面	文様 内器面	文様 口脣部	色調 外器面	色調 内器面	特徴	分類
521	B SA7	A	B	A	K			I・W	I		
522	〃	B・D	ナナメのA・B	B	F・M			O	O		Ⅶb
523	〃	A・F	B・D	B	E	K		R・N	I・R		Ⅶc
524	〃	D・F	D	A	M, 深いE			I・N	I・Q		Ⅶc
525	〃	B	B	B				S	I		
526	〃	B	D	B				V	L		
527	〃	A	A	A		K・M		H	H		
528	〃	ナナメのA	板状工具によるB				貝殻腹縁による沈線したP	I・G	I・N	片側穿孔1	Ⅺ
529	〃	A	F・A	B	K			O・V	O・V		Ⅷ
530	〃	D・F	D・F	B	K			I	II		Ⅷb
531	〃	D	D	B	K			O	R		Ⅷb
532	〃	Fのヒを一部A	D	B	K			X	O		Ⅷb
533	〃	A	A	A	ナナメの深いG			N	I	一部スス付着(口縁部外面)	
534	〃	B	B	A	O			I	I		
535	〃	Z	Z	Z	F・C		F	P・J	P	磨消縄文?	Ⅸ
536	〃	Z	B	Z	F	F		P	I		
537	〃	工具によるナナメのA	B, 工具によるナナメのA	B				I	R		Ⅺ
538	〃	B・D	工具によるB	A				H・K	H	スス付着(口縁部外面)	
539	〃	F	F, 工具によるナナメのA	B				L	O		
540	B SA7	Dのヒを一部A	B	A				B・K	A		
541	〃	A	A・B	A				B	H		
542	〃	F, ナナメのA	F, ナナメのA	A				N・I	I・G	波状口縁 スス付着(口縁部内面) 波頂部にリボン状の突起	Ⅺ
543	〃	B	D	A	F			H	II		
544	〃	F	Fの上を一部A	A				O	N		Ⅺ
545	〃	B	A, D, B	B				R・N	R	スス付着(頸部から胴部外面)	Ⅺ
546	〃	D	D・A	A				I	L		
547	〃	B	Dの上を一部A	A			H	W	N	口脣部に突起	
548	〃	Dの上を一部A	B	A				N	N		
549	〃	D	D	D	F			N	N		
550	〃	B・F	Fのヒを一部A	B				R	I		
551	〃	D, F, B	A, J	(Z)				N	R		
552	〃	A・F	A	(A)				U	エ		
553	〃	A	A	(A)				I・B	ア		
554	B SA8	B	D	A	連続I	クテのF		エ	R		
555	〃	A	B	A			I	S	S	波状口縁	
556	〃	D	ナナメのA	B		棒状工具によるQ	I	N	N	波状口縁, 波頂部にI	
557	〃	A	丁寧なA	丁寧なA	M, F			V	N・V		Ⅵb
558	〃	A	B	A	F		K	C	II		
559	〃	B	B	B			連続P	M	A		

図面番号	地区名(遺構名)	調整 外器面	調整 内器面	調整 口唇部(底面)	文様 外器面	文様 内器面	文様 口唇部	色調 外器面	色調 内器面	特徴	分類
560	B SA8	Fの上をA	B	A			連続ナナメP	I	K		
561	〃	Dの上をA	Dの上をA	A			P	L	H		
562	〃	A	Dの上をA	B	K, F			M	G, H		Ⅴc
563	〃	A, ナナメのA	B, Dのしをb	A	O			G, L	L		
564	〃	A	A	A	M		P	H	H		
565	〃	A	A	B	M, G, P			H	I		Ⅲb
566	〃	Dの上をA	B, F	A	F, O		F, P	V	V		
567	〃	A	Z・A?	A	M, G		連続I	P	P		Ⅲb
568	〃	B, Z	A	—	F, O	F, O		P	O		Ⅵ
569	〃	B	B	B	F, G, M		連続P, G	I	N		Ⅳ
570	〃	A, Z	A, B	A	O・Fの中にG, M			I・W	N・V・H		
571	〃	丁寧なA	Dのしを A	丁寧なA	短いG, F		短いG	N・V	H・V		
572	〃	A	B	A	二条のGの中にM, G			D・O	D		
573	〃	B	A	B	G, M		P	H	I		
574	〃	A, B	B, D	B	F, G			H	G	スス付着（胴部内面）	Ⅴc
575	〃	A	A	A	F, G			G	L		Ⅴc
576	〃	A	D	—	G			H	H		Ⅴc
577	〃	B	A	B	F			H	M	スス付着（口縁部外面）	Ⅴc
578	〃	A	A, D	B	F			F	キ	金雲母	Ⅴc
579	〃	A	B	A	F			H	L		Ⅴc
580	B SA8	B	ナナメのA	B				N	N		Ⅴc
581	〃	B	A	B	F		I	K	K		Ⅴc
582	〃	B	B	A	F			G	G・K		Ⅴc
583	〃	A, B	Dの上をA	B	F			H	H		Ⅴc
584	〃	A	A	A	F		F	R	Q	スス付着（口縁部内面），波状口縁	Ⅴc
585	〃	A	B	—	F			I・P	H・K		Ⅸ
586	〃	F, B	D	—	K		K	G	G		
587	〃	Dの上をA	A, Z	Z	L			P	N		Ⅶa
588	〃	A, B	B	Z	M			L・I	I・O		Ⅶa
589	〃	Dの上をA	B	A	M			P	P		Ⅶa
590	〃	B, D	B・F	B				I	I	スス付着（口縁部外面）	Ⅶa
591	〃	B	F	B	K			O	H	スス付着（口縁～胴部，外面）	Ⅶa
592	〃	A	D	A	M			H	B		Ⅲb
593	〃	B	B	B	K, F			P・I	I		Ⅶb
594	〃	Z, A	B	A	F, K		P	L	I		
595	〃	A	Z, A	A	F			N	N		
596	〃	B	Dの上をA	A	K, F			I	I		
597	〃	B	Dの上をA	A	口唇膜縁によるO			N	N		
598	〃	Dの上をB	Dの上をA, F	A	K			L	I	スス付着（口縁部外面）	Ⅶa
599	〃	A	ナナメのA	B			三条のF	I	G		
600	〃	Dの上をA	A	A		K, F, M		O	O		Ⅵa
601	〃	ヘラ状工具によるB	B	B	M?			K	O		
602	〃	Z, A?	A, Z	A			P	Q	C		

図面番号	地区名(遺構名)	調整			文様			色調		特徴	分類
		外器面	内器面	口唇部(底面)	外器面	内器面	口唇部	外器面	内器面		
603	B SA8	B	Dの上をB	B	M, G			Q	R		Ⅴb
604	〃	ナナメ・ヨコの細いA, D・A	B・Z	A				H	B	スス付着（口縁部外面）	
605	〃	Z	B	Z				G	P		Ⅸ
606	〃	A・Z	A・J	A				K・O	V	スス付着（口縁部内面）	Ⅸ
607	〃	B, D	Dの上をA	B				L	I	スス付着（口縁部外面）	Ⅸ
608	〃	ナナメのA, B	F	A				L	L		Ⅸ
609	〃	B	B	B				F	F		Ⅸ
610	〃	ヨコのA ナナメのA	A	A				N	I	波状口縁	Ⅹ
611	〃	D, A	B	Dの上をA				N・V	I・N	スス付着（口縁部外面）	Ⅸ
612	〃	B, B・ナナメのA	B・A	A				G・O	G	波状口縁	Ⅸ
613	〃	B, ナナメのA, FのA	粗いA	A				N	U	波状口縁	Ⅹ
614	〃	Z・ナナメのA?	B	Z・A?				M	M		Ⅸ
615	〃	B	Dの上をA	B				G	I・B		Ⅸ
616	〃	A	ナナメのA, T具によるA	Z	T具によるナナメのO			I	I		
617	〃	工具によるタテのAの上を指A	T具によるB, ナナメのA	(網代底)				G	G		
618	〃	A, Z	A	(網代底)				G・K	G	スス付着（底部外面・胴部外底）	
619	〃	A	A, J	(網代底)				G	I	白色物付着（底部外面）	
620	B SA8	A, J	Z	(網代底)				H	M		
621	〃	工具によるタテのA	工具によるナナメのA	(網代底)				G	S	白色物付着（底部外面）	
622	〃	B	A	(網代底)				G	G	白色物付着（底部外面）	
623	〃	B	A	(網代底?)				O	O		
624	〃	B・J	A, 粗いA	(A)				H	H		
625	B SA9	B	Dの上をA	B	F		連続1	H	H		Ⅱb
626	〃	B	B	A	K・F			P	V	スス付着（口縁部内面）	
627	〃	A	Dの上をA	A	K・F?			W	N		Ⅱb
628	〃	A	Dの上をA	丁寧なA	口縁内縁による O・E			L	N		Ⅱb
629	〃	A	Dの上をA	A	G			G	G		
630	〃	B	B	B	F		I	L	O	波状口縁，波頂部に1スス付着（口縁部外底）	Ⅴc
631	〃	B	ナナメのA, B	A	F?		I	L	O		
632	〃	A	丁寧なA	丁寧なA	F			N	G・N		Ⅴc
633	〃	Fの上をA	A	A	F			H	H		Ⅴc
634	〃	B	B	A			F	H	V		
635	〃	粗いナナメのA	B, ナナメのA	A				N・I	I		Ⅸ
636	〃	細いタテのA	B	A				G	O・L	スス付着（口縁部内面）	Ⅸ
637	〃	粗いA	工具によるB	B				G	I		Ⅸ
638	〃	Dの上をA	Dの上をA	B				N	G		Ⅸ
639	〃	B, J	工具によるナナメのA	A				N	L		Ⅸ
640	〃	A, D	Dの上をA	A				G	G		Ⅸ

図面番号	地区名(遺構名)	調整 外器面	調整 内器面	調整 口唇部(底面)	文様 外器面	文様 内器面	文様 口唇部	色調 外器面	色調 内器面	特徴	分類
641	B SA9	B，J	丁寧なA	丁寧なA				O	B・O		Ⅶ
642	〃	B	工具によるB	A				A	H		Ⅶ
643	〃	Dの上をB	A	(A)				I	M		
644	〃	丁寧なA	A	(網代底)				I	D		
645	〃	棒状の工具によるタテのAの上をA	棒状の工具によるタテのAの上をA	(網代底)				I	R		
646	〃	Dの上をB，J	B，A	(網代底)				N・L	N		
647	〃	B	A	(A)				H	G		
648	〃	A，J	丁寧なA	(A，J)				I	O		
649	B SA10	ナナメのA，B	A	A				J	J		Ⅶ
650	〃	A	B	A				C	C		Ⅶ
651	〃	B	B	A				K	A		Ⅶ
652	B SC1	A	B	A	G		I	I	V	波状口縁，波頂部にI	Ⅴc
653	〃	A	Dの上をA	A	K・F			N	R		Ⅱb
654	〃	B	B	A	G			P	I・L		Ⅴc
655	〃	A	B・粗いA	A	F			G	G		
656	〃	B	B	B	F			I	H・V	スス付着（口縁部内面）	Ⅴc
657	〃	B	B	A	F・G			R	L・V		Ⅴc
658	〃	A	A	A	F			G	K・G		Ⅴc
659	〃	A	D・Fの上をA	—	F			M	O		Ⅴc
660	〃	A	D	A				H	F	スス付着（胴部外面） 金雲母	Ⅸ
661	B SC1	B，A	B，Z	B				H	H		Ⅶ
662	〃	Dの上をA	Dの上をA	A			P	G・N	I・G	波状口縁，波頂部にP	Ⅶ
663	〃	A	A	(網代底)				J	I		
664	〃	A	A	(網代底)				K・I	I	白色物付着（底部外面）	
665	〃	Fの上をA	A	(網代底)				H	H		
666	〃	B	A	(A)				ウ	Z		
667	〃	A	A	(網代底)				ウ	C		
668	C SA1	A	B	A	E		P	L	L		Ⅴc
669	〃	G	A	B	G・C			H	M	スス付着（口縁部内面）	Ⅸ
670	〃	工具によるB，A	G	G			P	L	K		
671	〃	B	B	B	F，M		E・P	V	I		Ⅱb
672	〃	B	B	B			貝殻腹縁によるP	I	N		
673	〃	D	F，一部A	—	K・L			I	I		Ⅶd
674	〃	A	B・J	A	K			M	H	波状口縁	Ⅶd
675	〃	Fの上を一部A	F	A	K			N・V	R	波状口縁	Ⅷb
676	〃	F	F	A				I	V	波状口縁 スス付着（口縁部内面）	
677	〃	D	D・J	A	K			P	G	波状口縁	Ⅷb
678	〃	B	D，一部A	A	K			R	i		Ⅷb
679	〃	B	B	A	K			L	I・O		
680	〃	D	F	A	K			W	I		
681	〃	F	Fの上を一部A	B	K			L	N・W	波状口縁	Ⅷb
682	〃	A	B	B	K			L	N	スス付着（口縁部外面）	

図面番号	地区名(遺構名)	調整 外器面	調整 内器面	調整 口縁部(底面)	文様 外器面	文様 内器面	文様 口縁部	色調 外器面	色調 内器面	特徴	分類
683	C SA1	Fの上を一部A	B	B	K			O	P	スス付着（口縁部外面）	Ⅶb
684	〃	D	D	A	K			ア	N		Ⅶb
685	〃	A	ナナメのA, J	A	K			O	P		Ⅶd
686	〃	ナナメのA	B	B	K			K	I		Ⅶb
687	〃	F・J	Dの上を一部A	A				P	L		
688	〃	F	B・F	A				V	I・L	スス付着（口縁部外面）	Ⅺ
689	〃	A	A	A		M, H		I	I・H	貼付け文の上を刺突文	
690	〃	A	ナナメのA	A	J・F			O	P	※印の刻み	
691	〃	丁寧なA	A	F				S	O		
692	〃	G	G	G				R	R		
693	〃	B	B	A			F	R・I	I		
694	〃	G	A	A				N・R	X		
695	〃	A・J	A	(網代底)				O	G		
696	〃	A	A	(A)				G	I		
697	〃	F・A	B	(A)				R	L		
698	〃	ナナメのA・A	A	(A)				J	I		
699	〃	A	A・J	(網代底)				R	R		
700	〃	F	A	(Z)				N	I		
701	〃	A	A	(Z)				R	I	白色物付着（底部外面）	
702	〃	A	A	(A)				S	I	白色物付着（底部外面）	
703	C SA1	A・J	B	(Z)				N	N		
704	〃	B	A・J	(A)				O	O		
705	C SA2	A	B	B	F			I	L		
706	〃	B	A	A	K			L	L	波状口縁	
707	〃	D・A	D	B	K			I	I		
708	〃	F	F, 一部A	B	K			I	I		
709	〃	F	F, 一部A	B				H	H		
710	〃	A	A	(A)				F	I		
711	〃	E・F	D・一部A	(A)				F	I	白色物付着	
712	C SA3	B,ナナメのA	D	B			P	C	C		
713	C SA4	A	A	−				N	R	台付皿脚部	
714	〃	F・D	F・D	(A)				N	R	スス付着（内面）	
715	〃	B	D	(A)				S	S		
716	C SA5	B	B	B				I	I		
717	〃	D	D・F	B				S	O	スス付着（口縁部外面）	
718	C SA6	B	B	B	E			L	I・H		
719	〃	B	B	B				H	I		
720	C SA7	A	B,ナナメのA	A	K			O	Q		
721	〃	B・A	B・ナナメのA	A	O			O	I		
722	〃	A	B	A				R	I		
723	〃	A	丁寧なA	A		M		G	O		
724	〃	A	A	(A)				R	L		

図面	地区名	調整			文様			色調		特徴	分類
番号	(遺構名)	外器面	内器面	口唇部(底面)	外器面	内器面	口頸部	外器面	内器面		
725	C SA7	A	A	(A)				Q	L	白色物付着（底部）	
726	C SC1	B	B	B	M			G	H		
727	B ℓ-32		A	—	山形押形文			H	H		
728	A b-7	D	A	B	M			G	G		
729	A i-5	D	B	B	連続Q			G	I		
730	A	B	A	A	K		連続I	H	J		
731	E	粗いD・F	粗いDの上をB	B				H	B		
732	B ℓ-31	A	B		G・N			I	S	◎雲母	
733	B j-30	A	A	—	G			I	H		
734	E	B	B	B	G・M	G・M		I・K	G・K		
735	E	B	B	—	G・M	G・M		B	B		
736	E	A	A	—	G			I	G		
737	E	A	Z	—	G			G	H		
738	E	B	B	B	浅いA・連続Q			U	U		I
739	E	A,Dの上をA	B	B	深いE・M		太いI	M	H・M	スス付着（口縁部外面）	Ⅱa
740	E	Fの上をA	D, F, E・Fの上をA	B	連続Q・深いE		貝殻腹歯による浅い連続I	M	H・M		Ⅱb
741	E	B,Dの上をB	B・D	B	K・F・深いE			P	P	スス付着（胴部外面）	Ⅱb
742	E	A	D	A	深いE・F・K			H	H・M	スス付着（口縁部外面）	Ⅱb
743	E	B, タテのA	B	A	深いG・G・O		連続I	G	G		Ⅰ
744	D	B	丁寧なB	B	G			O	L		Ⅲa
745	E	B	Dの上をB	B	G		貝殻腹歯による浅い連続I	O	G		Ⅲa
746	A j-7	A	A	A	深いG			G	O		Ⅲb
747	A i-7	B	A	A	深いE			H・M	H・M		Ⅲb
748	A i-7	A	A, D・Fの上をA	A	深いG・M			K・O	H		Ⅲb
749	E	B	A,Fの上をA	A	深いG			G	L		Ⅲb
750	E	B	B	B・ナナメのA	O・G			V	H	スス付着（口縁部外面）	Ⅲb
751	E	B・ナナメのA	B・Fの上をB・ナナメのA	Dの上をB	O・深いE・F			K・H	H		Ⅲb
752	A h-7	A・D	丁寧なB	A	F・M			I・L	I		Ⅲb
753	E	D,Dの上をA	B	B	F・M			G	G	波状口縁	Ⅲb
754	A b-7	B,Dの上をA	Dの上をA	B	G・M		連続P	H・M	I		Ⅲb
755	A i-8	A	Dの上をA	A	G		連続P	H	H・Q		Ⅲb
756	A	A	A	A	M		連続P	K	H		Ⅲb
757	A	B	B・ナナメのA	B	L			G	K	波状口縁	Ⅲb
758	A i-7	A	丁寧なA	強いB	O・Q・L・G			H・Z	B		Ⅲb
759	E	B,Dの上をB	Dの上をB	B	K・L			H	L		Ⅲb
760	E	B	B	B	L			L・G	E		Ⅲb
761	E	ナナメのA	B	B	F・M・K			G・L	C	波状口縁か	Ⅲb
762	A i-8	B・ナナメのA	B	A	連続Q			H	H		Ⅲb
763	A i-7	B	B	A	連続J			G	O		Ⅲb
764	A h-7	A・D	Dの上をA	A	連続I			P・H	H・L		Ⅲb

図面	地区名	調整			文様			色調		特徴	分類
番号	(遺構名)	外器面	内器面	口脊部(底面)	外器面	内器面	口脊部	外器面	内器面		
765	A j-4	D・B	D・B	B	連続Q			E	G・A	両面から穿孔1	Ⅱb
766	B j-31	D,Fの上をA	B	A				Q・H	M		Ⅱ
767	E	A・B	F,Fの上をA	B			連続J	G・K	G・V		Ⅱ
768	A h-6	D	D	A	ヘラ状工具によるM・G		連続I	B	H	スス付着（口縁部外面）	Ⅱb
769	A j-3	Dの上をA	Dの上をA	Dの上をA	G		G	I	I	波状口縁	Ⅱb
770	A j-2	Dの上をA,A	Dの上をA	A	竹管状工具のO			K	L		Ⅱb
771	E f-8	B,ナナメのA	Dの上をB	B	K			O	I		Ⅱb
772	E	B,ナナメのA	B,Fの上をB	A	M			C・K	K	スス付着（口縁部内面）	Ⅱb
773	D b-8	太いF・細いB	Fの上をナナメのA,F	B	K			O	O・L		Ⅱb
774	A j-2	Eの上を一部B	D・A	A (A)	K			I・N	W		Ⅲb
775	A	A, B	D, F	A	O・F・M・P		G	N	I		Ⅳa
776	A j-3	A	B	B	F・M			N	R		Ⅳa
777	A	B	板状工具によるB・A	A	G			I	H	波状口縁，波頂部に両側からQ	Ⅳa
778	A c-8	A	B	A	H・F	M	Q・J	G	I	波状口縁	Ⅳa
779	A c-8	A	丁寧なA	A	深いG, F		I	N	N	波状口縁	Ⅳa
780	A j-5	A	A	A	G		G・P	R	R	波状口縁	Ⅳa
781	E	B	板状工具によるナナメのA	B	M・F		O・F	P・S	S	波状口縁	Ⅳa
782	B n-33	A	B, D	A	O,F 竹管状工具のO			I・L	I		Ⅳa
783	D b-7	B	D・Fの上をA	Dの上をA	M,F 連続Q			N	I	波状口縁	Ⅳa
784	E	B	B	B・Z	M・G		連続I	S	S		Ⅳa
785	B n-30	A	Dの上をA	B	F・O・M	G		K	U	波状口縁	Ⅳb
786	A n-7	A	A	A	M・G			V	I		Ⅳb
787	E	B	Dの上をB	B	F・M			P	O		Ⅳb
788	E	B	B	B	G・B			K	P	波状口縁	Ⅳb
789	A b-8	A	Dの上をA	A	B・G			H・Q	H・K	突帯にO，波状口縁	Ⅳb
790	E	B	Dの上をA,Z	B	K・F			G	O	波状口縁、波頂部にI スス付着(一部・口縁部外面)	Ⅴa
791	A	A	A	A	M・F			II	C		Ⅴa
792	A	B	B・ナナメのA	B	F・M			II・L	H	スス付着（口縁部外面）	Ⅴa
793	A j-3	A	D・F・一部A	A	G・K			N・R	U		Ⅴa
794	E	Dの上をA Fの上をA	Dの上をA	B	K・E		I	O	G		Ⅴa
795	D n-7	B・Z, Dの上をA	Dの上をB	A	F・M		P	B	B		Ⅴa
796	A b-8	B	B	B	O・F		I	N	O	波状口縁	Ⅴb
797	A h-8	粗いA	粗いA	A	M・F			H	H	波状口縁	Ⅴb
798	A i-7	B	D, 一部B	B	K・F		I・O	L	W	波状口縁，波頂部にIとO	Ⅴb
799	E	B	D・Fの上をB	B	K・E		I	P	I・シ	波状口縁，波頂部にI 金雲母，スス付着(胴部外面)	Ⅴb
800	B g-32	A	B,ナナメのA	A	連続Q・F			O	H	波状口縁	Ⅴb
801	B j-30	A	Dの上をA	B	連続Q・E			N	I		Ⅴb
802	D・E	B	丁寧なB	B	F・G		連続I	N	R		Ⅴb
803	A i-8	A,Fの上をA	D・Fの上をA	A	F・G		I	C	A	波状口縁，波頂部にリボン状の突起，波頂部にI	Ⅴc

図面	地区名	調整			文様			色調		特徴	分類
番号	(遺構名)	外器面	内器面	口唇部(底面)	外器面	内器面	口唇部	外器面	内器面		
804	A i-8	A	A	A	F・G			C	C	波状口縁	Ⅴc
805	A b-8	A	B	A	M・P		M・Q	O	ウ・Z	波状口縁，波頂部にQ	Ⅴc
806	E	B	ナナメのA•B	A	F		I	N	G	波状口縁，波頂部にI	Ⅴc
807	B k-32	ヘラ状工具によるB	B	B	F		I	O	N	波状口縁，波頂部にI	Ⅴc
808	B k-33	B	B	A	F		I	N	N	波状口縁，波頂部にI	Ⅴc
809	B ℓ-31	A	A	A	F		I	N	G	波状口縁，波頂部にI	Ⅴc
810	A h-8	ナナメのA•B	B	B	F		I	N	N	波状口縁，波頂部にI	Ⅴc
811	A i-6	A	A	A	F		I・G	O	V	波状口縁，波頂部にI	Ⅴc
812	A j-3	B	B，D	B	F・G		I	Q	H	波状口縁，波頂部にI	Ⅴc
813	A j-2	A	櫛状工具でA，B	A	F・G			A	C		Ⅴc
814	A j-5	B	B	B	F		J	S	G		Ⅴc
815	A j-3	A	F	A	F		連続I	P	R		Ⅴc
816	A j-4	A	A	A	F		連続P	O	I		Ⅴc
817	B m-31	D	D	A	深いG・F		I・一部G	L	N	スス付着（口縁部外面）	Ⅴc
818	B o-31	A	B	A	G・F		連続I	N	G		Ⅴc
819	B p-32	ナナメのA	B	B	竹管状工具によるG・F		I	H	M		Ⅴc
820	A g-6	A	D・F	A	G		I	G	G	波状口縁	Ⅴc
821	D b-7	B	B,Dの上をB	B	F		連続I	O	I	波状口縁	Ⅴc
822	A i-7	A	A	A	F			C・Z	C・Z	スス付着（口縁部外面）波状口縁	Ⅴc
823	A i-8	A	A	A	F			R	Q		Ⅴc
824	A i-8	A	Dの上をA	A	G			H	C	スス付着（口縁部外面）	Ⅴc
825	A i-8	A	B	A	F			G	H	スス付着（口縁部外面）	Ⅴc
826	A i-8	A	Dの上をA	A	F			C	H		Ⅴc
827	D・E	Dの上をB	Dの上をB,D	B	G			H・M	K		Ⅴc
828	A i-5	A	A・一部D	A	F			G	K		Ⅴc
829	A i-8	A	B	A	F			L	O		Ⅴc
830	B m-32	B	B	B	F・G			B	B	スス付着（胴部外面）	Ⅴc
831	E	B	ヘラ状工具による丁寧なB,丁寧なB	A	F			K	N	一部スス付着（口縁部外面）	Ⅴc
832	E	B	B	B	F			P	U・P		Ⅴc
833	B ℓ-32	A	B		F			K	C	胴部	Ⅴ
834	A b-8	A	A	—	浅いE			G	I	胴部	Ⅴ
835	A b-7	A	F，一部A	—	浅いE			R・K	R	胴部	Ⅴ
836	B c-8	丁寧なA	B,F，一部A	—	G			P	P	胴部	Ⅴ
837	A	B	櫛状工具によるB	A		F・K H・O		I	R	波状口縁 838と同一個体	Ⅵa
838	A	B	D	B		深いG・K		O・L	O・L	波状口縁	Ⅵa
839	A b-8	B,ナナメのA	B，F	A		F・K		L・N	N		Ⅵa
840	A i-8	B	B，一部D	B		K・F		N	N・I		Ⅵa
841	A b-7	A・D	A	A		G・K		O	I		Ⅵa
842	A i-7	A	A	A		G		V	N	波状口縁	Ⅵa

図版番号	地区名(遺構名)	調整 外器面	調整 内器面	調整 口唇部(底面)	文様 外器面	文様 内器面	文様 口唇部	色調 外器面	色調 内器面	特徴	分類
843	B g-32	B	B・A	B		G・B		N	U	波状口縁 両面から穿孔1	Ⅶa
844	E	B，一部D	B・D			K・E・M		R・L	R		Ⅶa
845	D b-8	F・D	F・D	B		G・K		R	R・I		Ⅶa
846	D a-8 E	A，一部F	Bの上を一部F	B		K・M		I・サ	I		Ⅶa
847	E	D・B	B	B		P・O 短いG		R	R・ア		Ⅶb
848	A a-7	A,Fの上をB	B	A		K・P・M		N	I		Ⅶa
849	E	D，F	F	B		B・F・K		V	R		Ⅶa
850	E	B,ナナメのA	B	B		K		G	I・H		Ⅶa
851	A i-8	A	A	A		K		I	I		Ⅶa
852	A e-8	D	A	A		K		I	I		Ⅶa
853	A j-6	D	D	A		K	K	I	I		Ⅶb
854	A	D・A	D	A		B・K 深いE	B	K	R	855～856と同一個体 波状口縁	Ⅶb
855	A b-8	D・A	D・A	A		B・K 深いE	G・B・K	N	R	波状口縁，波頂部にK	Ⅶb
856	D b-8	F，B	B・F	B		B・K 深いE	B	N・カ	R	波状口縁	Ⅶb
857	A i-4	ナナメのA	B	B	O		F	I	L	波状口縁	Ⅶd1
858	A	D	D	B			G・O	I	I	スス付着（口縁部外面）	Ⅶc
859	E	B	ナナメのA	A	M・G	G	連続P	P	U		Ⅳa
860	E	B	Dの上をA	B	M・F		I・O・F	N	R		Ⅳb
861	A b-7	A	A	A	深いG	深いG・M		O	I・L		Ⅶd1
862	A i-8	B	B	B	F	G・K		O	G		Ⅶd1
863	A b-8	B	A	A		深いF・K 貝殻腹縁によるO		N	N・I		Ⅶa
864	A h-7	A	D	A	K	K		I	O		Ⅶa
865	A e-8	A・B	A,Dの上をA	A	G・G		M	G	G	スス付着（口縁部外面）	Ⅶd2
866	E	Dの上をB, Eの上をA	B,ナナメのA	B	K			G・V	V・P	スス付着（口縁部外面）	Ⅶd1
867	A f-8	B	A	B	深いG・G			I	I	波状口縁 スス付着（口縁部内面）	Ⅶa
868	E	B	B	B	O・G			U	U		Ⅶa
869	A j-4	B	A・粗いB・ B・F	A	M			I・G	G・V	波状口縁、波頂部にQ スス付着（口縁部内面）	Ⅶa
870	A i-8	Fの上をA,A	Fの上をA	A	M			O	L	波状口縁、波頂部にQ	Ⅶa
871	D b-8	Dの上をB,B	Dの上をB	B	M			I	N・Q		Ⅶa
872	D	B	B	B	M			I・G	G		Ⅶa
873	E	B,ナナメのA	B,ナナメのA	B	M			G	I		Ⅶa
874	A i-7	A・F	F	A	竹管状工具によるM			N	V		Ⅶa
875	A i-8	D・F・B	B・F	B	M		連続P	K・R	K・N		Ⅶa
876	A i-7	B・Dの上をA	B	A	M			I・N	I・N		Ⅶa
877	A j-5	A・D・F	D・F	A	L			N・W	O・N		Ⅶa
878	B i-32	Z	Dの上をA	A	K			B	O		Ⅶa
879	B j-32	Dの上をA・A	Z	A	M			I	V	炭化物付着（口縁部内面）	Ⅶa
880	D b-8	B・ナナメのA	粗いB	A	K			R・L	R・V	波状口縁 スス付着（口縁～胴部外面）	Ⅶa

図面番号	地区名（遺構名）	調整 外器面	調整 内器面	調整 口唇部（底面）	文様 外器面	文様 内器面	文様 口唇部	色調 外器面	色調 内器面	特徴	分類
881	A j-7	D・Fの上をA，B	Dの上をA	A	M			P	N		Ⅶa
882	B i-33	Fの上をA?	A・D	A	M			R	R・I		Ⅶa
883	D b-8	B,ナナメのA	B,Dの上をB	B	B			I	N・R		Ⅶa
884	E	B・D	D，一部B	B	B			L	I		Ⅶa
885	E	B	Fの上をB	B	「S」字状のF・K			N	I		Ⅶa
886	B g-32	A	A	A	G・M			O	L		Ⅶa
887	D b-8	Dの上をB,B	Dの上をB	B	M			I	N	波状口縁、波頂部に竹管状工具によるO，深く短いE	Ⅶa
888	D b-8	Dの上をA	Dの上をB	B	B			I・N	Q・M		Ⅶa
889	A h-7	Dの上をA	A	A	M			I	I・J		Ⅶa
890	E	B・F	Fの上をB,D	B	B			T	P		Ⅶa
891	B g-33	A	A	B（網代底）	G		G	I	I	波状口縁、波頂部にIと指頭大の圧痕文上色物付着（底部外面）	Ⅶa
892	A i-6	Dの上をA	Dの上をA	A	E・K			I	I		Ⅶb
893	A i-6	D	F	A	F・O・K			I	N		Ⅶb
894	A g-5	A	A	A	O・F・M		連続I	N	I		Ⅶb
895	A j-4	粗いB	D・Fの上をA	A	深いG・K・O			N	R	波状口縁、波頂部にI	Ⅶb
896	A j-3	A，一部F	F	A	F・K			R	N	波状口縁	Ⅶb
897	A i-7	Z，A，D	F	A	K・F			K・コ	N	波状口縁	Ⅶb
898	A c-8	D	D，F	A	F・K			R	U・R	波状口縁	Ⅶb
899	A h-6	A・D	D	A	F・口縁線のO			N	I	波状口縁、波頂部にO	Ⅶb
900	A b-7	A・D	D・F	A	F・K			I・N	N		Ⅶb
901	A i-7	B	Dの上をA	A	K・F			W	R		Ⅶb
902	A j-3	A・E	D・F	B	K・G		口縁線による連続P	I	I	スス付着（口縁部外面）	Ⅶb
903	A j-8	A，D・F	D,Dの上をA	A	F・K竹管状工具によるM			N	R・O		Ⅶb
904	A j-8	A・D・F	D・F	A	深いE・K・M			V・W	N・W		Ⅶb
905	A	D，F	F	A	K・Eの中にM		口縁線による連続P	G・N	N		Ⅶb
906	A	B	D	A	M・O・K			N	N		Ⅶb
907	A c-8	A，D・F	D,Dの上をA	A	F・M		口縁線による連続P	I	I		Ⅶb
908	A g-4	A,Dの上をA	Dの上をA	A	E・K			R	R		Ⅶb
909	A j-7	B,Dの上をA	Dの上をA	A	E・K		口縁線による連続P	N・I	I		Ⅶb
910	A i-5	B	F・D	B	G・K		口縁線による連続P	I・L	R		Ⅶb
911	B g-31	D・A	D・A	A	F・M			N	J		Ⅶb
912	B h-31	Dの上をA	A	A	F・O・M			G	I		Ⅶb
913	E	B，D	Dの上をB	B	B,短いG,K			U	U		Ⅶb
914	E	B,Dの上をB	D・Fの上をB	B	F・K			O	N		Ⅶb
915	E	B,Dの上をB	Dの上をB	B	B・F・O			K・N	I・K		Ⅶb
916	E	Dの上をB,B	D	B	K・F・B			I	L		Ⅶb
917	A i-6	D・F	A・F	A	F,M,短いE			N	N	波状口縁	Ⅶb
918	A b-8	D・F	A，D・F	A	F・M・K		M	I	I	波状口縁	Ⅶb
919	A	Dの上をB	Dの上をB	A	E・K			I	I	波状口縁	Ⅶb

図面	地区名	調整			文様			色調		特徴	分類
番号	(遺構名)	外器面	内器面	口器部(底面)	外器面	内器面	口縁部	外器面	内器面		
920	A	ナナメのA	B	A				II・I	G		VIIb
921	A b-8	A	B	A	F・K・N			O	I		VIIb
922	B i-3	D,E一部A	A・D	A	F・K			I・N	I	波状口縁	VIIb
923	A i-8	B, F	D, F	A	K・O・E・G			O	H	スス付着(口縁部外面)	VIIb
924	A i-8	D	D	A	竹管状工具によるM			R	R		VIIb
925	A j-5	A	B	A	F・M			J・P	R		VIIb
926	A i-7	D	D	A	P・F		連続P	N・U	N・L	スス付着(口縁部外面)	VIIb
927	A i-3	D・F・A	D・F	F	M			I	R		VIIb
928	A	A	A	A	F・O			L・V	I	スス付着(口縁部外面)	VIIb
929	A i-2	D, B	D・F	A	F			N	I	スス付着(口縁部外面)	VIIb
930	A b-8	A, D	D	A	F			I	I	スス付着(口縁部外面)	VIIb
931	A j-2	B	Dの上をB	B	貝殻腹縁によるO			N	N		VIIb
932	B m-30	D, F	D	D	K			O・P	R		VIIb
933	D b-7	粗いA	Dの上をB	B	M			I	L	両面から穿孔	VIIb
934	D a-8	B,Dの上をB	D・F	B	ヘラ状工具によるM			N	I		VIIb
935	E	B, DのEの上をB	B,F,Dの上をB	B	竹管状工具によるM			L・R	U		VIIb
936	E	Dの上をB, Fの上をA	Dの上をB	B	M			P	G・I		VIIb
937	E	D・Fの上をB, B	B	B	K			G	G		VIIb
938	D・E	B,Fの上をB	B,Dの上をB	B	E・K		連続P	I	I		VIIb
939	E	B,Fのヒをナナメのヘ	Dの上をB	B	B			U	U	スス付着(胴部外面)	VIIb
940	E	Dのヒを	Fの上をB	Dの上をB	貝殻腹縁によるO			P・L	P	スス付着(口縁部外面)	VIIb
941	E	B,Dの上をB	D, F	B	貝殻腹縁によるO			G	H		VIIb
942	A j-3	D	A,一部D	B	G・K			G	O	波状口縁	VIIb
943	A i-3	Fの上をA, Bの上をA	Dの上をA	A	O・F・K			N	I・ア	波状口縁 スス付着(口縁部外面)	VIIb
944	A i-3	A, D	D・Fの上をA	A	K・F			N	L	波状口縁 波頂部にK(赤色顔料付着)	VIIb
945	A i-7	A, D	A	A	貝殻腹縁によるO・M・F			K	I	波状口縁 スス付着(口縁部外面)	VIIb
946	A j-7	A, D	FのヒをA,F	A	ヘラ状工具によるM			U・一部V	V・一部U	波状口縁 スス付着(口縁部外面)	VIIb
947	A b-8	B,Dの上をB	A,Dのヒを	A	O・E・F			I	I	波状口縁	VIIb
948	A h-7	A, D	A	A	K			N・L	O	波状口縁 スス付着(口縁部外面)	VIIb
949	E	A,Dのヒを	A	A	G・F・M		O	N	R	波状口縁, 波頂部にO スス付着(口縁部内面)	VIIb
950	E	Dの上をA	A	A	M・G		O	S	I	波状口縁, 波頂部にO	VIIb
951	A b-8	A,Fの上をA	D,Fの上をA	A	F・貝殻腹縁によるO			P	R・N	波状口縁	VIIb
952	E	B	Dの上をB	B	M・O			I・L	I	波状口縁	VIIb
953	A b-7	A, B	F	A, J	K			W	R	スス付着(口縁部外面) 波状口縁	VIIb
954	A j-5	Dの上をA	A	A	M			R	R・I	スス付着(口縁部外面)	VIIb
955	A j-6	D	D・F	A	M			W・R	W・R		VIIb
956	A j-5	B, D, F	F	A	K			I・N	I		VIIb
957	A b-8	B	Dの上をB	B	口縁腹縁によるO			I	I	スス付着(口縁部外面)	VIIb
958	A h-7	A	Dのヒを	A	K・F		G	B・M	B・M		VIIb

図面番号	地区名(遺構名)	調整			文様			色調		特徴	分類
		外器面	内器面	口唇部(底面)	外器面	内器面	口唇部	外器面	内器面		
959	A i-6	A・D	D	D	F・M・K			G	I		縄b
960	B h-31	D	A	A	K			R・N	I・G	スス付着(胴部外面)	縄b
961	B j-32	A,Bの上をA	Dの上をA	A	M・F			R・W	R		縄b
962	E	B	Fの上をA	B	K			N	I	スス付着(口縁部外面)	縄b
963	E	B,Dの上をB	Fの上をB	B	M・O・F			L	I・O		縄b
964	E b-8	B	B	A	板状工具による羽状のF			G	B		縄b
965	A j-7	A・B	A	A	F・K			R・W	R		縄b
966	A i-7	D, F	D	A	F・K			L	R		縄b
967	B h-31	B・D・F	D・F	B	短いF・K			I・G	I・B	波状口縁	縄b
968	E	B	D・F	B	K			R	V	波状口縁、貼付突帯スス付着(口縁部内面)	縄b
969	B i-33	A	Fの上をA,Dの上をA	A	O・F	F		V	U・L	波状口縁	縄b
970	B i-32	D・Fの上をA	D	—	F			I・L	R	波状口縁、波頂部にF	縄b
971	B g-33	B,Dの上をA	D, A・Z	A	K			N	G		縄b
972	E	Dの上をB	D・F	D・一部B	K			II・M	I		縄b
973	E	Dの上をB	Dの上を一部B	A	K			I	I	スス付着(口縁部内面)	縄b
974	E	B,Dの上をA	B,Dの上をA,B・ナナメのA	B	K			U	U		縄b
975	E	Dの上をA,Dの上をB,FをA	Dの上をA	A・Z	O・F・K			P・I	H・I		縄b
976	E・Db-8	Dの上をA,Dの上をB,Dの上をナナメのA	Dの上をB,Dの上を強いA	Dの上をB	一段のナナメのK			I・R	I・II	スス付着(胴部外面、一部胴部内面)	縄b
977	E	Dの上をB	B・F,Dの上をB・J	A	K			G	I		縄b
978	B h-33	A	A	A	K・短いF			I・G	G・I	波状口縁	縄b
979	E	B, D	F細いB,D	B	O・短いF・M・K			I	N	波状口縁スス付着(口縁部内面)	縄b
980	E・Db-8	A	Dの上をB	A	M, O・F,O			I	I	波状口縁、波頂部直下の突起の上下に穿孔、突起にO	縄b
981	E	Dの上をB,B, D	Fの上をA,粗いA, D	D	M・O・FK			G	I	波状口縁スス付着(口縁部内面)	縄b
982	E	Dの上をB	Fの上をA	Dの上をB	K			P	U	波状口縁	縄b
983	A b-8	D・A・B	D・F	D	K・O・深いF			U	R		縄c
984	A b-8	D,Fの上をナナメのA	Dの上をA	Dの上をA	K・E・O			N	N	スス付着(口縁部～胴部外面)	縄c
985	A i-4	A・B	B	B	E・M・O			L	I・H	スス付着(口縁部内面)	縄c
986	A	Dの上をA,B	B,Dの上をA	A	K・M			I・N	I		縄c
987	A c-9	B	Dの上をA	A	深いG・M・K			G	I		縄c
988	A a-7	B	Dの上をA	A	G・F・K			I	I・L	スス付着(口縁部外面)	縄c
989	B	D・A	D・F	A	K深いE・F			I・N	I・H	スス付着(胴部外面)	縄c
990	B e-33	A,Dの上をA	A	A	F			I	I		縄c
991	E	Dの上をB	Fの上をA	B	M・O・K・深いF			I	I		縄c
992	B g-33	A,Dの上をA	A	A	O・K・F			R・N	I・R		縄c
993	E	D・Fの上をA, A	Dの上をA	B	深いG・K・M			I	R	スス付着(口縁部～胴部…外面)	縄c
994	B h-32	Dの上をA,Z	D, Z	Z	M			N	I	スス付着(口縁部外面)	縄c
995	A i-7	A	A・板状のものによるA	A	O・F			I・エ	H・K	薄くスス付着(口縁部外面)波状口縁	縄c
996	A i-2	Dの上をA, D, A	A,一部工具を使ってのB	A	M・貝殻腹縁によるO・F・ヘラ状工具によるO			I・II	I	波状口縁、波頂部にヘラ状工具によるO	縄c
997	B g-32	A, D	D・J	A	K・O・F			R	R・J	波状口縁	縄c

図面番号	地区名（遺構名）	調整 外器面	調整 内器面	調整 口唇部（底面）	文様 外器面	文様 内器面	文様 口唇部	色調 外器面	色調 内器面	特徴	分類
998	E	D・Fの上をB	Dの上をB・J	B	ヘラ状工具によるM・F			I・W	I・N	波状口縁	Ⅷc
999	B g-30	B，F	Dの上をA,A	B	ヘラ状工具によるM・F			I	I	波状口縁	Ⅷc
1000	B j-30	A,Dの上をA	Dの上をA	A	K，O・E			I	I・H		Ⅷc
1001	E	Dの上をA	A，F	A	K			R・N	R	波状口縁	Ⅷc
1002	A i-7	F，A	B，一部D	B	F			ウ	H	波状口縁	Ⅷc
1003	E	Dの上をB，Fの上をB	Dの上をB	粗いB	K			G	G	波状口縁	Ⅷc
1004	E	B,Dの上をB	Fの上をB	B	K，O・F，ヨコのK			U	U	波状口縁 ススイ付着（口縁部外面）	Ⅷc
1005	A i-3	A,Dの上をA	A,Dの上をA	A	F・K			V	N	波状口縁	Ⅷc
1006	A b-8	B,Dの上をA	B	B	K・短いG・O・F			I	I	波状口縁 ススイ付着（胴部外面）	Ⅷc
1007	A j-6	A，F，D	D・F	A	深いE・K			N・エ	I	波状口縁	Ⅷc
1008	B j-31	Dの上をA	Dの上をA	A	K・F			I	I	波状口縁	Ⅷc
1009	B g-32	B	B,Dの上をナナメのA	B	K・O・F			G・N	I	波状口縁	Ⅷc
1010	B g-33	B，A	Z	Z	F			N	G	波状口縁	Ⅷc
1011	E	Dの上をA，D，B	粗いB，Dの上をB	A	M・O・短いE・K			I	I	波状口縁 ススイ付着（口縁部外面）	Ⅷc
1012	A	D	D・F	B	K			R・L	R	ススイ付着（口縁部・胴部外面）	Ⅷd
1013	B f-35	Dの上をA	Dの上をA	A	K			R	G・N		Ⅷd
1014	A b-8	Dの上をA	A,Dの上をA	A	K			N	I	波状口縁	Ⅷd
1015	E	B	B	B	K			V	U	波状口縁 ススイ付着（口縁部胴部外面）	Ⅷd
1016	A h-5	A・B	B,波状工具によるB	A	K			G	K	波状口縁	Ⅷd
1017	A i-4	Dの上をA	D・Fの上をA	Dの上をA	K・M・G			I	I・H	波状口縁	Ⅷd
1018	B c-32	D・Fの上をA	F	D	K			J・P	P	波状口縁	Ⅷd
1019	B	Fの上を一部A	Fの上を一部A	A	K			U	U	波状口縁	Ⅷd
1020	B e-33	D，A	F	—	短いG・K			I・R	I・O	波状口縁	Ⅷd
1021	B c-8	B	D・Fの上をA	A	短いG・K			R・L	R	波状口縁	Ⅷd
1022	E	Dの上をA	Dの上をA		短いG・K			I	I	波状口縁	Ⅷd
1023	D b-8	D・Fの上をB	Fの上をB	B	短いG・K			I	I	波状口縁	Ⅷd
1024	E	Dの上をA	Dの上をA	B	K			G	I	波状口縁	Ⅷd
1025	E	Dの上をA,F	D・F	Dの上をA	K			U・V	R	ススイ付着（口縁部～胴部…外面）	Ⅷa
1026	A i-3	B	粗いA	Z	K			N	R	口縁部に突起	Ⅷa
1027	A c-8	D	B	B	K			I	I・H		Ⅷb
1028	E	Fの上をB	Dの上をB	A	K			U	R	ススイ付着（口縁部外面）	Ⅷb
1029	E	Dの上をB	Dの上をA,B,ナナメのA	B	K			N	I・N	ススイ付着（口縁部～胴部…外面）	Ⅷb
1030	B e-32	A・D・F	ナナメのA，D，F	A	K			S・N	R・N		Ⅷb
1031	E	Dの上をB，Fの上をナナメのA	Fの上を短いB，Fの上をナナメA	B	K			R・L	X		Ⅷb
1032	E	Dのあと A，Fのあと A	F	B	K			I・U	R	波状口縁	Ⅷa
1033	A	D・F	Fの上をA	D	K			K	I・L	波状口縁	Ⅷb
1034	B	B	B・A	B	K			U・W	R・I	波状口縁	Ⅷa
1035	E	Dの上をA	Fの上をB	B	短いG，K			I	I・G	波状口縁	Ⅷa
1036	E	Dの上をB	D・Fの上をB	B	K			R・S	I・G	波状口縁	Ⅷa

図面番号	地区名（遺構名）	調整 外器面	調整 内器面	調整 口唇部（底面）	文様 外器面	文様 内器面	文様 口唇部	色調 外器面	色調 内器面	特徴	分類
1037	E	D・FのあとA	DのあとA	A	K			G・I	R・W	波状口縁	種a
1038	E	D	B	B	K			D	K	波状口縁	種b
1039	E	D・FのあとB	D	B	K			I・W	I・W	波状口縁	種b
1040	A j-3	D・Fの上をA	D	A	K			R	I	口縁部にコブ状の突起	種b
1041	B h-32	B・D	D	B	F・K			L・R	I	口縁部にコブ状の突起	種b
1042	E	B	B	B	K		I	H	I・G	口縁部に突起、その下にリボン状貼付文・突起上は押圧	種b
1043	A c-9	A，D	A，D	A	K・O・焼いE			G	I	波状口縁、スス付着（胴部外面）	種b
1044	D a-8 b-8	D，F	A	B	K			I	I	両面から穿孔上、口縁部にコブ状突起、突起上は押圧 スス付着（胴部 内面）	種b
1045	B g-31	A	Dの上をA，A・J	A	K			R・N	V	スス付着（胴部 外面）	種b
1046	A i-4	B，D	粗い B・J，D	B	K			G・V	I・V		種b
1047	E	Dの上をB	D・Fの上をB	Dの上をB	K			N・I	N・I		種b
1048	E	D・F	Dの上をA	B	K			U	R・W	スス付着（胴部 内面）	種b
1049	B e-33	D，B	D	B	K・F			N・I	G		種b
1050	E	Dの上をA	Dの上をA，Fの上をA	A，Dの上をA	K			G	I	スス付着（胴部 外面）	種b
1051	A c-9	D，F	D・F	D	K			I・K	G・K	スス付着（胴部 内面）	種b
1052	E	Dの上をB	D，A？	B	K			U	U	スス付着（胴部 外面）	種b
1053	A c-8	Dの上をA	D・F，J	A	K			R	N		種b
1054	E	Dの上をA	D一部B・J	B，Dの上をB	K・F			I	I		種b
1055	E	B	B	B	F・貝殻腹縁によるO			L	M		種b
1056	B i-31	B，A	D	B	K			I	I		種b
1057	E	B	B，D・Fの上をA？	B	貝殻腹縁によるO			濃いU・明るいU	濃いU・明るいU		種b
1058	A i-8	A	B	B	F・K・O			N	N		種b
1059	A i-3	A	A	A	貝殻腹縁によるO		F	P	I	波状口縁 波頂部に短いFスス付着（口縁部外面）波頂部上位にG	種b
1060	B k-30	B・D	D	D	K・深いG			I・N	U	波状口縁 波頂部にのみG スス付着（胴部～胴部…内面）	種b
1061	A i-3	A	D	A	K			I	I・L	口縁部に突起、突起上部に貝殻腹縁によるO	種b
1062	A i-4	D・F	D	A	K			N	R		種b
1063	A	A	D・F	B	K			N	H		種b
1064	E	Fの上をA？	D・F	B	K			N	I	スス付着（口縁部～胴部…外面）	種b
1065	E	B	Fの上をナナメのA	D	K			I	I		種b
1066	E	Fの上をナナメのA？	Dの上をB	B	K			I	I・J	スス付着（口縁部～胴部…外面）	種b
1067	E	D，Bの上をD	D・Fの上をB，Dの上をA	B	K			I・G	I		種b
1068	E	B，Dの上をA	D・F，B	B	K			P	P		種b
1069	E	B，Dの上をB・ナナメのA	Dの上をB	B	K			G	I		種b
1070	E	Dの上をA，D・Fの上をA	B，板状工具で粗いB	B	K			R	N		種b
1071	E	Fの上をA	D・Fの上をB	B	K			I	I		種b
1072	B f-31	B，A	A	A	K			O	I		種b
1073	E	D・F	Fの上をナナメのA	B	K			N・I	I・H	口縁部に突起らしいものがあるスス付着（口縁部外面）	種b
1074	A i-2	A	B	A	K			Z・H	K	スス付着（口縁部両面）	種b
1075	D b-8	B・一部F	D・Fの上を一部B	A	K		一部Q	N・I	Y・L		種b
1076	E	Dの上をB	D・F・強いB	B	K			G・N	I	波状口縁	種b

図面番号	地区名(遺構名)	調整 外器面	調整 内器面	調整 口唇部(底面)	文様 外器面	文様 内器面	文様 口唇部	色調 外器面	色調 内器面	特徴	分類
1077	A b-8	A	Dの上をA	Dの上をA	K			H	H	波状口縁	Ⅷ b
1078	B j-30	G	G	Z	C・G			O	O	赤色顔料付着(口縁部外面)	Ⅸ
1079	A j-3	A	A	A	深いE		C・E・O	J	J・M	スス付着(口縁部外面) 波状口縁、波頂部にO	Ⅸ
1080	E	B	B	B	C・深いE		C・深いE	W	U		Ⅸ a
1081	D a-5	B	G ?	B	E・C		深いE・C	カ	G		Ⅸ a
1082	E	G	Bの上をG	G	C・E		一部にG	V	Z		Ⅸ a
1083	E	B	B	—	C・E			薄めのV	淡いP		Ⅸ a
1084	E	B・G・粗いG	G・H	G	C			A・イ	イ		Ⅸ
1085	A i-8	A	B	B	C・E			O	O・X・N	スス付着(胴部上半外面)、突起 橋状把手(C・E深いE)(C・O深いG)	Ⅸ a
1086	E	B?・G?	B	B?	F			G	L		Ⅸ a
1087	A j-4	G	G	G	C・E			N	O・V	橋状把手(C・E)、 突起(C・短いE)	Ⅸ a
1088	A g-8	A	A	A	E・F			G	H	橋状把手(E・F)	Ⅸ a
1089	E	A・B	C	B	C・G		CのH・M	濃いP	濃いP	橋状把手の剥離痕、 文様の集約部にCのH	Ⅸ a
1090	B ℓ-31	A・B	Z	—	G・C			O	O		Ⅸ a
1091	E	G	G	—	C・E			G・K	V		Ⅸ a
1092	B j-30	G	Dの上をA	B	G・C		G・O	N	O	赤色顔料付着(口縁～胴部…外面)	Ⅸ b
1093	B k-31	G	G	G	C・G		G	M・K	M		Ⅸ b
1094	B h-33	A	A	—	C・F			T	R・N		Ⅸ b
1095	A c-8	丁寧なA	丁寧なA	丁寧なA	C・G		F	H	H		Ⅸ c
1096	D b-8	丁寧なB	G	G	F・G	G	G	G・I	L	波状口縁、波頂部にG	Ⅸ c
1097	D a-7	B	B	B	O・G		G	I	I		Ⅸ c
1098	E	G	G	G	G・貝殻腹縁によるD			M	H		Ⅸ b
1099	D b-8	G	G	G	G・貝殻腹縁によるD			イ	イ		Ⅸ a
1100	B n-30	丁寧なB	A・B	B	C・A			L・B	B・K	口縁部にコブ状の突起(GG) 1101と同一個体か	Ⅸ c
1101	E	G	G	G	A・C			K	K		Ⅸ c
1102	E	B・G	B	B	—		M	Z	Z		Ⅸ c
1103	E	G	G	G	—		C?	Z	T		Ⅸ
1104	B	G	G	—	—			L	O		Ⅸ
1105	B	G	H	—	—			L	O		Ⅸ
1106	E	B	B・J	B	H・連続短沈線文		J・G	O	M	波状口縁、波頂部にコブ状のH,Hの上にJとG,その下のHにO スス付着(口縁部～胴部…外面)	Ⅸ
1107	E	G	G	G	C	C・G		イ	イ		Ⅸ
1108	E	G・B	G,ナナメの磨き	—	G・雑な貝殻D			V	濃いV	スス付着(口縁部外面)	Ⅸ
1109	E	H・G	H・G・ナナメのヘラ磨き	—	G・雑な貝殻D			K	K	スス付着(胴部上半部内面)	Ⅸ
1110	D a-7	G	G	—	G・M			R	R		Ⅸ
1111	B	Z	Dの上をていねいなA	Z	E・C			O	L	波状口縁?	Ⅸ
1112	E	B	B	B	J			R	R	波状口縁	Ⅸ
1113	E	B	B・ナナメのA	B	I			I	R		Ⅸ
1114	A	B・ナナメのA	A	—	C・E			N	V		Ⅸ
1115	A	G	G	—	E・C?			L	L	炭化物付着(内面)	Ⅸ
1116	D b-7	B	B・丁寧なB	B	F・M		M	R・Q	I	口縁部に山形の突起(推定6ケ所)	Ⅸ

図面	地区名	調整			文様			色調		特徴	分類
番号	(遺構名)	外器面	内器面	口唇部(底面)	外器面	内器面	口縁部	外器面	内器面		
1117	E	G・H	G	G	巻貝による連続P		巻貝による連続Q	濃いP	淡いP	同部の連続Pは、巻貝先端の折れたものか	Ⅸ
1118	E	D・F	Dの上をA	—	—		P	C	F	スス付着（口縁部内面）	Ⅹ
1119	E	ナナメのA	D・F	A	—		貝殻腹縁の連続Q	L	N		Ⅹ
1120	D b-8	Fの上をB	Fの上をB,B	A	M			H・K	A・Z	スス付着（口縁部外面）	Ⅹ
1121	D b-8	Dの上をB	B,ナナメA	B	—		貝殻腹縁によるI	I	L・P		Ⅹ
1122	A b-7	B・一部D	Fの上をB	A	K		F	I	I		Ⅹ
1123	D b-8	B	Fの上をA	A	K			P	I	スス付着（口縁部外面）	Ⅹ
1124	E	B	D・Fの上をB・ナナメA	B	—		貝殻腹縁によるI	N	R・N	スス付着（口縁部外面）	Ⅹ
1125	E	B	B	F	M		貝殻腹縁によるQ	H	H		Ⅹ
1126	A	A	B	A	深いG・M			O	H		Ⅹ
1127	A e-7	A	A	A	G		ヘラ状工具によるG	H	B		Ⅹ
1128	A i-8	Dの上をA	B	B	G		I	G	I		Ⅹ
1129	A b-8	A	A	A	F		F,連続J	G	H		Ⅹ
1130	A	B,ナナメのA	B	B	G・M			A	H		Ⅹ
1131	A i-7	A	B	A	O		P	W	N		Ⅹ
1132	A i-2	B	B	B	F・M			O	N	波状口縁、金雲母	Ⅷb
1133	A	A	D・A	A	O・深いG			C・M	C・M	波状口縁,波頂部下位に突起	Ⅹ
1134	E	B	B	B	M,O・G			R	I	スス付着（口縁部外面）	Ⅹ
1135	E	A,Dの上をB	B・Z・B	B	K・F			N・X	O	波状口縁 スス付着（口縁部外面）	Ⅹ
1136	B m-31	A	B・Fの上をA	A	M, G, O			I	R		Ⅹ
1137	A i-7	D	D	A	F・K		連続P	G	H		Ⅹ
1138	A j-6	A・一部D	B	A	F・K			I	I・C		Ⅹ
1139	E	粗いB	D	粗いB	深いG・M, M		M	O	L		Ⅹ
1140	E	粗いB	丁寧なB・一部D	—	K, 深いG・M			N	R		Ⅹ
1141	A b-8	A	Dの上をA	A	F・M		F	R・U	N		Ⅹ
1142	A a-7	D・F	D・Fの上をA	A	Q,O・深いG	I, O・G		I	カ	波状口縁	Ⅹ
1143	E	D・Fの上をA	Dの上をA Fの上をナナメのA	B	ヘラ状工具によるM・G・K・O		G	N・L	R		Ⅹ
1144	D b-8	B	ナナメのA	A	M・F			G	H		Ⅹ
1145	A i-7	Dの上をA	B	Z	M			I	W		Ⅹ
1146	A b-8	A・F	A・B	A	O・F, M			U	R・N		Ⅹ
1147	A a-7	D	D	A	タテ筋のF		連続I	N	O	薄くスス付着（口縁部内面）	Ⅹ
1148	E	B	B・D	A	G・B			イ・C	C		Ⅹ
1149	E	B・丁寧なA・D	Dの上をA	B	ヘラ状工具によるM, G			I	I	波状口縁	Ⅹ
1150	E	D・B	B・D	A	G・K			R	I	波状口縁 スス付着（口縁部外面）	Ⅹ
1151	D b-8	B	Dの上をB	B	K			N	I・N	口縁部に突起	Ⅹ
1152	A h-7	A,ナナメのA	D・F, Dの上をA	A	K			I	H		Ⅹ
1153	E	B	B	B	P突帯		I	O・X	P	スス付着(口縁部外面・一部内面) 1154とともに個化著しい。同一個体の可能性もある。	Ⅹ
1154	E	B, タテのA	B・一部G	B・Z	P突帯		連続I	N・U	P		Ⅹ
1155	E	A	A・B・Dの上をA	A	O・F			I	I	橋状把手 スス付着（口縁部両面）	Ⅹ

図面番号	地区名(遺構名)	調整 外器面	調整 内器面	調整 口唇部(底面)	文様 外器面	文様 内器面	文様 口唇部	色調 外器面	色調 内器面	特徴	分類
1156	A j-2	Z	A・D	Z	F・只殻腹縁によるO			O・I	H・N	横状把手、その上にK、口縁部に突起、その内面側に只殻腹縁O、一部ススト付着(口縁部外面)	X
1157	E	A	A	—	E・H・J連続Q透し3ケ所			N	R	滑石含む、耳状H,その縁にJ中央は透し、耳状Hの両側にも透し	X
1158	E	B,ナナメのA	B	(B)	—			H・L	H・I		XI
1159	A i-7	F	B	(網代底)	—			H	M	ススト付着(口縁部内面)	XI
1160	A i-7	E	F	(A)	—			I	I・H		XI
1161	A i-7	A	D・F	B	—			G	L		XI
1162	A i-7	D・Fの上をA	Dの上をA	B	—			E	G		XI
1163	B	A・E	D,Fの上をA	A	—			E・B	A		XI
1164	E	D・Fの上をB	B・F	B	—			R・N	I・R		XI
1165	E	Dの上をB・他はB	D・Fの上をA	B	—			R・N	N・G		XI
1166	A a-7	A	A	A (A)	—			I	N	波状口縁	VIII a
1167	A i-6	D,Jの上をA,F,J,A	A・D・F	D (A)	—			G・V	O・K	波状口縁 ススト付着(口縁部~底部外面)	VIII a
1168	B e-32	D・F	ナナメのA・B	A	K			R	N	波状口縁	X
1169	A h-8	D・Fの上をA	D・Fの上をB・ナナメのA	A	—			S	S	波状口縁 ススト付着(口縁部外面)	XI
1170	E	D・Fの上を一部B	D・Fの上をB・ナナメのA	Dの上をB	—			X	R	波状口縁	XI
1171	E	B,ナナメのA	B,ナナメのA	B	—			I・N	R	波状口縁 ススト付着(胴部内面)	XI
1172	E	D,F,Dの上をB,B,A	D・F	A	—			B・K	ケ	波状口縁、波頂部に貝殻腹縁のQ、ススト付着(口縁~胴部…外面)	XI
1173	A h-8	A	Dの上をA	A	—			I	I	両面から穿孔I	VIII b
1174	B f-33	A	A	A	—			N	W	ススト付着(口縁部内面) 突帯あり	VIII c
1175	B g-32	Dの上をA	D	Dの上をA	—			N	R		VIII c
1176	B g-33	A,D・Fの上をA	A	A	—			R・L	R		VIII b
1177	A j-6	B	B,Dの上をB	B	—			N	I.	ススト付着(口縁部 外面)	VIII b
1178	E	Dの上をA	Dの上をB	Dの上をB	—			O	I・L	ススト付着(胴部 外面)	XI
1179	B j-31	Dの上をB,D・Fの上をB	Dの上をB,Fの上をB	A	—			O・V	H・K	波状口縁	VIII c
1180	E	D,F	D,Dの上をB,B	B	—			B・G	B・G	波状口縁	VIII c
1181	A i-2	D,F	D	B	—			X・ア・O	S・X	波状口縁	VIII b
1182	A i-7	B	D・Fの上をA	B	E			G	I	波状口縁	XI
1183	A j-5	D・E	Dのあと磨A	A				I・N	I	波状口縁、波頂部に孤状の突帯	XI
1184	A j-3	A	A・F	A				N	N	波状口縁、波頂部にコブ状H ススト付着(口縁部)	XI
1185	A	A,Dの上をA	A,Dの上をA	A				N	エ	波状口縁、波頂部にリボン状突起、Pリボン状突起の下にF・その下に突起	XI
1186	A i-4	B,Fの上をB	B,Jの上をB	B	深いE			R・K	R	波状口縁	XI
1187	B	ナナメのA	A,D	A				I・ア・P	I・ア・P	波状口縁、把手	XI
1188	A h-4	A	A・J	A				I	R	波状口縁、脚台外面にG、脚付の色調は、外I,内G,隅丸長方形の透し3	脚台付浅鉢
1189	A e-6	A	A	—	F			A	B	円形の透し4	〃
1190	A g-6	B,A	ナナメのA	A				N	O	(浅鉢) ススト付着(口縁部外面内面)	〃
1191	A h-4	削りの後A	削りの後A	A		F		R	X	(浅鉢)	〃

図面番号	地区名（遺構名）	調整			文様			色調		特徴	分類
		外器面	内器面	口縁部（底面）	外器面	内器面	口縁部	外器面	内器面		
1192	A i−3	B	B	B	F・O	P・O		G	I	（浅鉢）波状口縁，波頂部にP	脚台付浅鉢
1193	A h−5	Z	G	−		G		I	N	（〃）	〃
1194	A k−31	A	A・Z	Z		深いG・F	G	R	N	（〃）1195と同一個体・「S」字状H	〃
1195	B ℓ−32	A	A	A		深いG・F		N	R	（〃）「S」字状H	〃
1196	A j−4	A	A	A・F		P・F		I	I・O	（〃）P突帯	〃
1197	A h−4	A	A	A	Q			P	R	（〃）	〃
1198	A e−7	A	A	A		F・H・竹管によるM		ケ	ケ・K	（〃）P貼付突帯	〃
1199	A e−9	A	Dの上をB	A	H・G・竹管によるM			A	Z	（〃）Mのある貼付突帯	〃
1200	B k−30	A	雑なA	A	G		G	B	H	（浅鉢）波状に波底部にG（脚台）一条の突帯とG	〃
1201	B e−32	B	B	（B・A）	F			G・L	L・G	（脚台）	〃
1202	B i−30	B・A	B	B				I	I	（浅鉢）波状口縁、波頂部コブ状突起4カ所、内2カ所に器面から穿孔（脚台）連続Jの突帯3条、横長楕円透し4個、縦長楕円透し2個	〃
1203	A	A	A	脚端部（A）	K，F・G			R	N	（脚台）半欠の透し1個	〃
1204	A a−7	A	A	脚端部（A）	竹管状工具によるO			B	B	（〃）透し2カ所以上	〃
1205	A c−9	A	A	脚端部（A）	短いG，連続J			B	M	（〃）透し2カ所以上、内外二重の透し、2段の脚台脚端部に穴、赤色顔料付着	〃
1206	A b−8	A	Z	脚端部（A）	G・M			B・Q	I	（〃）	〃
1207	A e−9	B	A	脚端部（A）	M			S	O・I	（脚台）	脚台付浅鉢
1208	A e−9	A	B	脚端部（A）	F			I・R	U	（〃）	〃
1209	A e−9	A	A	脚端部（A）	G			R	N	（〃）	〃
1210	A e−9	A	B	脚端部（A）	短いF			G・L	I	（〃）	〃
1211	A h−7	B	A	脚端部（A）				C・H	H	（〃）半完形透し	〃
1212	A e−9	A	A	脚端部（A）	F			C・H	H		〃
1213	A e−9	A	A	脚端部（A）	M			B	L	（脚台）	〃
1214	A e−7	A	A	脚端部（A）	F			G	G	（〃）	〃
1215	B f−32	A	A	A			G	I	I・O	（浅鉢）貼付の剥離痕がある	〃
1216	B ℓ−32	A	Dの上をA	A	G			L	G	（〃）	〃
1217	B h−30	A・B	A	脚端部（B）				I	O	（脚台）	〃
1218	B	A	Z	脚端部（A）	O			I・C	I・C	（〃）透し2カ所以上	〃
1219	B ℓ−31	G	B・A・J	脚端部（A）	O・G			R・L	R・L	（〃）	〃
1220	E	A・B	B・粗いB	B	G・H	G		I	I	（浅鉢）外面に貼付突帯文，波状口縁	〃
1221	E	B	A・B	A	M			I	I	（〃）波状口縁，波頂部にO	〃
1222	E	B	B	B				I	I	（〃）	〃
1223	E	タテのA，J	A・B・ナナメのA	脚端部（Z）				I	I	（脚台）	〃
1224	D a−6	タテA	A・B	脚端部（B）				B	B	（〃）透し2カ所以上	〃
1225	A j−3	F	A	（網代底）				C・ウ	B		底部
1226	A j−2	A・F	A	（網代底）				P・G	S		〃

図面番号	地区名(遺構名)	調整			文様			色調		特徴	分類
		外器面	内器面	口唇部(底面)	外器面	内器面	口縁部	外器面	内器面		
1227	D a-7	粗いA	A	(木の葉底)				I	I.		底部
1228	A i-8	A	A	(網代底)				C	C		〃
1229	B e-32	A	A・B	(Z)				I	I		〃
1230	B i-30	F	A・一部D	(A)				I	カ	白色物付着(底部外面) スス付着(底部内面)	〃
1231	B	F	A・B	(A)				I	I	白色物付着(底部外面)	〃
1232	B ℓ-30	J.A.粗いB.丁寧なA.J.ナナメの A.B.ナナメA		(Z)				I	I・N	スス付着(胴部外面)	〃
1233	B h-31	F	A	(網代底)				H	H		〃
1234	B h-30	Fの上をA	A	(網代底)				H	H		〃
1235	B ℓ 32	E	F	(網代底)				I	R	スス付着(底部外面)	〃
1236	B	B	タテのA	(網代底)				R	R・N		〃
1237	D a-8	E	A	(網代底)				R	R		〃
1238	D	A	A	(木の葉底)				I	I		〃
1239	E	B	A	(木の葉底)				H・M	H		〃
1240	E	E・B	B	(網代底)				N	R・O	白色物付着(底部外面)	〃
1241	E	Eの上をナナメのA	ナナメのA.B	(網代底)				B	H		〃
1242	A i-7	E	A	(網代底)				H	H		〃
1243	D c-8	E	A	(網代底)				ウ	ウ		〃
1244	A i-6	Fの上をA	A・J	(木の葉底)				C	C		〃
1245	A i-7	F	A	(網代底)				I	G		底部
1246	A	B	条痕	(木の葉底)				I・L	I		〃
1247	A i-7	A	A・J	(網代底)				C	B		〃
1248	A i-7	E	A・J	(A)				H・I	II・K		〃
1249	D b-8	E	A	(網代底)				J	B		〃
1250	D b-7	A	A	(木の葉底)				B	II		〃
1251	B m-33	E・F	A	(木の葉底)				B	M		〃
1252	B i-31	A	A	(網代底)				G	I		〃
1253	B m-30	A	A	(網代底)				I	I		〃
1254	B ℓ 32	Eの上をB	A	(網代底)				B	A		〃
1255	B m 31	A	A	(A)	へうによるF			G	V	赤色顔料付着(内面)	〃

A地区　遠　景（北から）

A地区　SA1

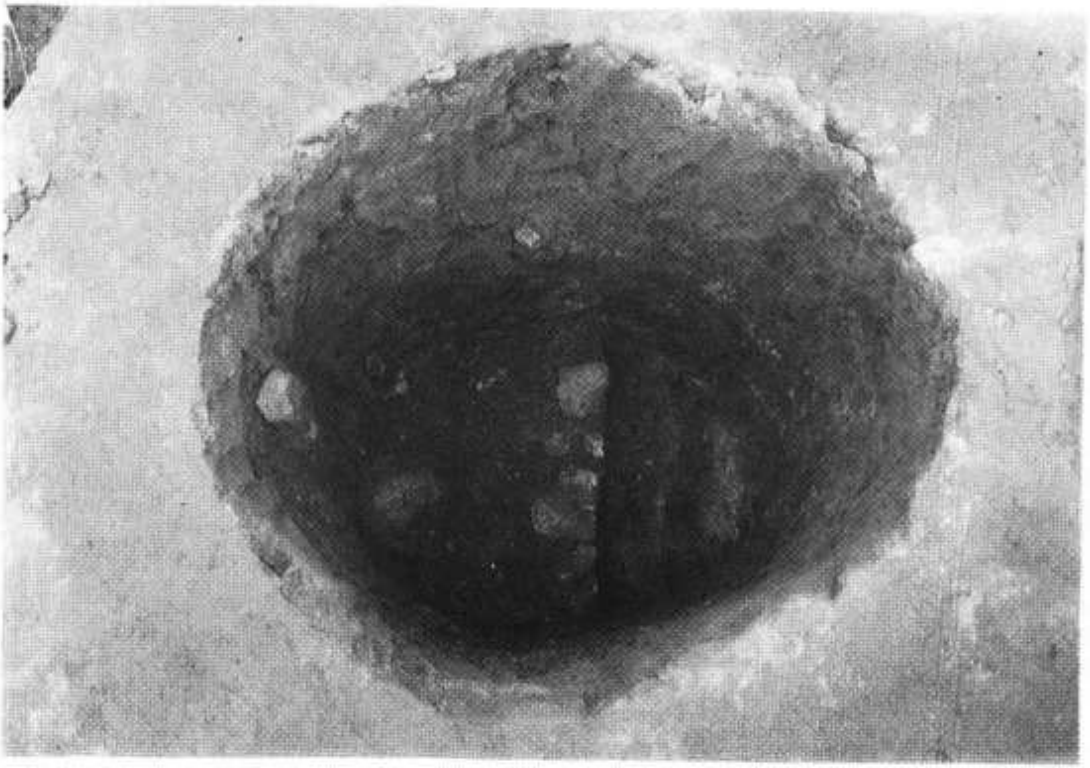
図版2

A地区　SA2

A地区　SA3　遺物出土状況

図版3

A地区　SA3

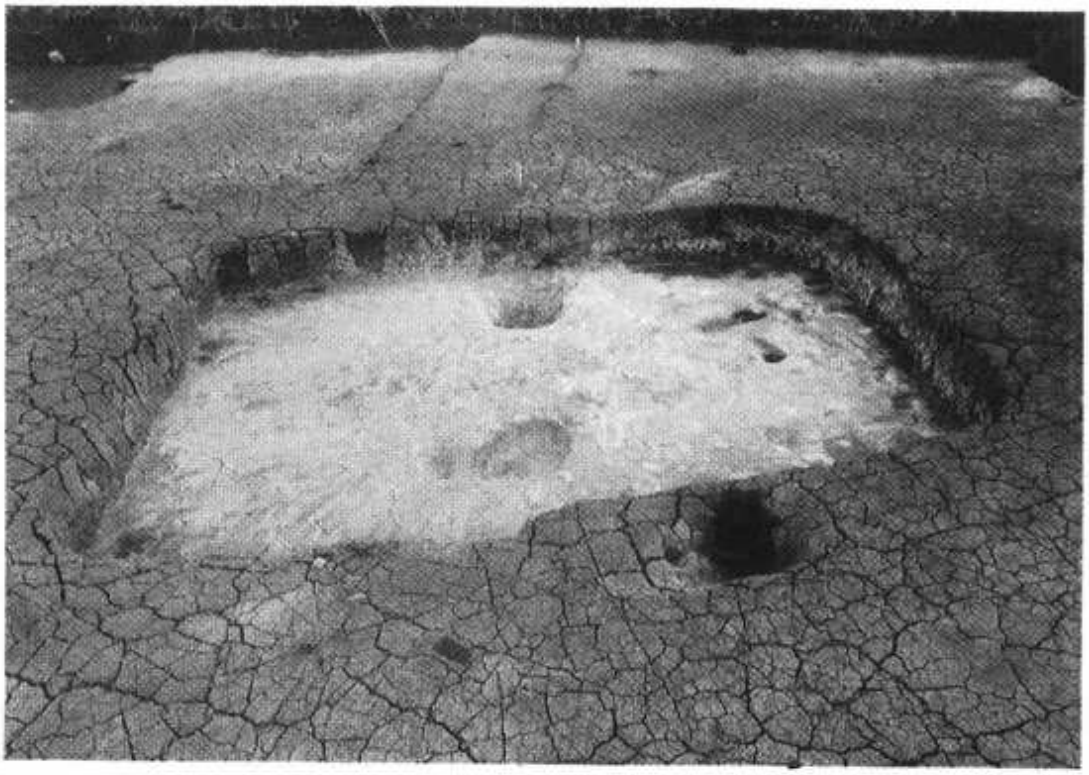


A地区　SC15

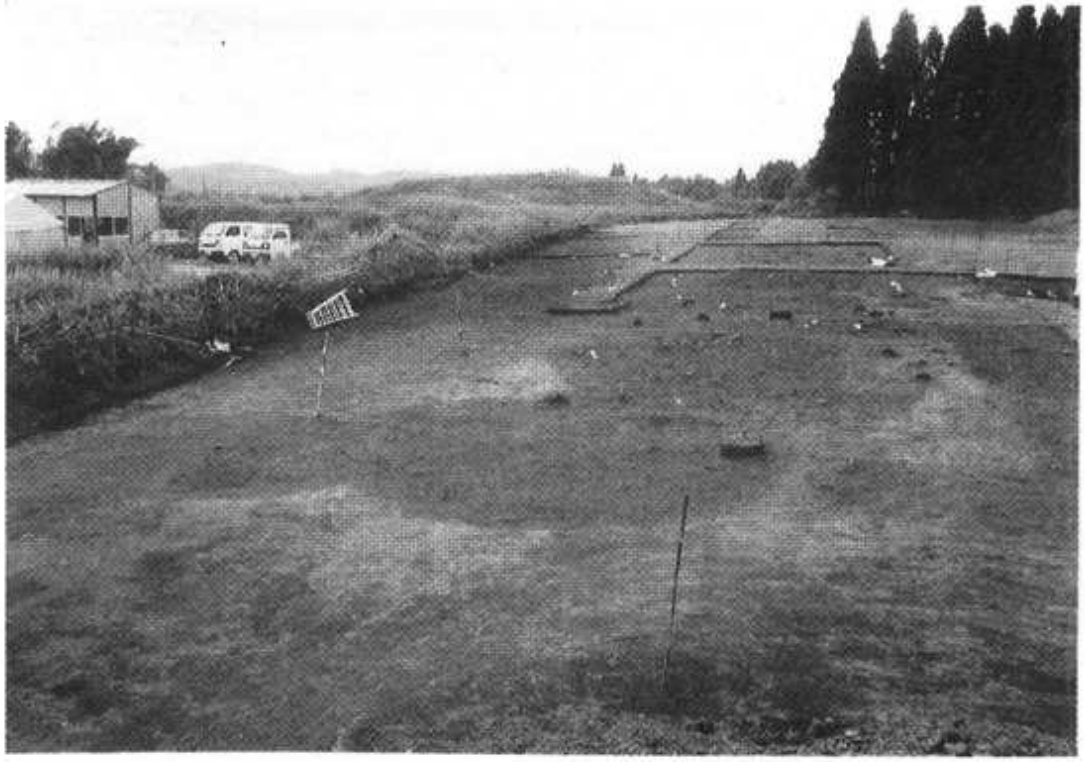
図版4

A地区　SI 3

A地区　i-8 グリッド 遺物出土状況

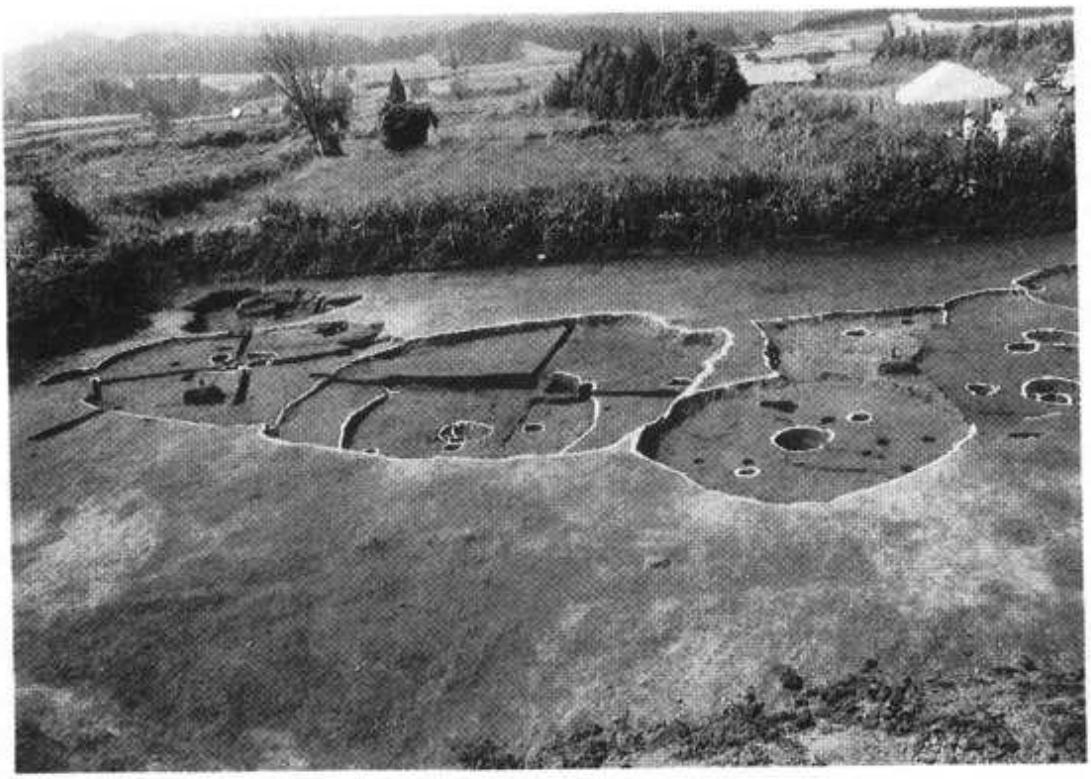


A地区　SA1（弥生）



B地区　竪穴住居検出状況（南から）

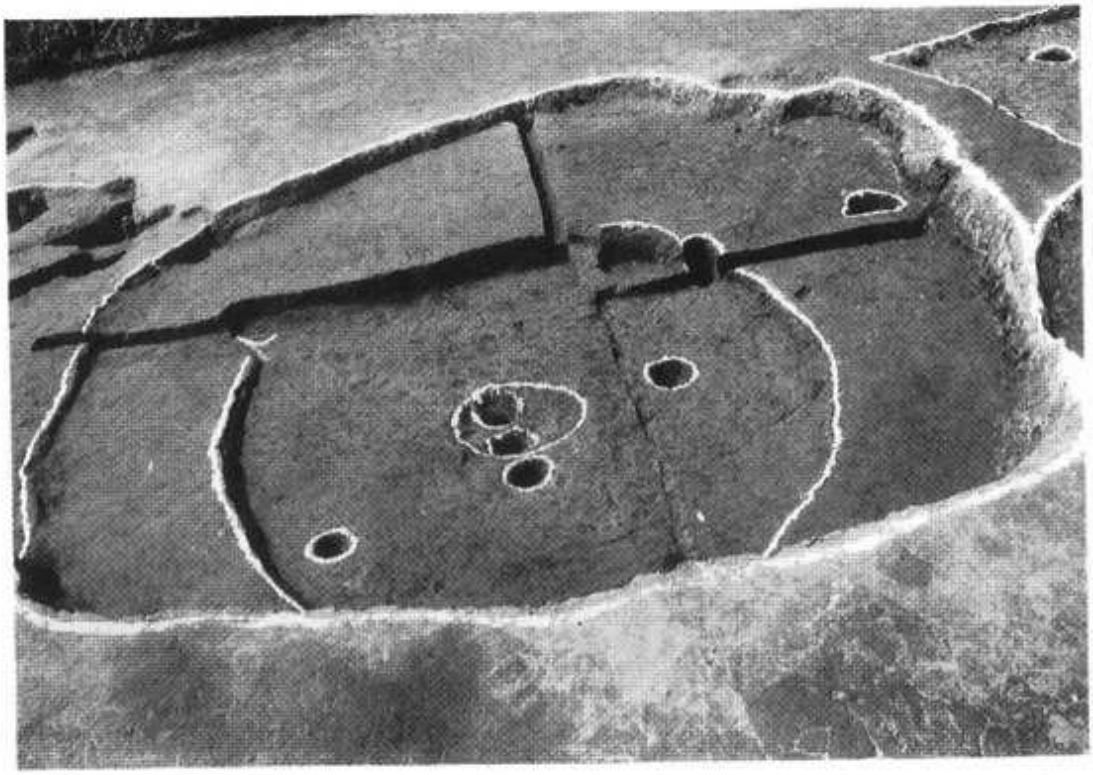
図版6



B地区　竪穴住居群(東から)

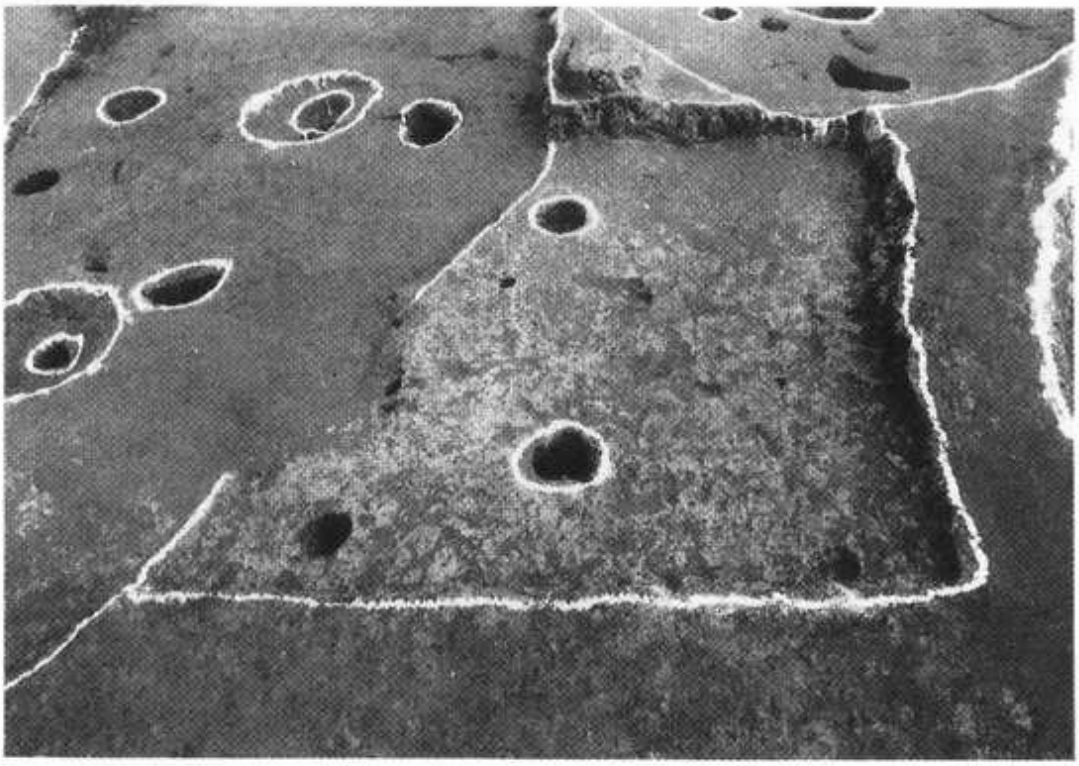
B地区　竪穴住居群(東から)

B地区　SA2

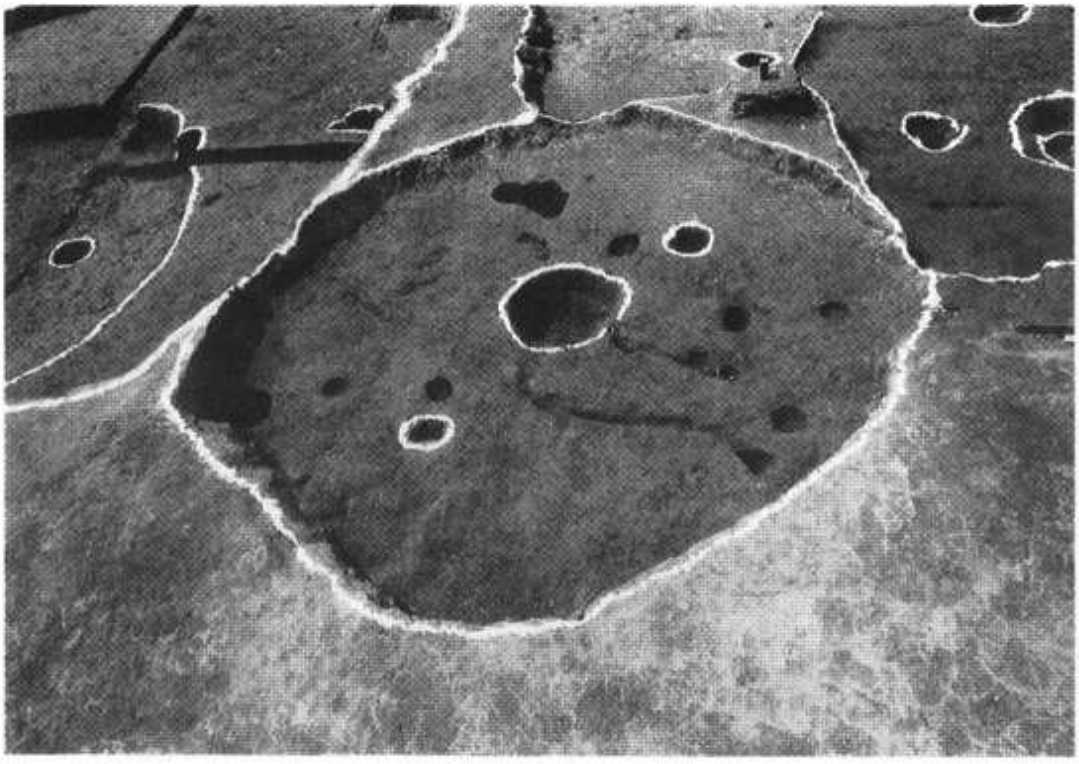


B地区　SA3

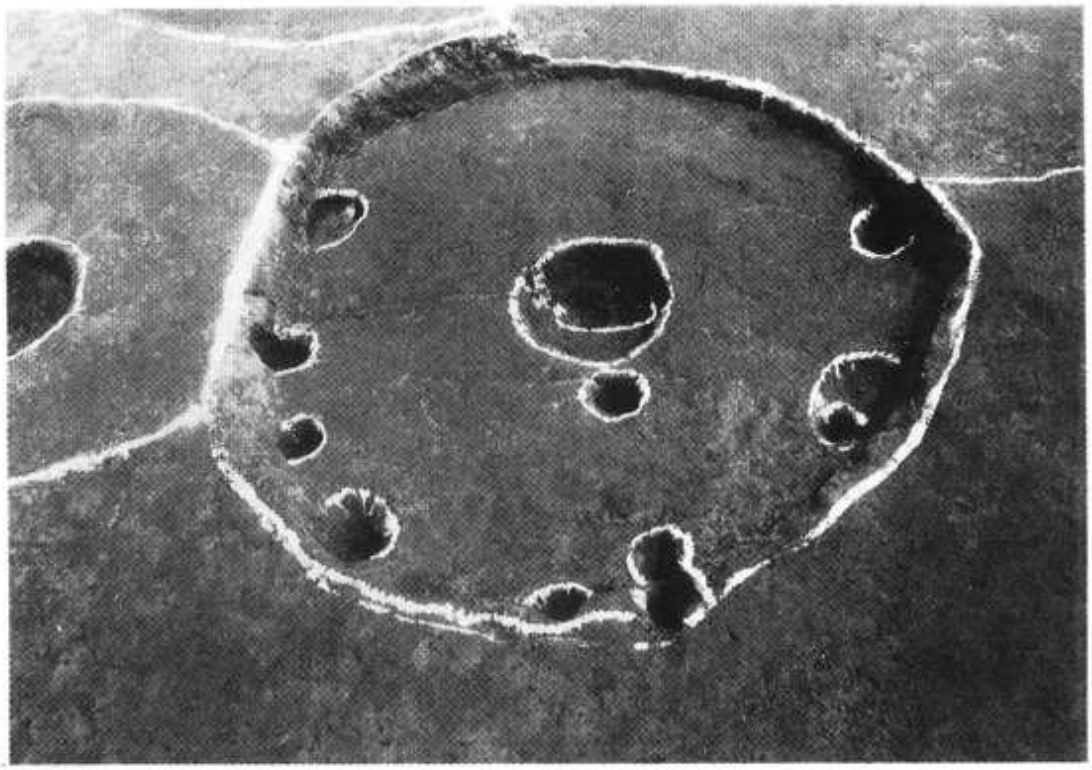
図版8



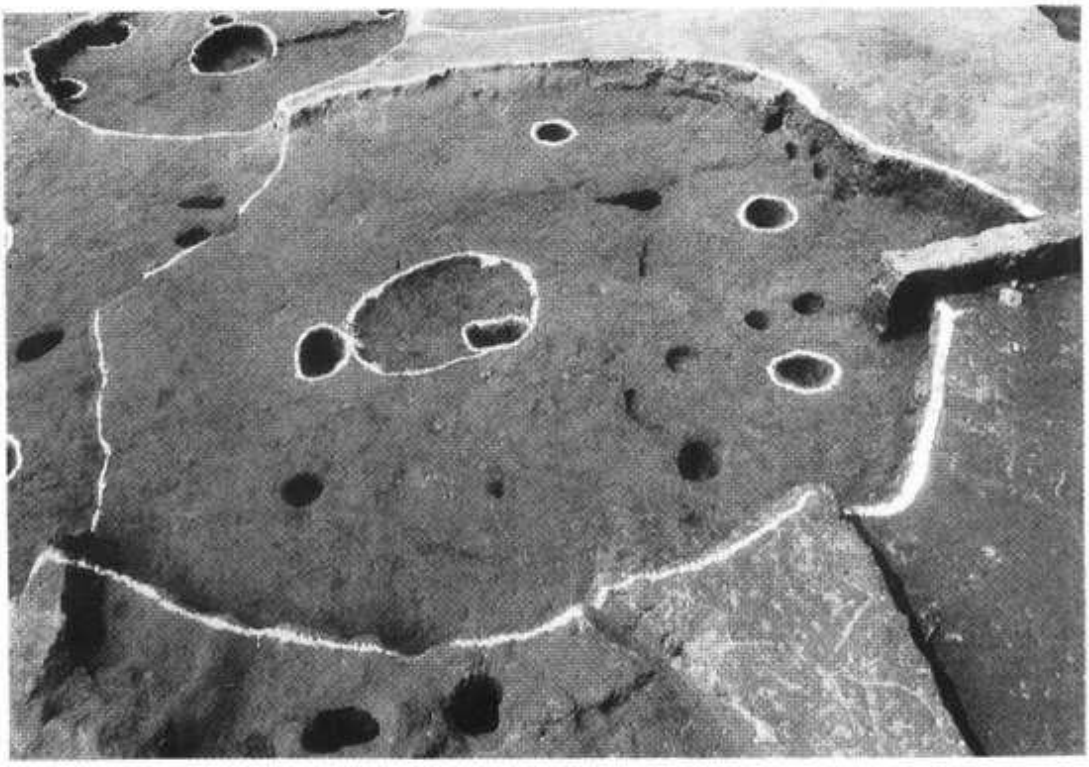
B地区　SA4



B地区　SA5

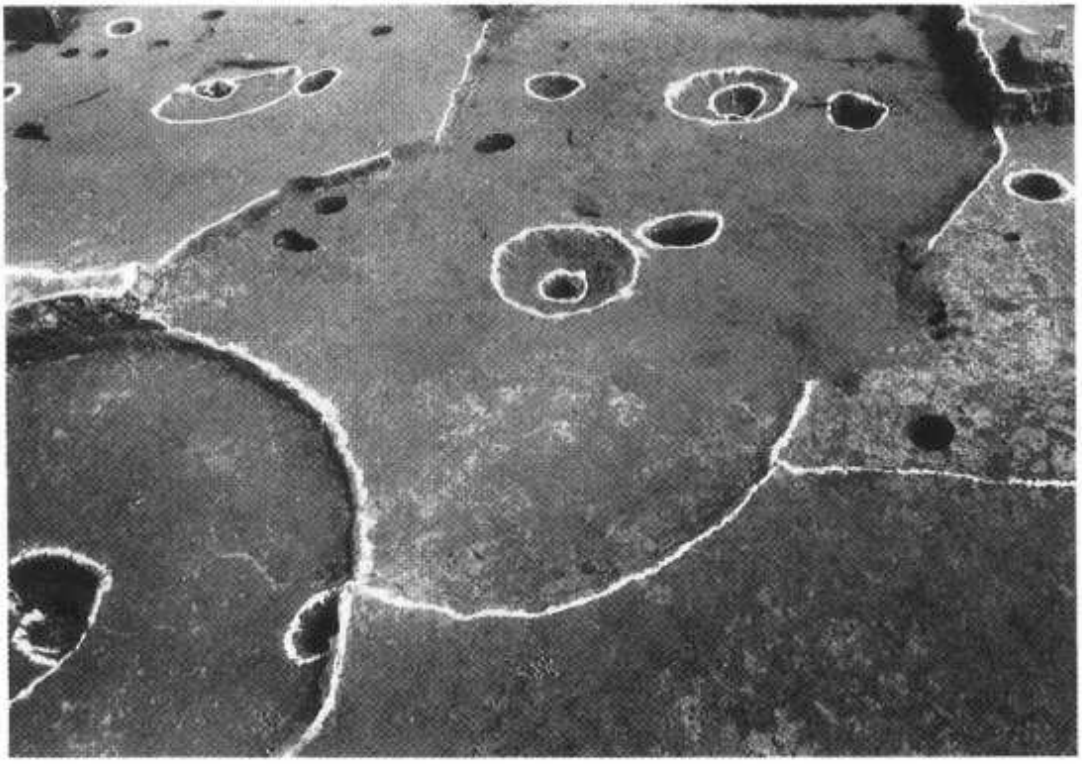


B地区　SA7

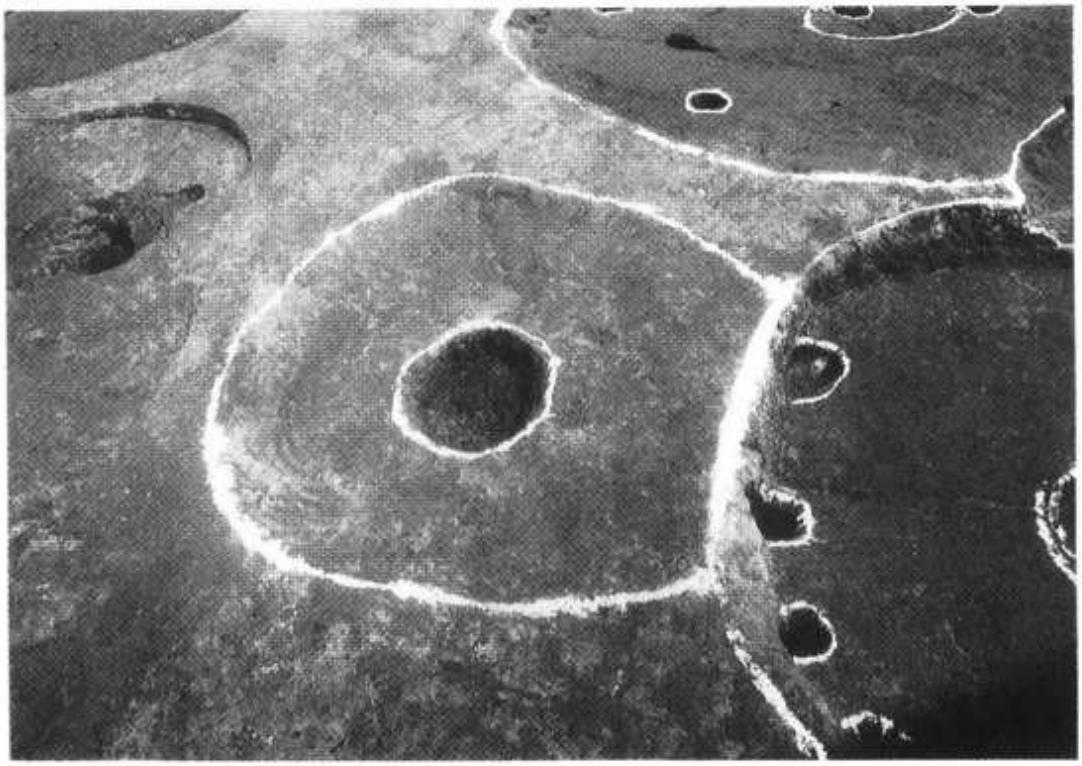


B地区　SA8

図版10



B地区　SA9



B地区　SA10